

(仮称)北山文化圏センター整備基本計画策定業務

【報告書】

令和5(2023)年3月

沖縄県 今帰仁村

目次

序章	1
1. 業務の目的	1
2. 計画対象地	1
3. 上位・関連計画	3
4. 過去の計画にみる中央公民館と村民センター地区	11
5. (仮称)北山文化圏センター整備の意義	16
(1)地域資源としての魅力	16
(2)新たな魅力創出	17
第Ⅰ章 前提条件の整理	19
1. 北部地域の概要	19
2. 北山文化圏とは	19
3. 今帰仁村の概況	21
(1)現状・課題	21
(2)人口・世帯数の推移	22
(3)産業	25
(4)所得	28
(5)土地利用	29
(6)道路・交通	32
4. 対象地の概要	35
(1)自然環境	35
(2)土地利用	38
5. 対象となる公共施設の概要	45
(1)対象施設	45
(2)各施設の概要	46
第2章 ニーズ調査	58
1. 関係機関ヒアリング	58
(1)庁内関係部署	58
(2)村内関係機関	59
(3)有識者(象設計集団)	60
2. シンポジウムの開催	61
(1)開催概要	61
(2)有識者の提言	62
(3)アンケート結果	64
3. 事例調査	67
第3章 全体コンセプト及び基本方針	72
1. (仮称)北山文化圏センターの形成へ	72
(1)「北山文化圏」を土台とする歴史的背景	72
(2)村民文化センターの実現へ	74

(3) 現在のくらしの課題解決の場へ.....	76
(4) 新時代の“北山文化の拠点”づくりへ.....	78
2. 全体コンセプト及び基本方針.....	79
(1) 全体コンセプト.....	79
(2) くらしのニーズに関わる 6つの「つなぐ」.....	79
(3) (仮称)北山文化圏センターの位置づけ.....	80
3. ゾーニング.....	81
(1) 6つの「つなぐ」と必要機能.....	81
(2) ゾーニング.....	82
4. 全体整備計画.....	91
(1) 計画課題について.....	91
(2) 機能配置計画.....	92
第4章 ゾーン別整備計画.....	97
1. ゾーン別計画・個別施設計画.....	97
(1) コミュニティ交流ゾーン.....	97
(2) 健康・教育・子育てゾーン.....	100
(3) 自然ふれあいゾーン.....	102
(4) 産業連携ゾーン.....	104
(5) 全体的ネットワーク.....	106
2. 概算事業費.....	108
第5章 事業化推進計画.....	110
1. 管理・運営体制.....	110
2. サポーター組織の組成.....	111
3. 事業化スケジュール.....	112
4. 今後の課題のまとめ.....	113
参考資料.....	115
1. 今帰仁村中央公民館耐震診断(1次診断)結果.....	115
2. 今帰仁村中央公民館劣化調査.....	117
3. 今帰仁村コミュニティセンター劣化調査.....	118

序章

1. 業務の目的

今帰仁村は、琉球三山時代の「北山」の拠点として歴史文化の薫り高い村である。地域の伝統芸能も各地に残り、「北山の風(演技集団)」など歴史文化を活かした新たな取り組みも生まれている。また、海、山、川など優れた自然環境は沖縄北部の魅力の色濃く残している。

一方で、周辺に海洋博公園や古宇利島、今帰仁城跡等観光資源が多く存在し、観光客の往来はあるものの、それらの地域資源を活かせる観光拠点が無く、滞在や消費の機会を逃している。また、教育旅行民泊の受け入れも盛んであるが、大人数を受け入れる体験施設が無いことも受け入れの足枷となっている。

本業務は、今帰仁村役場周辺において、役場の新築に伴う公共施設の再編や既存施設の有効活用を含め、一帯を今帰仁村の魅力を活かした交流拠点としての利活用に向け、整備計画を策定するものである。

2. 計画対象地

(1)今帰仁村の位置

今帰仁村は、沖縄本島北部、本部半島の北東部に位置し、那覇市から北へ約 85km の距離にある。東から東南部にかけては名護市、南西部から西は本部町、北は東シナ海に面し、北東約 1.5km には古宇利島がある。面積は、本島部 36.74 km²、離島部 3.13 km²、合わせて 39.87 km² である。村の南側は、乙羽岳(標高約 275m)を中心に、山並みがほぼ東西に延びている。その山麓から北及び東に向かって緩傾斜地～平坦地となって、耕作地や集落が広がっている。



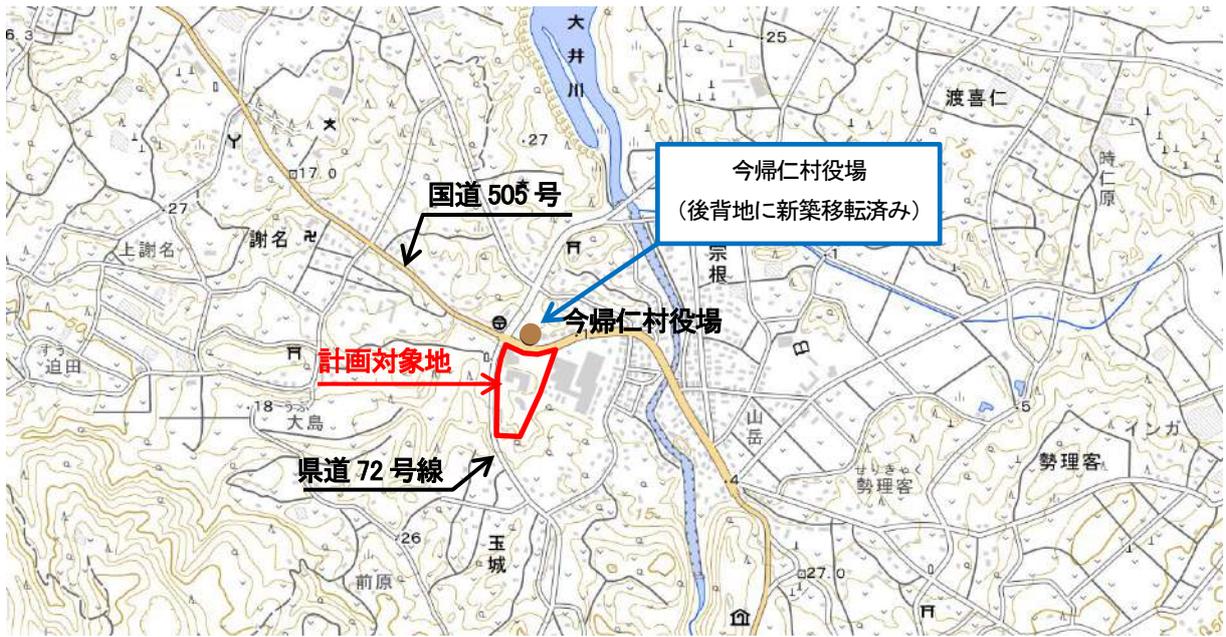
(2)計画対象地

計画対象地は今帰仁村のほぼ中央部に立地する今帰仁村役場の向かい側にあつて、広域幹線の国道 505 号と県道 72 号線の交差点に面するエリアで、今帰仁村中央公民館や今帰仁村コミュニティセンター、今帰仁村保健センター、今帰仁の駅そーれなど公共施設が集積している。

令和 5 年 1 月より村役場の新築移転に伴い、公共施設の再編が必要となっている。

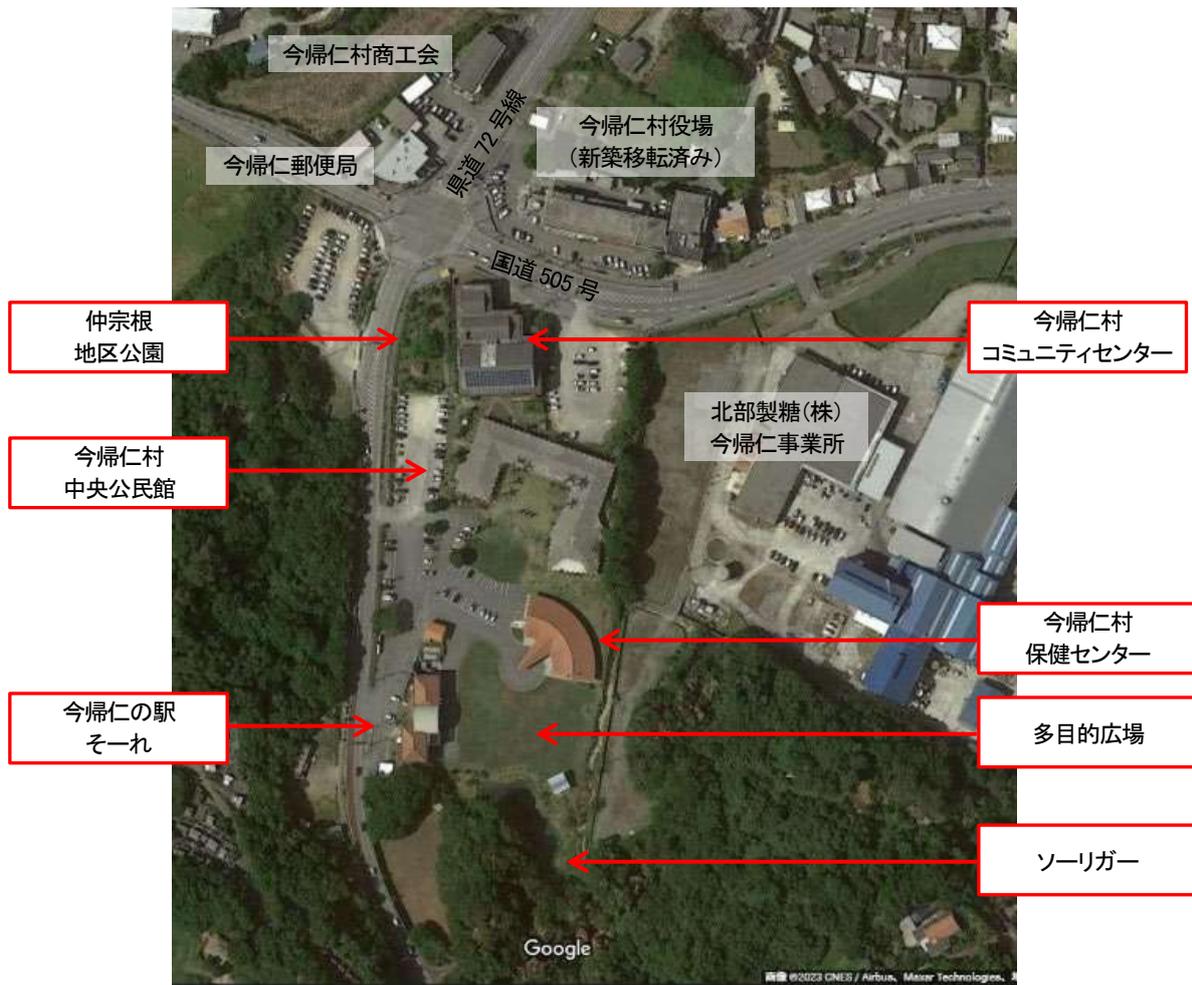


図 対象地エリア周辺図



出典: 国土地理院地図を一部加工

図 計画対象地拡大図



出典: googlemap を一部加工

3. 上位・関連計画

①今帰仁村第5次総合計画(案) (令和4年10月) ※パブリックコメント時点

3-3. 将来のむらの構造

1. 基本的な考え方

乙羽岳や美しい海岸線、フキ屋敷林や松並木など本村の豊かな自然環境は「今帰仁らしさ」の根幹となるものであり、この豊かな自然環境を土台として農林水産業や観光業が発展していることから、本村の自然環境は村民の財産と言えます。一方、近年の観光需要の急速な伸びに伴い、古宇利島を中心に計画的でない土地利用や開発が進んでいます。自然環境の保全と開発のバランスをとり、村民の財産といえる自然環境を適切に維持・発展させながら次世代に引き続いていくことが必要です。

また、人口減少や高齢化が進むことが予測されるなかで、地域の活力の維持、コミュニティの維持、地域福祉の維持に向け、村民が住みやすい持続可能なむらを構築していくことが必要です。

このため、将来にわたり持続可能な今帰仁村の形成に向け、自然環境と調和した土地利用の推進、拠点と拠点、人と人を軸で結ぶつながりのある村の構造を目指し、これを「将来のむらの構造」として、以下に示します。

<将来のむらの構造>の構成>

①ゾーニング

集落・生活ゾーン		本村の主要な生活の場として、自然環境と調和しながら、村民の生活・コミュニティ・にぎわいの維持・向上を目指すゾーン
農業・田園ゾーン		農林水産業の振興を図るとともに、のどかで豊かな環境の維持・向上を目指すゾーン
自然環境保全ゾーン		森林・海岸等の自然環境の保全を目指すゾーン。また自然環境の保全を前提としながら、必要な範囲でリゾート・レクリエーションの土地利用を図るゾーン

②拠点

観光交流拠点		本村の観光交流の拠点として、観光交流機能の維持・集積を図り、にぎわいを創出する拠点
生活拠点		本村の生活の拠点として、行政機能、商業機能、交流機能等の維持・集積を図り、本村の生活を支える拠点
交通拠点		本村と伊原名島・伊平屋島への交通拠点
公民館		各々のコミュニティや福祉の拠点

③軸

観光交流軸		観光交流拠点を結ぶ軸として、道路交通や公共交通の維持・向上を図るとともに、本村への訪れやすさを感じることのできる軸
生活交流軸		日常生活を送る上で重要な生活や交流の軸として、道路交通や公共交通の維持・向上を図る軸

2. 将来の村の構造

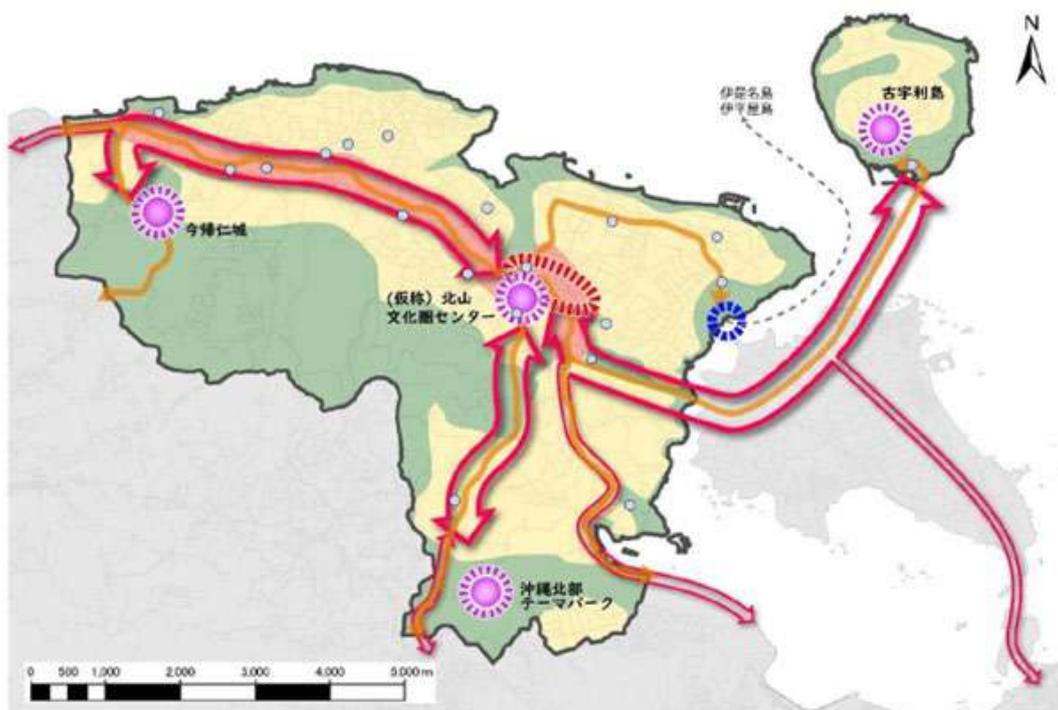
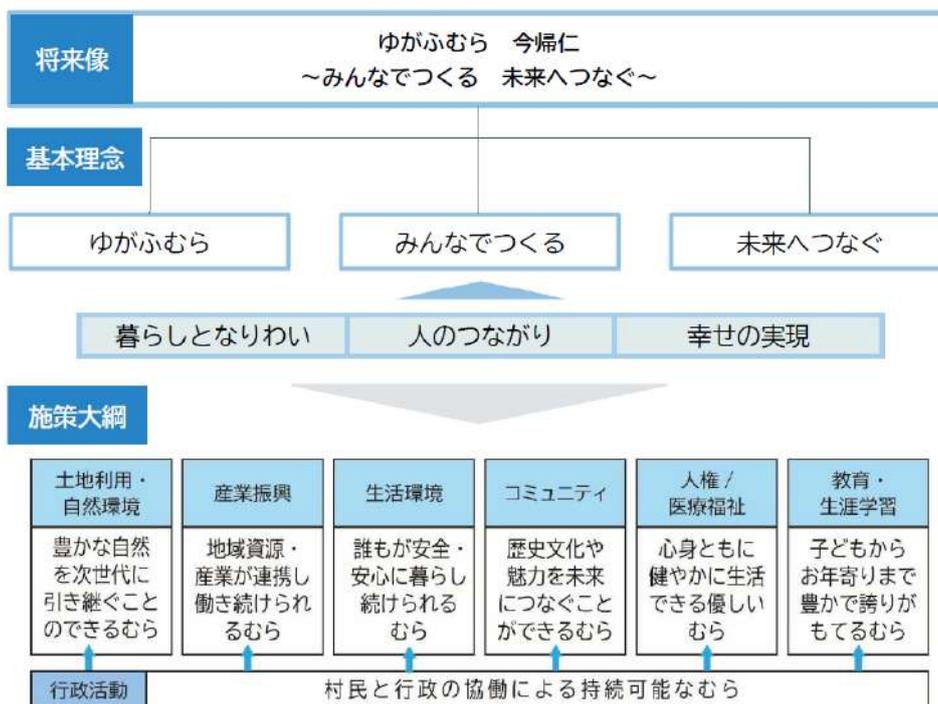


図 体系イメージ



4. 村の個性を活かした観光振興－（１）自然と歴史をつなぐ観光振興

【主要施策】

1) 観光振興に向けた環境整備－①観光ルートの明確化

世界遺産である今帰仁城跡を中核に、古宇利島や映画・ドラマのロケ地、現在建設が予定されているテーマパークや(仮称)北山文化圏センター等の新たな観光拠点を結び付けた周遊型観光が行えるよう、観光協会等と連携し、観光マップの作成・更新や観光ルートの明確化を行います。

前期計画における分野横断プロジェクト

■分野横断プロジェクト②

【新たな活力創出と村民生活の両立】

新たな拠点を契機とする活力の創出

① 村内観光資源の強化と産業振興

世界遺産今帰仁城跡や古宇利島を観光拠点として位置付け、現在村が持つ観光資源としての磨き上げに取り組みます。今後新設が検討されている(仮称)北山文化圏センターやテーマパークについては、関係機関と連携しながら新規観光需要の受け入れや雇用を創出する場として活用するとともに、既存事業者の経営基盤強化や起業への支援を行った上で、各観光拠点での村特産物のPR・販売を行います。また、観光客も村民も利用でき、各拠点が周遊可能となる新しい公共交通ネットワークの検討を進めることで、誰もが簡便に村内を移動することができる体制の構築を図ります。さらに、観光需要の高まりにより必要となる各種インフラの整備や、村内での雇用が増えることで必要となる企業・施設の誘致を行い、地域内での経済循環・産業振興を支援します。

②第三次今帰仁村観光リゾート振興計画

策定年	平成 31 (2019) 年3月
計画期間	平成 31 (2019) 年度～令和 10 (2028) 年度までの 10 年間 ※5年後の令和5(2023)年度に各施策の進捗確認とともに社会情勢の変化に応じて目標や施策など計画の見直しを行うものとする。
基本理念	自然と歴史とロマンに満ち躍動するむら
基本目標	1) 自然の摂理を学ぶ今帰仁 2) 歴史とロマン香る今帰仁 3) 若いも若きも躍動する今帰仁
施策	⑦農漁業との連携 ⑦-2. 今帰仁の駅そーれ、リカリカワルミの集客力強化 ・今帰仁の駅そーれやリカリカワルミでは古宇利島へ向かい通過する観光客に対して、集客力のあるイベント等開催し、PR 強化を図る。 【エリア:今帰仁の駅そーれ、リカリカワルミ】【推進主体:村、観光協会、商工会】
事業イメージ展開図	【今帰仁の駅そーれ】 ④ルール作りと観光客のマナー喚起 ⑦農漁業との連携 ⑧観光客向けの商品開発と事業者支援 ⑨多様化する観光客の受け入れ強化 ⑪今帰仁村の魅力が伝わる民間主催のイベント支援

図 実施イメージ展開図(第三次今帰仁村観光リゾート振興計画)



出典:第三次今帰仁村観光リゾート振興計画

③今帰仁村公共施設等総合管理計画【改訂】

策定年	初版:平成 29(2017)年3月、改訂:令和4(2022)年3月
計画期間	平成 29(2017)年度～令和 28(2046)年度までの 30 年間 ※状況に応じて随時見直し
基本方針	<p>(1)既存施設の活用</p> <p>既存施設の更新費用や過去 10 年の投資的経費を考慮し、原則として新規施設の整備を行わないこととします。社会情勢の変化により新規施設の整備が求められる場合や建替えが必要となった場合は、まず既存施設の有効利用(集約化、複合化、転用等)について検討します。用途廃止され行政サービスを提供していない施設については、積極的に民間事業者へ売買契約または賃貸借契約を行います。</p> <p>(2)長寿命化の方針</p> <p>一般的な建物の耐用年数は 60 年であり、長寿命化工事を実施することで 80 年まで長期使用することも可能となります。しかし、本村が所有する全施設について長寿命化を実施すると、財政面で大きな負担となります。そこで、長寿命化工事を実施する場合は、建替えた場合の LCC(ライフサイクルコスト)と比較し総合判断します。そのために、施設の長寿命化に繋がるよう適正な管理を行い、ライフサイクルコストの削減を図る観点で、「予防保全」の考え方による施設の点検・診断等を行い、計画的な維持管理・更新を検討します。また、インフラ施設についても、個別の長寿命化計画等に基づき、定期的な点検・診断結果による計画的な修繕・更新を検討します。</p>

第1節 村民文化系施設 【基準日:2020(令和2)年度末時点】

番号	名称	建物名	延床面積	建築年月日	築年数
1	今帰仁村中央公民館	公民館	779 m ²	1975/10/13	45 年
2	今帰仁村コミュニティセンター	コミュニティセンター	1,394 m ²	1984/6/5	36 年
現状と課題	<p>今帰仁村中央公民館は築 40 年以上経ち、コンクリート剥離が全体的にあります。金槌等で危険箇所を研っていますが、災害時の広域避難所となっているため、耐震化補強が必要です。今帰仁村コミュニティセンターは、老朽化により、電気系統の不具合や空調設備の不具合があります。浄化槽管理委託業者によると、浄化槽内に石灰が溜まっていることが予測され、トイレのつまりの原因にもなっています。</p>				
今後の方針	<p>施設の老朽化については、利用者の安全確保の観点から優先度に応じた耐震化・長寿命化工事を検討するほか、内部設備についても緊急性に応じた入れ替えを検討します。また、建替えや大規模改修を検討する際は、利用者の推移を踏まえながら適切な規模となるよう検討します。経常的な維持管理費についても、引き続き圧縮に努めるほか、施設の利用率向上・利用者数増加に向けた取組みを行うことで、利用料等自主財源のさらなる確保に努めます。</p>				

第4節 産業系施設 【基準日:2020(令和2)年度末時点】

番号	名称	建物名	延床面積	建築年月日	築年数
3	今帰仁の駅そーれ	そーれ(中山間事業施設)	350 m ²	1998/1/31	23年
9	今帰仁の駅そーれ	そーれ(商品開発施設)	70 m ²	2012/3/31	9年
11	今帰仁の駅そーれ	そーれ側トイレ	41 m ²	2014/1/20	7年
現状と課題	<p>基幹産業である産業振興において大きな役割を担っているものの、近年では施設の老朽化があり、大規模改修や長寿命化改修などの必要な時期が近づいています。産業系施設の活性化には農業・畜産・観光業などの振興が欠かせないことから、今後のあり方とさらなる活用方法の検討が課題となっています。</p>				
今後の方針	<p>施設の利用者数が季節によって差がある施設もあることから、年間を通じた利用者増に向けた取り組みを行うことで、利用料等自主財源の確保に努めます。老朽化が進んでいる施設に関しては、現状の利用度合いと今後の利用見込みを鑑みて適正な規模を検討し、優先順位をつけて老朽化対策・長寿命化に努めます。また、定期的な点検を実施することで、トータルコストの圧縮に努めます。</p>				

第7節 保健・福祉施設 【基準日:2020(令和2)年度末時点】

番号	名称	建物名	延床面積	建築年月日	築年数
1	今帰仁村保健センター	保健センター	510 m ²	1999/3/29	22年
現状と課題	<p>村民が利用するため、安全面のほか衛生面にも留意した運営を行っていますが、老朽化が進行しています。また、今帰仁村保健センターの利用者は、書類手続き等で庁舎まで往復する必要があるため、不便な状況となっています。</p>				
今後の方針	<p>利用者が今帰仁村保健センターと庁舎を往復する手間を改善するために、新庁舎建設時に新庁舎へ保健相談室を含めるなどの対策や機能移転を検討します。また、サービスの提供に支障をきたさない範囲で各種経費削減や委託の見直し等を検討します。</p>				

第14節 インフラ施設(その他) 【基準日:2020(令和2)年度末時点】

種別	名称
トンネル、貯水池等、公園、漁港・港湾、防火水槽	仲宗根地区公園含む32箇所
現状と課題	<p>日常生活を支える重要なライフラインであり、日常的に適切な形で維持管理されていることが求められますが、維持補修や長寿命化に要する費用を平準化させるとともに、工法の見直し等による費用そのものの削減も課題となっています。</p>
今後の方針	<p>日常点検や定期点検、異常時の点検を行いながら、同時に補修工事を実施する等、インフラの維持管理に努めます。</p>

④今帰仁村公共施設個別計画

策定年	令和3(2021)年3月
計画期間	2021年度～2046年度までの26年間 ※見直し期間:5年ごと
長寿命化の基本方針	鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数は、計画的な保全を実施すれば約100年以上の長寿命化も可能とされていますが、本村は塩害や台風の被害を受けやすいことから、躯体の健全性調査結果が良好な場合には、80年使用することを目指します。
施設改修・更新時の施設方針見直し	既存施設の更新(大規模改修、建替え)を行う場合には、施設の再編(多機能化・集約化、複合化など)や民間活用など活用方針の見直しを行うこととします。見直しにあたっては、必要に応じて、住民意見の聞き取りや民間提案制度を活用し、広く意見を募ります。

表 保全優先度の判定

施設名称	施設重要度	単位当たりのコスト	施設健全度	保全優先度
今帰仁村 コミュニティセンター	高	高	I (40点未満)	優先度①【長寿命化】
今帰仁村中央公民館	高	その他※	IV (60点以上)	優先度④【長寿命化】
今帰仁村 保健センター	中	高	IV (60点以上)	優先度⑤【長寿命化】
今帰仁の駅そーれ	中	その他※	IV (60点以上)	優先度⑤【長寿命化】

※利用人数またはコスト情報が把握できないため単位あたりのコストが測定できない施設

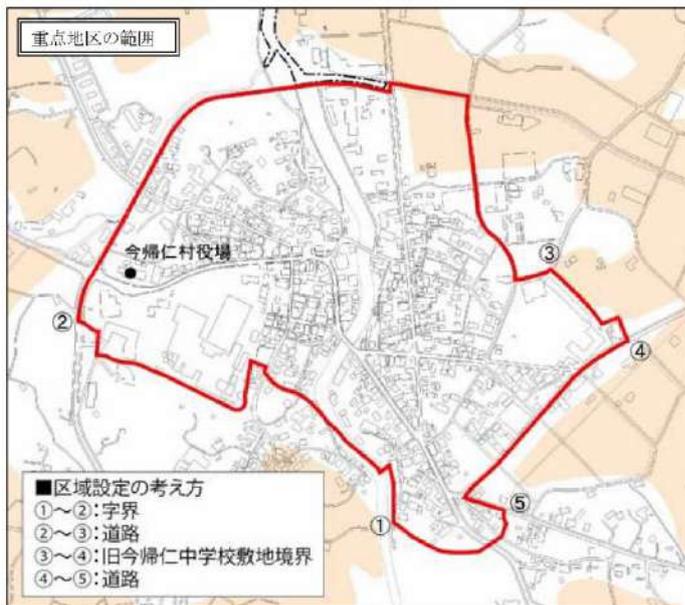
表 今後10年間の実施計画内訳 【基準日:2020(令和2)年度末時点】

施設名称	建物名称	延床面積(m ²)	築年数(年)	今後の方針	今後10年の更新費用合計(千円)	年度別更新費用概算(千円)	備考
今帰仁村 コミュニティセンター	コミュニティセンター	1,394	36	長寿命化	334,560	長寿命化改修 2028年:167,280 2029年:167,280	—
今帰仁村 中央公民館	公民館	779	45	長寿命化	186,888	各種調査 2022年 長寿命化改修 2026年:93,444 2027年:93,444	耐力度調査、耐震調査結果などにより、長寿命化改修が実施可能な場合、長寿命化改修を実施。
今帰仁の 駅そーれ	そーれ (中山間事業施設)	350	23	長寿命化	0	—	—
今帰仁の 駅そーれ	そーれ (商品開発施設)	70	9	修繕対応	0	—	—
今帰仁の 駅そーれ	そーれ側 トイレ	41	7	修繕対応	0	—	—
今帰仁村 保健センター	保健センター	510	22	長寿命化	45,936	大規模改修 2023年:45,936	—

⑤今帰仁村景観計画

策定年	平成 25 年3月
計画の目的	本計画は、本村における景観特性、本村が目指すべき「景観像」及び「景観形成に関する基本方針」等を示し、行政、事業者及び村民等の多様な主体が共通の景観形成のビジョンを有し、さらに、「良好な景観形成のための行為の制限」等を定めることにより、より実効性の高い景観形成を推進することを目的とします。
基本姿勢	今帰仁の自然と歴史と人々が織りなす景観の保全・継承・創造
ゾーン別景観形成の方針	<p>5) 中心市街地地域 方針:「今帰仁のマチらしい商業景観を育み、賑わいを創造します」</p> <p>【景観形成のための配慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の趣のある建築物を保全・活用する。 ・ 建築物は完成を境に時間と共に汚れ、劣化することから、経年と共に風情を感じさせる素材や適切なメンテナンスを推奨する。 ・ 建築物の形態・意匠は赤瓦や琉球石灰岩など地場産材を用いるなど、沖縄らしいまちなみ創出に配慮する。 ・ 外壁の色彩が景観に与える影響は大きいとため、基調となる色彩の基準を設けることを検討する。 ・ 緑の少ない市街地では、敷地ごとの緑化をいっそう推進することが望まれる。 ・ 沿道に花や緑を配置し、都市景観向上に寄与するよう誘導を図る。 ・ 親水性のある河川空間など、潤いある市街地形成が望まれる。
景観形成重点地区の方針	<p>⑩ 仲宗根市街地地区</p> <p>仲宗根市街地地区は、今帰仁村役場、今帰仁村コミュニティセンター等の公共施設や、商業・業務施設が集まる地区です。市街地のまち並みは、趣のある商店や売店などが、なつかしさを感じさせる空間を創出しています。また、本村の主要道路である国道 505 号が現在整備中であり、今後、新たな賑わい空間としての景観形成が期待されます。したがって、昔ながらの市街地景観を残しながら、産業振興や雇用促進等による活性化を図るなど、今帰仁らしい市街地としての景観を形成します。</p>

図 景観形成重点地区の範囲 ⑩仲宗根市街地地区



※区域境界に係る道路・河川等は区域に含めるものとします。

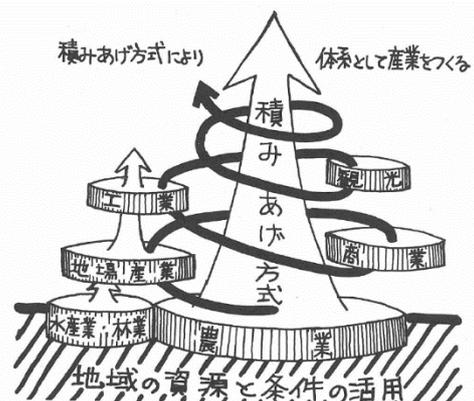
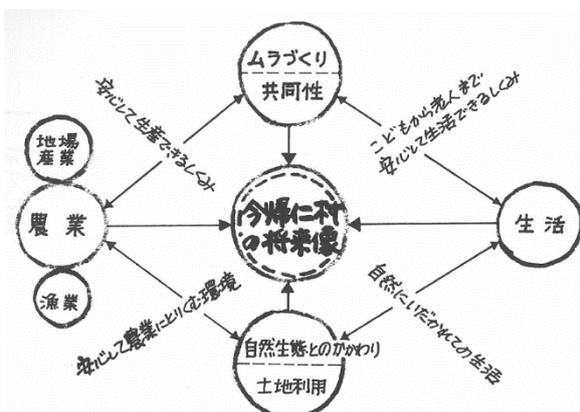
⑥令和2年度～6年度 今帰仁村教育主要施策

策定年	令和2(2020)年
計画期間	令和2(2020)年度～令和6(2024)年度までの5年間
教育目標	<p>《教育理念》 今帰仁村教育委員会は、教育基本法に示された人間尊重の精神、個性の尊重を基本とし、さらに、「公共の精神」や「伝統と文化の創造」を目指し、生涯学習の観点に立って、郷土の自然と文化に誇りを持ち、自主性・創造性・国際性に富む人材の育成と文化・スポーツの振興を期す。」との理念に立ち、次のことを目標に教育施策を推進する。</p> <p>《学校教育》 自ら学ぶ意欲と態度を育て(主体的)、学力の向上を目指すとともに、将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会やグローバル化が進展する社会に対応できる力を培うために、豊かな心と生きる力を育み、自らの個性を生かし、他者を尊重し、他者とのコミュニケーションを通して社会の変化に主体的に対応できる能力や創造性を持つ、子供たちを育成する。</p> <p>《村民教育》 郷土の自然と文化を愛し、平和で安らぎと活力ある社会の建設に貢献する創造性・国際性に富む「豊かな心でたくましく生きる村民」を育成する。</p> <p>《生涯学習》 学校・家庭・地域社会の相互連携のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会を推進する。</p>
施策	<p>I 生涯学習の充実</p> <p>2. 村民の学習ニーズに応える学習機会の拡充</p> <p>① 社会教育施設(中央公民館、村営体育館、歴史文化センター、各字公民館、コミュニティセンター)を活用して、少年団体・PTA・老人会等を支援し、活動の充実に努める。</p> <p>② 新たな視点からの公民館講座、体験講座、生涯学習研修を充実させ、村民への周知と機会を提供する。</p> <p>《主な事業等》(1) 公民館講座の充実</p> <p>VI 社会教育の充実</p> <p>1. 生き生きした活動を支える社会教育基盤の整備・充実</p> <p>① 教育委員会掲示板に社会教育関係専用の掲示コーナー等を設置し、地域で参加できるボランティア活動や体験活動、文化・スポーツ活動、伝統行事の情報提供等に努める。</p> <p>《主な事業等》(2) 中央公民館の機能の拡充</p> <p>2. 時代のニーズに応える社会教育活動の充実</p> <p>① 社会教育活動に関する研修事業等の活性化を図り、その学習内容・方法・形態等の多様化・高度化を図る。</p> <p>② 地域の課題に即した学習機会の提供と学習活動の場の提供について、効果的な企画・実施・運営が図られるような研修事業等を実施する。</p> <p>③ 生涯学習に関する学習機会を捉えて、人権に関する研修を一層推進する。</p> <p>《主な事業等》(1) 公民館活動等の充実の促進</p>

4. 過去の計画にみる中央公民館と村民センター地区

①今帰仁村 総合開発計画 基本構想

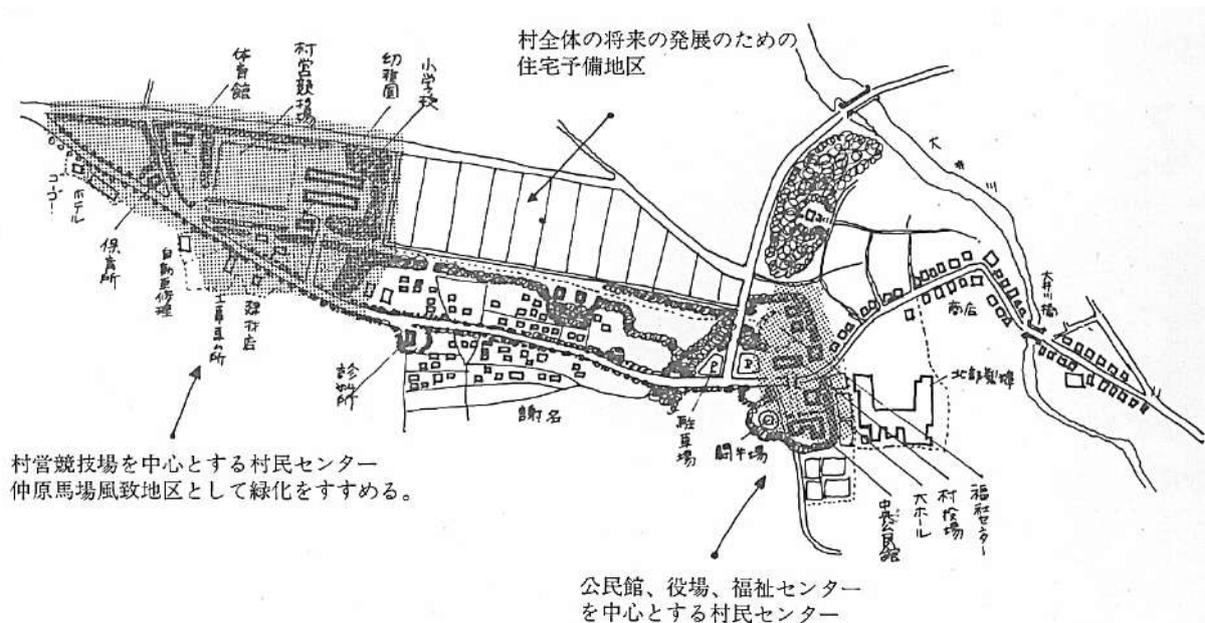
策定年	昭和49(1974)年10月
計画の視点	イ) 自然-生業系の原則を守る ロ) 積み上げ方式によって総合計画を推進する ハ) 潜在的資源の活用と住民の“ムラづくり運動”をすすめる
将来像	(1) 農業を基幹として新しい産業体系をつくる (2) 豊かな協働性に支えられた活力ある暮らしの創造 (3) 生活と産業を支える条件としての自然の保全と活用 (4) 住民が主体になる“ムラづくり”の推進
今帰仁方式の確立	(1) 住民の手で必要なものを具体化していく自立建設が、ムラづくりをすすめる起爆剤・原動力となる (2) ムラづくりの場をいろいろなグループでつくっていく (3) 住民の自力建設と村の行政の結びつきが、ムラづくり・村づくりに必要である
計画 (抜粋)	<p>第三章 村のくらし</p> <p>3-1 今帰仁村全体のくらしの計画</p> <p>(3) あつまりのための施設をつくる</p> <p>イ) 中央公民館と村民文化センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 仲原馬場・村営グラウンドを中心とする地区は、その歴史やひろがりにおいて、いわば今帰仁村民のシンボル＝センターとして位置付けられる。長期的に村の公共施設・文化施設の計画をこの地区に重点的にすすめる、それらの有機的なつながりによって、村民文化センター(地区)としてその内容を充実させていきたいものである。 ● 村民文化センターとの関係も強く、村のあつまりのための施設として大きな意味をもってくる中央公民館の計画が、すでに実施段階にはいっている。そこで、その村の生活の中での位置付けと働きを確認しておこう。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 現在の村全体における集会施設の不足をおぎなうため、広いあつまりの場となる大きさと機能を備える。 ○ 単一機能に特化するのではなく、いろいろな人がいろいろに使える複合的なものとする。 ○ 各字単位の自治的なものとは異なって、村のひろがりのなかで、自由なあつまりがもたれるもので、字公民館とは異なった種類のものである。 ○ その管理・運営は、村民自らの積極的な参加によって支えられる。 ○ また、中央公民館の具体的な内容については、 <ul style="list-style-type: none"> ○ 一階建てで、屋外とのつながりを大切にした建物とする。(吹き抜け・分舎式・日陰等) ○ 屋外にも気を配り、大きな自然とのつながりを考える。(広場・乙羽岳の眺め・緑等) ○ 室内は広々としてゆとりがあり、自由に使えるものとする。(開放的、天井を高く、広場に面する等)



②今帰仁村 土地利用基本計画

策定年	昭和50年(1975)年
土地利用計画の原則	<ol style="list-style-type: none"> 1. 山のしくみ・原のしくみ・海のしくみの複合的構成によって地域空間が成立していることを活かす。 2. 水系による生態的な土地のつながりを見る。 3. 緑系による視覚的な土地の構成を見る。 4. ムラにおける土地と人のつながりを基礎にする。
計画(抜粋)	<p>第四章 土地利用の個別課題の計画</p> <p>4-1. ムラの骨格の計画</p> <p>(1)主要施設の配置と幹線道路</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 村の主要施設・地区については、生活面での中心である仲宗根のマチのひろがりをもとに設定するか、また新たな村民センターの位置づけなどが課題である。 ● 村が将来大きく発展し、宅地需要が増大した場合の住宅予備地区は二つの村民センターと仲宗根を結びつける地区に設定した。 <p>(2)沿道利用の構想と土地利用区分による対策</p> <p>村民センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 仲原馬場北側のバイパスは、仲原馬場と役場周辺の二つの村民センターを歩行系の生活道路で結びつけることになる。この区間は宿道のシンボルである松並木の最も濃い場所とする。

図 村民センターの構想



出典:今帰仁村 土地利用基本計画(1975)

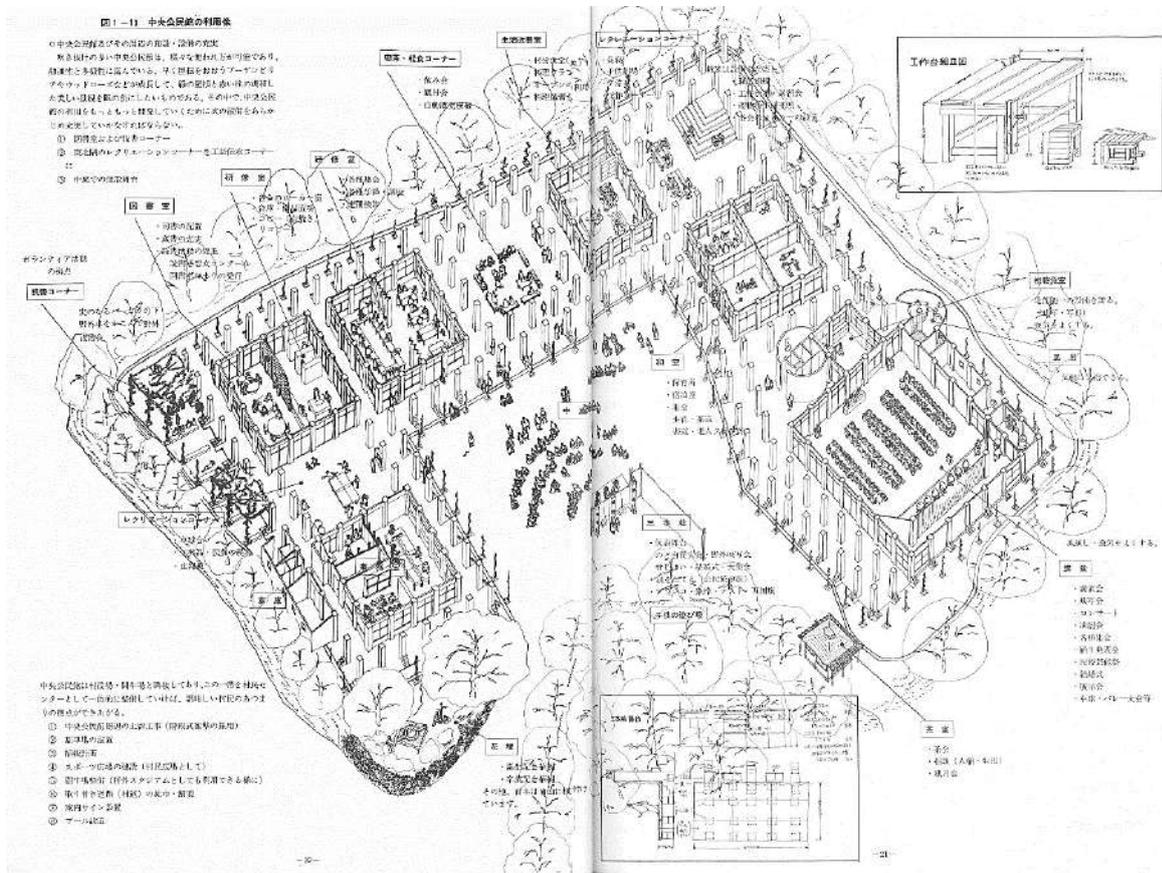
③今帰仁村 暮らしの基本計画

策定年	1977(昭和 52)年9月
「暮らし」の 計画目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「健康村」づくりの推進 2. 「助け合いの福祉」の確立 3. 「地域に根着いた教育」の育成 4. 「村民文化」の高揚 5. 住みよい集落環境づくり 6. 「緑の今帰仁」づくり
計画 (抜粋)	<p>第一章 暮らしを支えるしくみづくり(社会計画)</p> <p>1-4 社会教育と生活文化の高揚</p> <p>(1)中央公民館を中心とした公民館活動の活性化</p> <p>○中央公民館と字公民館のつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今まで、字公民館と呼んできた各部落の公民館は実は正式な意味での公民館とは異なった性格を持つもので、むしろ集会所的な性格を持っており、葉タバコの出荷場としても機能してきた。したがって、中央公民館と各字公民館は社会教育体制として一貫したものとなっていないのが現状である。 ● 社会教育の内容を充実していくためには、中央公民館での公民館活動を活発にしていく事とあわせて、将来は中央公民館と各字公民館とのつながりを整備していかなければならない。 ● 今帰仁村では、まだ各種の社会教育団体の結成が老人クラブや婦人会を除いて未確立の状況であり、サークル活動もそれ程活発でない事から、まずこれらの活動グループを育成していく事から始めていかなければならない。その時には、中央公民館が主な場所となり、その利用開発が主眼になる。したがって、当面は各種企画を実施しながら、あわせて自由な利用も積極的に促進していく事が大切である。 <p>○中央公民館の利用活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中央公民館は老人クラブ、婦人会(生活改善グループ)、あるいは保健婦による乳幼児健診、村役場関係の会合等多様な使われ方をしている。今後は各サークル活動の育成にも努め活発な地域活動が醸成され、一つの文化運動にまで盛り上がっていく様にしたい。 ● そのためにも、中央公民館としては、各種の企画を行い、年間計画のもとに継続した利用増進活動をしていかなければならない。 <p>第三章 拠点地区整備プロジェクト</p> <p>(1)仲宗根地区・・・「にぎわい」と「うるおい」の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 村民センター計画では、現在の中央公民館の活発な使われ方をさらに活発にしていくために、その周辺に村民広場等を計画し、ゆったりとした村民のあつまりの拠点をつくっていかうとするものである。今後の公共建築の計画にあたっては、センター的機能を持つものは、村民センターとの関連で建設し、総合的な村民センターをつくっていきたい。

中央公民館の利用像(図中の記載文)

<p>設・設備の充実 中央公民館及びその周辺の施</p>	<p>吹き抜けの多い中央公民館は、様々な使われ方が可能であり、融通性と多様性に富んでいる。早く屋根をおおうブーゲンビリアやウッドローズなどが成長して、みどりの屋根と赤い柱の調和した美しい景観を眼の前にしたいものである。その中で、中央公民館の利用をもっともっと開発していくために次の設備をあらかじめ充実していかなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①図書室および読書コーナー ②東北隅のレクリエーションコーナーを工芸伝承コーナーに ③中庭での仮設舞台
<p>村民のあつまりの拠点</p>	<p>中央公民館は村役場・闘牛場と隣接しており、この一帯を村民センターとして一体的に整備していけば、素晴らしい村民のあつまりの拠点ができあがる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①中央公民館周辺の土留工事(階段式擁壁の採用) ②駐車場の設置 ③植栽計画 ④スポーツ広場の建設(村民広場として) ⑤闘牛場整備(野外スタジアムとしても利用できる様に) ⑥取り付け道路(村道)の拡巾・舗装 ⑦案内サイン設置 ⑧プール設置

図 中央公民館の利用像



出典: 今帰仁村 暮らしの基本計画(1977)

5. (仮称)北山文化圏センター整備の意義

地域の新たな魅力創出及び本村および歴史的な経緯の中で中心的な役割を担ってきたエリアとして当該地域を整備することについては、足元を見つめなおした時の地域資源としての可能性、新たな活力を生み出していくための中長期的な視点、そして公共施設機能の見直しというタイミング等からその意義を整理しておく。

(1)地域資源としての魅力

(仮称)北山文化圏センター整備にあたり、村おこしの拠点としての魅力、そして本村の魅力の発信拠点、地域住民及び外来者との連携・交流拠点としての可能性を持つ。

①空間の魅力

ア 今帰仁村中央公民館の歴史・文化的価値

中央公民館は 1970 年代沖縄県内の北部地域を中心に地域計画作成及び公共建築物設計に関わり、その独特の地域へのこだわりとフィールドワーク等で一世を風靡した象設計集団の設計作品の一つである。計画としては、経済価値優先、都市への一極集中が強化された時代にあって、地域の潜在的資源を重視し、自然保護・住民自治・基盤づくりを原則とした。また総合計画と並行して建設が進んでいた今帰仁村中央公民館は、原則とした「住民自治」の拠点として、また村民生活の各分野を支える拠点として計画された。建設以来長きにわたり村民に親しまれ、村の発展に寄与してきたものであり、地域計画とセットとして歴史的に意味のある建築物である。

また、風土に根ざした建築計画として次のような特徴を持つ。

- 沖縄の伝統建築の特性を読み解き、アマハジや低い軒先、直線的な構成などの要素を近代建築に取り入れ再構築したデザイン
- 広場を中心とした配置計画
- 亜熱帯の環境に適した半屋外空間を中心とする建築
- 玄関がなくどこからでもアクセスできる自由度の高さ
- 自力建設・自力での管理運営をコンセプトに、手に入る材料とシンプルな形態で構成

公民館機能としては、村民のコミュニティ活動、文化活動、社会福祉サービスなど様々な活用がなされ、多様な交流を生み出す場として機能してきた。その後、各種施設が充実したことで中央公民館の各機能が移転拡大していったが、今も多くのサークル等が活動し、半屋外空間では地域の子供たちが集まり思い思いに過ごす風景がみられる。

イ エリア内周辺施設

今帰仁村コミュニティセンター、今帰仁村保健センター、今帰仁の駅そーれ、北部製糖(株)今帰仁事業所、周辺の緑地及び水辺空間など、公共施設および関連施設が集積したエリアである。さらに国道 505 号と県道 72 号が交差し、両道路に面していることから今後ますます機能充実が望まれる空間となっている。

②時間軸からみる魅力

ア 過去からの贈り物

今帰仁村中央公民館は計画当初より、公民館単体ではなく各字の公民館や様々な公共施設と連携し、総合

的に村民の生活基盤を整えていくことが前提となっていた。また当地を村民センターとして交流と自治活動、公共サービスが行われる中心地とすることが明確に立案されていた。

象設計集団が残した一連の計画群の一つ「くらしの基本計画」での位置づけは、「村民文化センター」が計画されており、中央公民館の機能を示唆していると考えられる。現在は当時想定されていた機能がそれぞれ分化し、面としてエリアを形成している。

今帰仁村中央公民館が村民文化センターを体現したのものとして、当時の村づくりの考え方を改めて見つめなおし、今後の計画に活かしていく。

イ 未来へのバトン

今帰仁村中央公民館が村民文化センターとしてそのあり方が示され、実際に評価の高い建物として受け継がれ、地域資源としての活用の可能性が大きく広がっている。本エリアを整備することは、50年前からの贈り物を受け取り、未来へバトンをつなぐように、村民全体で意識をもって考えていくことが大切である。第5次総合計画での位置づけも、中心エリアとして整備の考え方が示されており、これをふまえた考え方を整理していく。

(2)新たな魅力創出

①現代的な課題への対応視点

ア 子育て支援環境整備

人口減少社会である今日、本村においては比較的人口減少が緩やかであることが今後の希望となる可能性がある。子育て世代の活動を支援する場所として、交流スペース、共同作業スペース、多世代交流スペースなど多様なニーズに対応できる環境を検討していく。

イ 産業連携基盤整備

本計画対象地の地理的条件をみると、国道 505 号は観光スポットとして集客力のある美ら海水族館と古宇利島を結び、県道 72 号線は 2025 年に開園が予定される大型テーマパークからの動線となる。この両路線が交差するということは商業的なポテンシャルが高く、飲食及び物販を含む観光関連産業への波及が見込まれる。

また隣接する北部製糖(株)今帰仁事業所の一部エリアを取り込むことでより柔軟な整備計画が可能となり、北部製糖(株)のもつ生産活動との連携も視野に入れることができる。

②北山文化圏の交流拠点としての形成視点

ア 本部半島の交流人口増加促進

前述したが、名護市・本部町・今帰仁村からなる本部半島は沖縄県北部のなかでも観光客が多く立ち寄るエリアで、今後も産業振興および様々な住民生活基盤整備においても交流人口の増加が見込まれるエリアである。本計画において来訪者が利用できる拠点施設が整備されれば、本部半島エリアの周遊を促し、滞在時間を延ばすことに寄与し、ひいては地域経済への好循環を生む可能性がある。

イ やんばる・奄美地域の観光拠点

北山文化圏をどう定義するかは一言でできない部分があるが、沖縄県北部地域および鹿児島県奄美地域の一部を含むエリアが文化的に同質であることなどを鑑みると、世界自然遺産で奄美地域とやんばるが繋がったように、北山文化圏として奄美地域との交流、これまでの連携を促進する拠点としての整備も検討する。

それは必ずしも、歴史に基づく交流ということばかりでなく、未来志向でこれから一つずつ積み重ねていくことも検討しながら、エリアへの魅力付加を検討する。

ウ 象設計集団関係の交流拠点

第1次総合計画の策定や今帰仁村中央公民館の設計を担当した象設計集団は、現在でもその功績は色あせることなく建築関係者や都市計画分野の技術者の中で、魅力ある研究対象となっている。その代表作が今帰仁村中央公民館であり、建物をどう保存活用していくかは全国の関係者が関心を持っている。幸いにも当時設計時に関わった皆さんとの情報交換も可能であるため、多様な意見を頂きながら整備の在り方にもアドバイスを頂ける。

そのつながりを今後の資産として活用していく一つの方策として、象設計集団の残した活動の足跡を当時の資料や写真その他、展示するスペースを設けることで、50年前の取り組みの答え合わせが可視化され、また向こう50年後へつないでいくことの視点も大切である。

③村民の交流と連携

ア 村民利用の促進

本村の地理的な中心部に位置する計画対象地は、役場をはじめとする公共施設以外にも、商工会や観光協会、その他郵便局など近隣には住民生活に身近な機関が隣接している。つまり村民の訪問が多いエリアであり、本エリアが村民にとって便利で機能的なサービスを受けられることは、村民生活の質向上に貢献する。

そこで村民にとって使いやすい、必要な機能は何かということ掘り下げて、機能配置と施設活用を検討していく。そこには建物単体での利用だけでなく、エリアとして相乗効果が生まれる仕組みや使い方を住民ニーズの中からくみ取っていく視点が肝要である。

エリア内での役割分担と機能連携を実現するゾーニングとエリア全体の利用コンセプトを明確にし、そのストーリーに夢がありつつも実現可能性のあるものが望ましい。

イ 村民と来村者との交流・連携

前述した機能は、村民利用の視点が大切である点に触れたが、産業連携機能に偏ることなく、村民の生活と福祉の向上に資する施設整備の考え方もあるという点からであった。矛盾するような視点になるが、村民以外の利用者の視点も非常に重要である。村民か村民以外かの二項対立ではなく、それぞれの利便性を考慮することと、それぞれの利用者の交流によって新たな価値を生み出す場を目指すことで、新しい活力につなげたい。

交流人口または、地域縁以外にもテーマ縁、オンラインでの関係性など、移住者や地域外に住む今帰仁村の応援団と住民との交流を生み出す本エリアの可能性は大きい。

ウ ダイバーシティとSDGs

ダイバーシティは、異なる背景や文化、能力、性別などの違いを尊重し、受け入れることを意味する。地域全体で、多様性を受け入れ、活用することで、多様な人材の能力を引き出し、生産性を高めることができる。また、ダイバーシティの考え方は、人々が平等に扱われ、社会がより包括的で公正なものになることを促進するため、SDGs に向かって進むこととなる。

第 I 章 前提条件の整理

1. 北部地域の概要

沖縄県は一年中温暖な気候であり、日本有数のリゾート地である。その中でも北部地域は通称「やんばる(山原)」と呼ばれ、豊かな自然環境を有する地域である。

北部地域は沖縄本島北部に位置する名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、金武町、宜野座村の沖縄本島内 9 市町村及び伊江村、伊平屋村、伊是名村の離島 3 村から構成されている。北部地域の総面積は 824.36k m² で、沖縄県全体の約 36% を占め、県内の地域で最も広い面積を有している。

北部地域の総人口は 128,259 人(令和 2 年度国勢調査)で、沖縄県総人口に占める割合は 11.3% である。名護市以南の 3 市町村(名護市、恩納村、宜野座村)と大宜味村以外の地域では人口減少している。

図 北部地域を構成する 12 市町村



出典:北部広域

表 構成市町村の人口

市町村	人口(人)	
	H27年	R2年
伊平屋村	1,238	1,126
名護市	61,674	63,554
国頭村	4,908	4,517
大宜味村	3,060	3,092
東村	1,720	1,598
今帰仁村	9,531	8,894
本部町	13,536	12,530
恩納村	10,652	10,869
宜野座村	5,597	5,833
金武町	11,232	10,806
伊江村	4,260	4,118
伊是名村	1,517	1,322
合計(人)	128,925	128,259

出典:国勢調査(H27、R2年)

2. 北山文化圏とは

北部地域は歴史琉球王国が統一される以前の「三山時代」とよばれるころ、北山王は今帰仁を中心に羽地、名護、国頭、金武などの地域を支配下に収めていた。北山王の居城は今帰仁城跡だった(平成 12 年に世界文化遺産に登録された)。

北山王統は中国への朝貢を独自に行うなど、当時自立した経済圏を形成していたことがうかがわれる。また、北山文化圏は、中南部と異なる風土の上に歴史を刻んできたという説もあり、15 世紀初頭に中山と連合軍に滅ぼされた後も、監守制度が設置されたことは、言語や気質、習俗、祭祀、集落形成など、文化の違いがあったからだともいわれている。

例えば、「神アサギ」は集落の祭祀を行う壁のない小屋のようなもので、その分布は北山の範囲にほぼ重なり、9割が北部にあるとされる。また、北部の各集落では海神祭(ウンジャミ/ウンガミ)などの伝統行事が現在でも多くの地域で続けられており、特に「安田のシヌグ」(国頭村)や「塩屋のウンガミ」(大宜味村)、「伊江島の村踊」(伊江村)は国指定重要無形民俗文化財に指定されている。

三山統一後、首里王府を中心とした文化が地方へ広がりを見せるなかで、近代、現代に至るまで他地域の文化を受け入れながらも、自然を敬い、祖先を敬い、村の繁栄や五穀豊穡、航海安全を願うなど村(ムラ)の祭祀には、北山独自の痕跡を根強く残していることがうかがえる。

こうした文化の痕跡は、歴史・文化を重んじ、郷土愛に満ちた人々の思いで今日に受け継がれてきたものである。

図 沖縄本島の間切(1907年ごろ)



【北山文化圏の範囲】

沖縄本島北部9市町村、伊江島、伊平屋島、伊是名島、さらには与論や鹿児島沖永良部、一説では奄美大島の南部まで含むという説もある。



本事業においては、「北山文化圏」という名称を使っているが、これは過去に「北山」という国を形成していた地域の誇りと気概を今一度、思い起こすとともに、独自の文化を大切に受け継ぎ、アイデンティティをもって未来に向けて発信していく意思を示すものである。

(仮称)北山文化圏センターは、こうした北山文化の誇りと、「やんばる」の一体感や連携意識、新しいやんばるづくりへの機運の高まりを背景に、北山文化圏をつないでいく拠点である。

【友好都市提携】

今帰仁村は、沖永良部島の知名町と和泊町と2020年1月に友好都市提携を結び、住民・団体間の相互交流、文化・教育・スポーツに関する交流連携、災害時の相互応援など6項目が記されている。

3. 今帰仁村の概況

(1)現状・課題

今帰仁村は、琉球三山時代の「北山」の拠点として歴史文化の薫り高い村である。地域の伝統芸能も各地に残り、地域の強固なコミュニティで受け継がれている。また、海、山、川など優れた自然環境は沖縄北部の魅力の色濃く残している。農業を基幹とした産業体系、豊かな自然や文化とともにあるくらしは今帰仁村の特徴といえる。

一方で、本村を取り巻く社会環境は年々変化しており、村内では、少子高齢化が顕著に進み、子育て世代の流出抑制・誘致が課題となっている。日々のくらしにおいては、情報技術の進歩や価値観の多様化、観光産業をはじめとする経済のグローバル化、安全・安心意識の高まりなど、対応すべき社会的なニーズが複雑化、高度化してきている。

こうした社会の動きのなかで世界共通の目標である SDGs(持続可能な開発目標)の達成が求められ、社会・経済・環境の 3 つの側面から、それぞれの地域の課題や強みをふまえた積極的な取り組みが求められている。

今帰仁村では、現在「今帰仁村第五次総合計画」を策定中であるが、そのパブリックコメント版において、下記のような課題を示している。こうした課題を総合的に解決していく拠点が必要である。

図 今帰仁村の現状と課題

1. 人口減少・少子高齢化が進行

- 全体として村への転入超過という傾向にある中、前述のとおり20代のみが大幅な転出超過であることから、一定程度の人口流出は受け入れながらも、特に若い世代のUターンの促進等が必要となります。

2. 豊かな自然環境の保全活用と産業振興の両立

- 本村の骨格ともいえる『豊かな自然環境の保全』と、村民が暮らし続けるために必要な『生活利便性の向上』、本村の現状や動向を踏まえた『産業振興』と、三点のバランスが取れたむらづくりの推進が求められます。

3. 快適な生活基盤の整備と充実

- 美しい景観や集落を次世代に継承する保全活動、誰もが簡単に村内を移動できる交通システム・移動手段、ユニバーサルデザインを採用した公共施設の整備・機能拡充、空き家・空地問題、排水、ゴミ問題、災害対策等

4. 誰もが心身ともに健康で生きがいのもてる環境整備

- こどもや高齢者、障がいを持つ方や生活困窮者等、迅速に福祉支援ができる体制の充実等
- 人材育成や生涯学習機会の提供、本村の歴史文化を伝える場の創出、歴史遺産を活用した学習機会の提供

5. 未来を見据えた健全かつ安定したむらづくり

- 「自助」「公助」「共助」の考えをもとにした持続可能なむらづくり(SDGs)等
- 村民へのシビックプライドの醸成、最新技術(IoT、DX)活用による村行政の推進、計画的な公共施設の維持管理や適切なマネジメント、官民連携等の手法の活用

出典:今帰仁村第五次総合計画(案) パブリックコメント時点

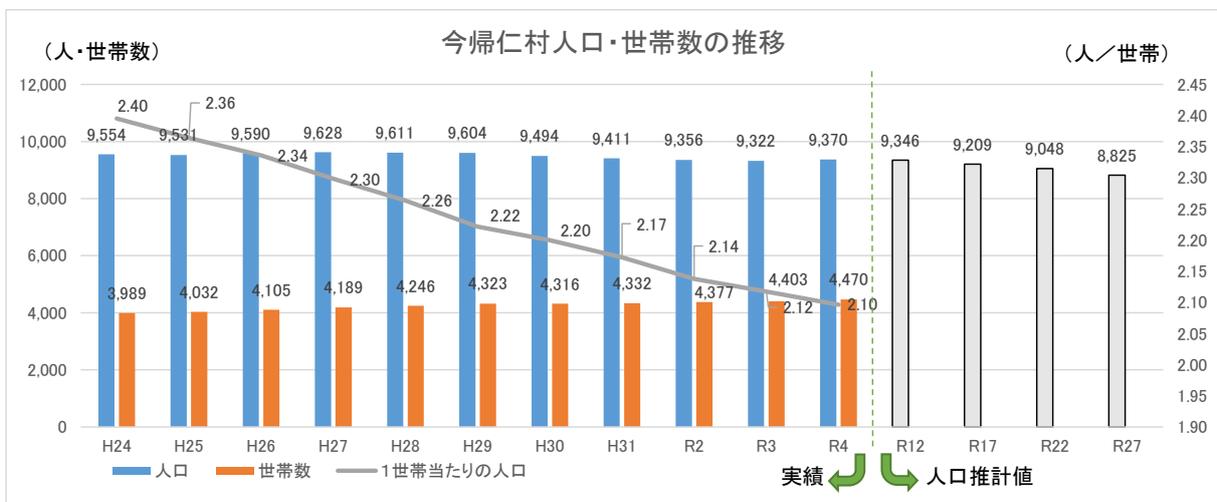
(2)人口・世帯数の推移

沖縄県住民基本台帳人口・世帯数及び人口動態によると、今帰仁村の人口は平成24年の9,554人から微減傾向が続き、令和4年1月1日の人口は9,370人、10年間で約2%減少している。一方、世帯数は毎年増加傾向にあり、平成24年と比較すると、世帯数が12%増加した。その結果、1世帯当たりの人口が減少傾向にある。

また、少子化の影響により、出生数が死亡数より低く、毎年人口は自然減少しており、高齢化社会になっているが、今帰仁村への転入数が転出より高く、人口の社会増加の傾向にある。

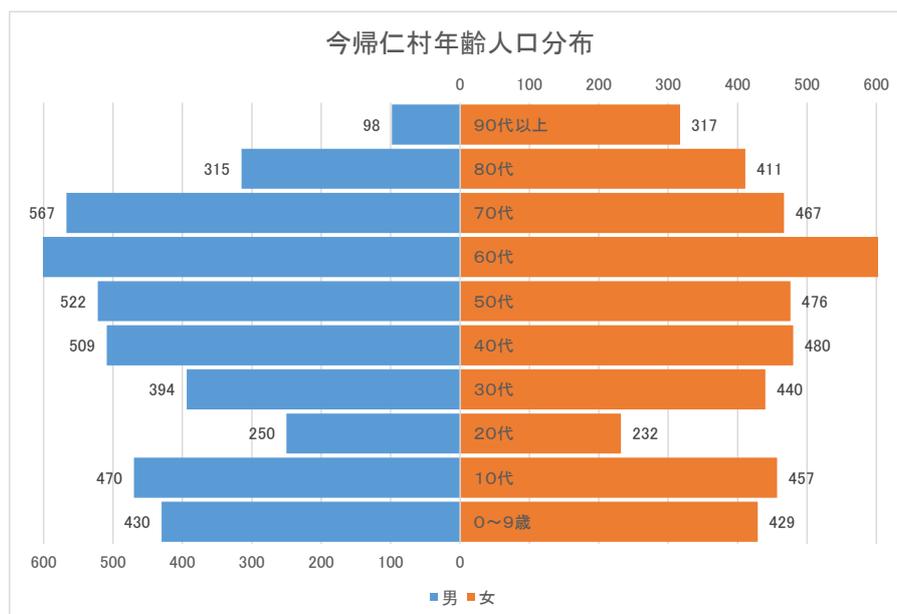
今帰仁村人口ビジョンは、9,600人(パブリックコメント時点)規模で安定したむらの未来を目指しており、それを達成するために出生率を上げる他、子育て支援の充実や働く場の創生、移住促進、生活利便性の高い環境作りによる人口転入増加が目指されている。

図 今帰仁村の人口・世帯数の推移



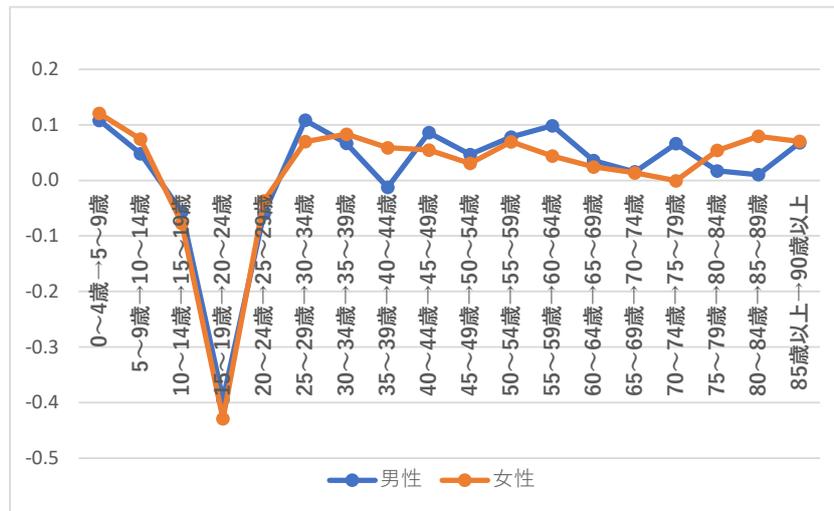
出典:住民基本台帳・人口問題研究所

図 今帰仁村人口ピラミッド



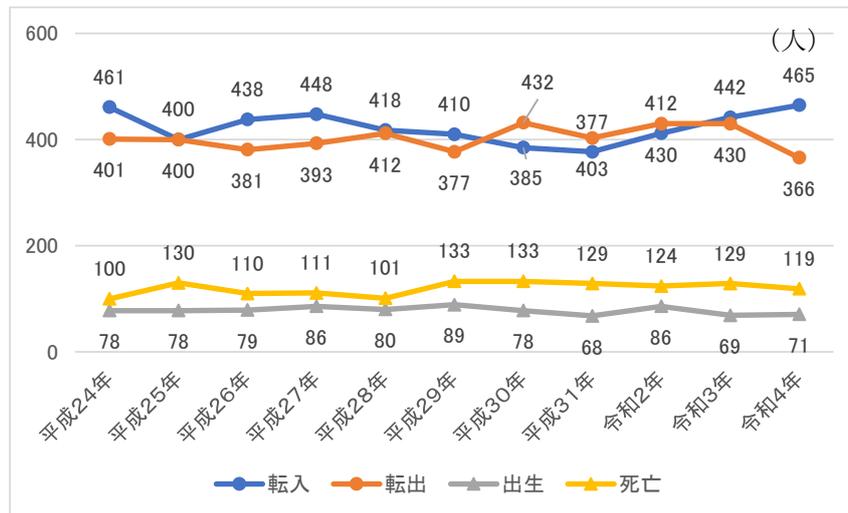
出展:国勢調査 R2

図 5歳階級別純移動率(2015年→2020年)



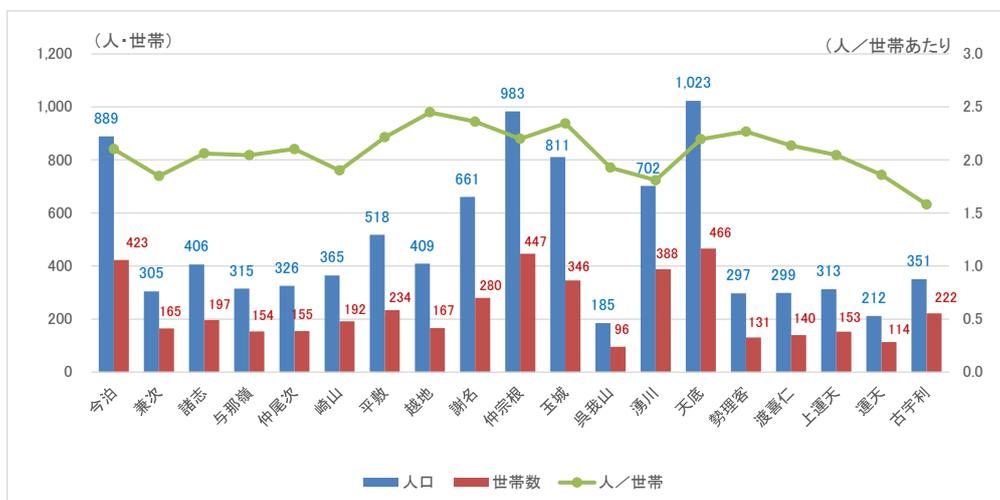
出典:国勢調査

図 転入・転出数、出生・死亡数の推移



出典:住民基本台帳

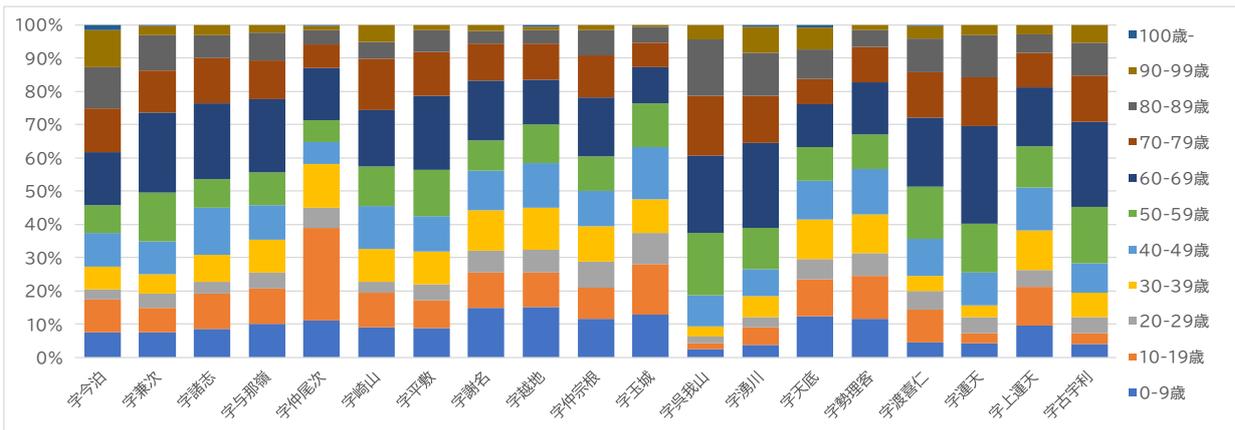
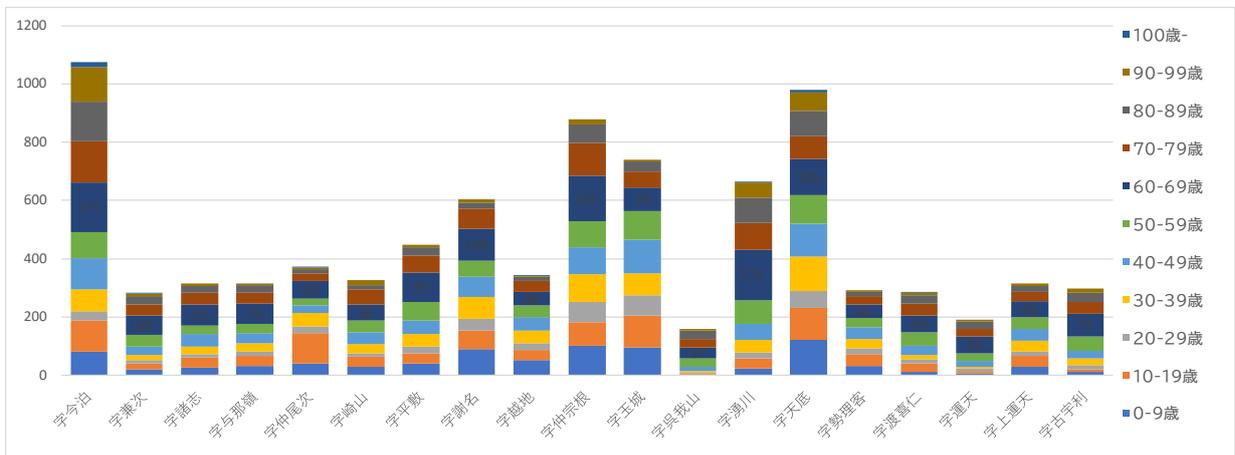
図 今帰仁村字別人口



出典:住民基本台帳

図 今帰仁村 字別年齢別人口 令和2年国勢調査

大字・町名	総数	0-9歳	10-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80-89歳	90-99歳	100歳-	年齢不詳
字今泊	1075	82	106	32	74	109	88	171	142	134	119	18	-
字兼次	281	21	21	12	16	28	41	68	35	30	8	1	-
字諸志	317	27	34	11	26	45	27	72	43	22	10	-	-
字与那嶺	317	32	34	15	31	33	31	70	37	26	8	-	-
字仲尾次	372	41	104	22	49	25	24	59	26	16	5	1	-
字崎山	328	30	34	11	32	42	39	56	50	17	17	-	-
字平敷	448	40	37	21	45	47	63	99	59	30	7	-	-
字謝名	605	90	64	40	74	71	55	109	68	23	11	-	-
字越地	344	52	36	23	44	46	40	46	37	14	4	2	-
字仲宗根	878	103	80	69	94	93	91	155	112	65	15	-	1
字玉城	739	96	111	69	75	116	98	79	55	36	4	-	-
字呉我山	160	4	3	3	5	15	30	37	29	27	7	-	-
字湧川	666	25	35	20	43	54	82	171	94	85	53	4	-
字天底	979	121	110	59	117	112	99	126	76	86	64	9	-
字勢理客	293	34	38	20	34	40	30	46	31	15	5	-	-
字渡喜仁	286	13	28	16	13	32	45	59	39	29	11	1	-
字運天	192	8	6	9	7	19	28	56	28	24	6	-	1
字上運天	315	30	37	16	37	41	39	56	32	18	9	-	-
字古宇利	299	12	10	14	22	27	50	77	41	30	16	-	-
合計	8894	861	928	482	838	995	1000	1612	1034	727	379	36	2



資料:国勢調査(令和2年)

(3)産業

①概況

今帰仁村は、豊かな自然環境に恵まれ、それを土台としながら各種産業が栄えてきた。これまで第一次産業従事者の比率が高いことも本村の特徴であったが、近年の産業人口の推移を見てみると、農業従事者の人口は減少傾向にあり、第3次産業の「飲食店・宿泊業」と「医療・福祉」の人口数が増加傾向にある。

表 産業別就業者数

今帰仁村産業別就業者数の推移	H17	H22	H27	R2
全産業合計	4,056	4,025	4,228	4,279
第1次産業	1,227	1,049	1,040	929
林業	7	4	8	0
農業	1,163	1,003	997	886
漁業	57	42	35	43
産業構成比	30.3%	26.1%	24.6%	21.7%
第2次産業	644	573	576	599
鉱業	2	4	3	3
建設業	405	353	366	373
製造業	237	216	207	223
産業構成比	15.9%	14.2%	13.6%	14.0%
第3次産業	2,185	2,403	2,612	2,751
卸売・小売業	453	447	416	449
飲食店・宿泊業	285	356	455	463
金融・保険	20	16	25	24
不動産	11	44	52	39
情報通信・運輸・郵便	151	153	140	148
電気・ガス・熱供給・水道	9	12	8	10
医療・福祉	445	523	607	710
教育・学習支援業	168	177	215	220
その他サービス業	491	485	493	508
公務	152	190	201	180
産業構成比	53.9%	59.7%	61.8%	64.3%

※15歳以上とし、分類不明を除く。

資料:国勢調査



今帰仁スイカ



マンゴー



今帰仁アグー

②農林水産業

今帰仁村は農業を基幹産業としてむらづくりを進めている。特に今帰仁スイカは日本一早い出荷と美味しさで知られ、マンゴーは品質が高く、消費者や市場関係者からも高い評価を得ている。農産物加工や今帰仁ブランドの商品開発、観光業と連携を図りながら、他の産業と一体となる農業振興を目指している。

今帰仁スイカとマンゴーの他、今帰仁アグー(養豚)やエノキタケ、モズク、キク、様々な特産物を産出している。

③製造業

本村の加工業・製造業(工場)就業者数については近年大きな変動はないが、従業者数、粗付加価値額については増加している状況にある。

また、本村では多様な地域素材を質の高い製品へ加工する技術のある個人や事業者も多い一方、産業として継続させていく体制や仕組みづくりの強化が必要である。事業者の自立促進を促し、農林水産物の付加価値向上や生産拡大、人材育成に努める必要がある。

④観光産業

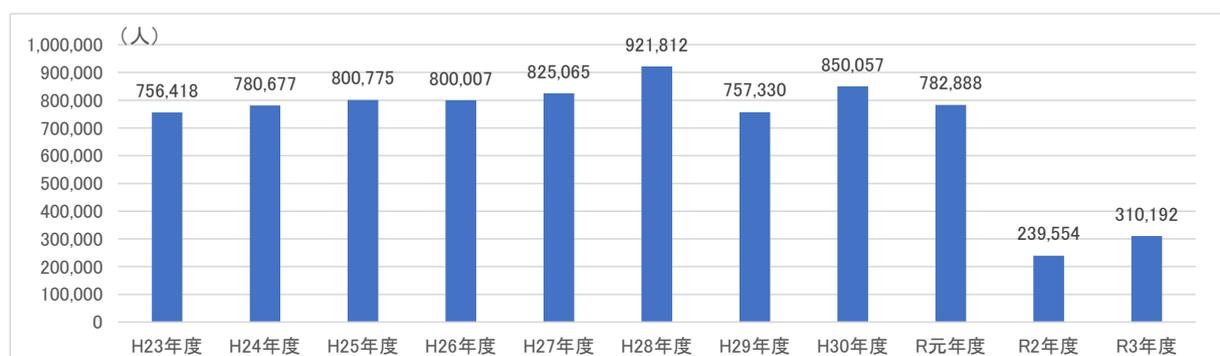
本村は、歴史文化と自然環境に恵まれた多くの地域観光資源を有している。国指定文化財で世界遺産群の一つに登録された今帰仁城跡を筆頭に、古宇利島(古宇利大橋)や、乙羽岳の森林公園、美しい砂浜などが知られ、近年では映画やドラマ、CM等の撮影のロケ地としても多く利用されている。

2010(平成22)年にはワルミ大橋が開通し、「美ら海水族館」(本部町)から古宇利大橋までのルートが確立されている。こうした環境を活かし、滞在型観光の確立を見据え、「ウェルネス(癒し)」の観点やアクティビティ・文化体験等を包含したアドベンチャーツーリズムによる一層の観光振興及びそうした多様なニーズに応えることのできる人材育成も合わせて必要となる。

一方で現在の本村の観光入込客は70~90万人台で推移(R2よりコロナ禍の影響)してきたが、今帰仁城跡と古宇利島に集中しており、村内での滞在や立ち寄りスポットが限られている。観光ルートを明確にし、新たな観光拠点の整備も視野に入れ、観光の回遊性・拠点の魅力向上を高めることで村内各地への周遊を促す取り組みが求められる。また、観光ルート上で地域特産品を販売するなどの地場産業との連携や体験型民泊・体験型農業、観光客向けのイベントの開催等、地域住民が主体となった地域交流型の施策展開が必要である。

第五次総合計画においては、(仮称)北山文化圏センターは、観光ルートの拠点や新規需要の受け入れ、雇用創出の場としての活用が期待されている。

表 今帰仁村観光入込客数の推移

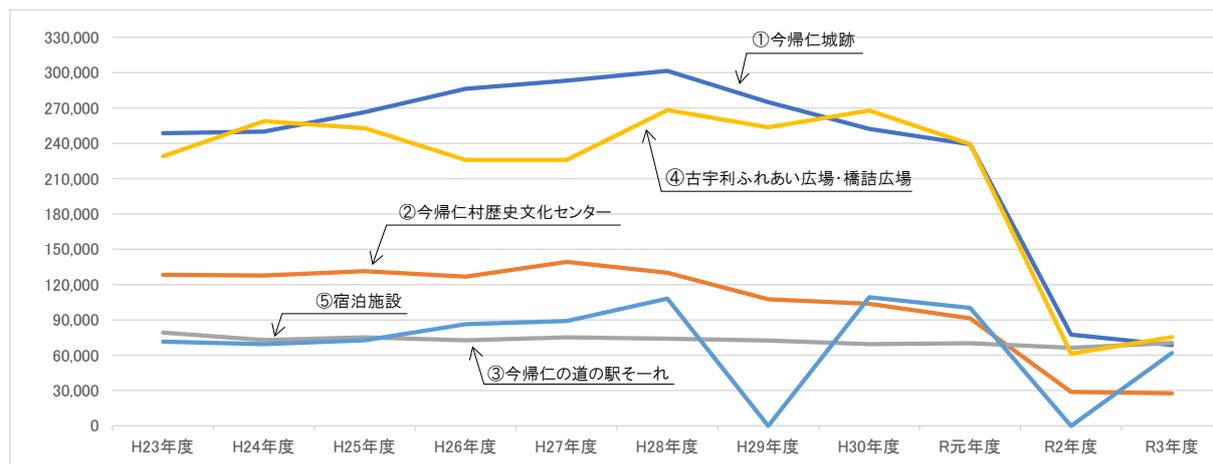


※観光入込客数は、主要施設の入込合計(次ページ参照)

出典:今帰仁村役場

表 今帰仁村主要観光施設入込数

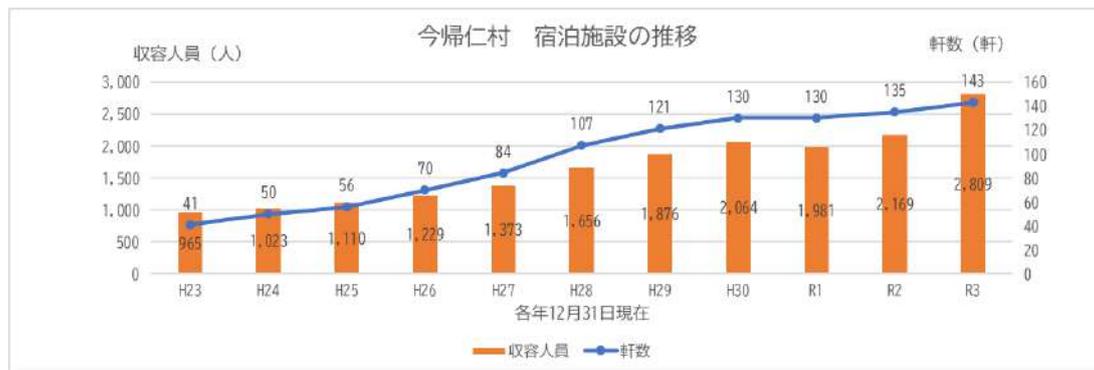
観光施設名	観光入込客数(人)										
	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
①今帰仁城跡	248,513	249,998	266,398	286,215	293,331	301,479	274,867	252,155	239,250	77,577	68,572
②今帰仁村歴史文化センター	128,275	127,750	131,467	126,760	139,229	130,113	107,568	103,731	91,451	28,876	27,677
③今帰仁の道の駅そーれ	79,241	72,896	75,203	72,679	75,238	74,049	72,525	69,481	70,153	66,426	70,333
④古宇利ふれあい広場・橋詰広場	228,925	258,826	252,835	225,885	225,938	268,287	253,518	267,874	239,398	61,252	75,419
⑤宿泊施設	71,464	69,518	72,676	86,406	89,021	108,046		109,358	100,212		61,972
⑥乙羽岳(キャンプ場・バンガロー)		1,689	2,196	2,062	2,308	3,121		1,293	3,332	5,423	3,738
⑦橋の駅、リカリカワルミ						36,717	48,852	46,165	39,092		2,481
計	756,418	780,677	800,775	800,007	825,065	921,812	757,330	850,057	782,888	239,554	310,192



資料:今帰仁村

一方、本村の宿泊施設は年々増加してきており、1軒あたりの収容人員が沖縄県や北部地域全体と比較すると、少なく、中・小規模の宿泊施設が多いことが特徴となっている。

図 今帰仁村宿泊施設の推移



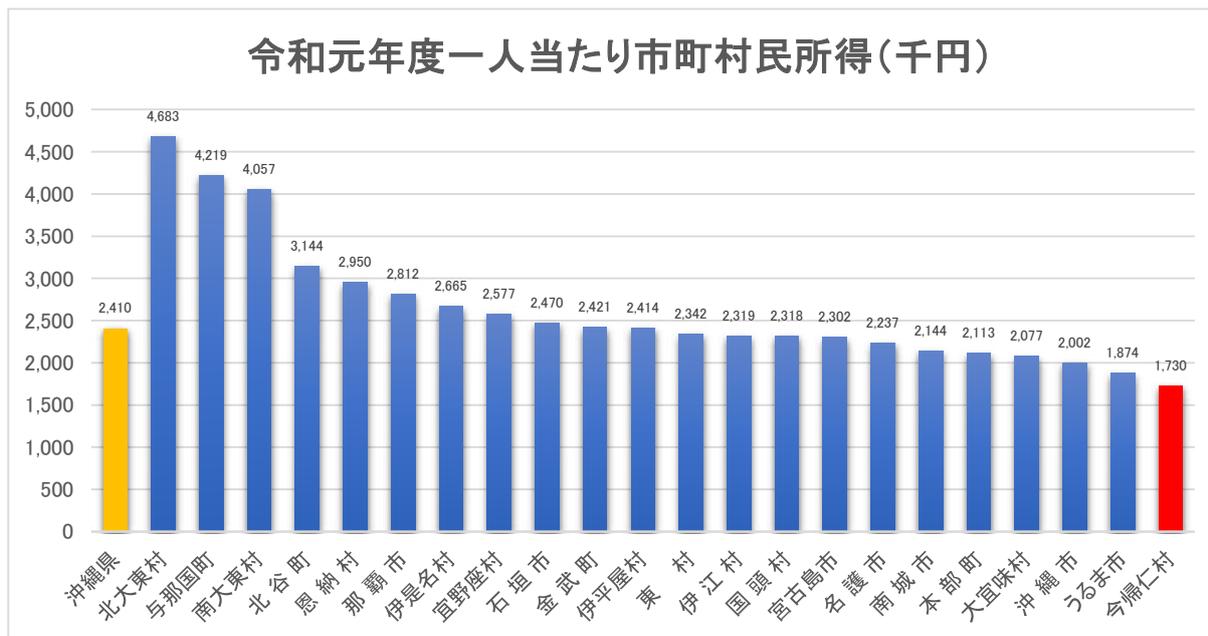
資料:沖縄県観光要覧

(4)所得

一人当たり市町村民所得について、今帰仁村は沖縄県の全体の2,410千円を下まわり、1,730千円で最下位の状況となっている。令和元年度において、一人当たりの市町村民所得の県平均を100とした場合71.8となっている。

今帰仁村は企業が少なく、所得改善には豊富な特産品を活かした地産地消の推進や観光消費の促進による経済活性化が必要である。

図 一人当たりの市町村民所得の比較



出典: 沖縄県市町村民所得

(5)土地利用

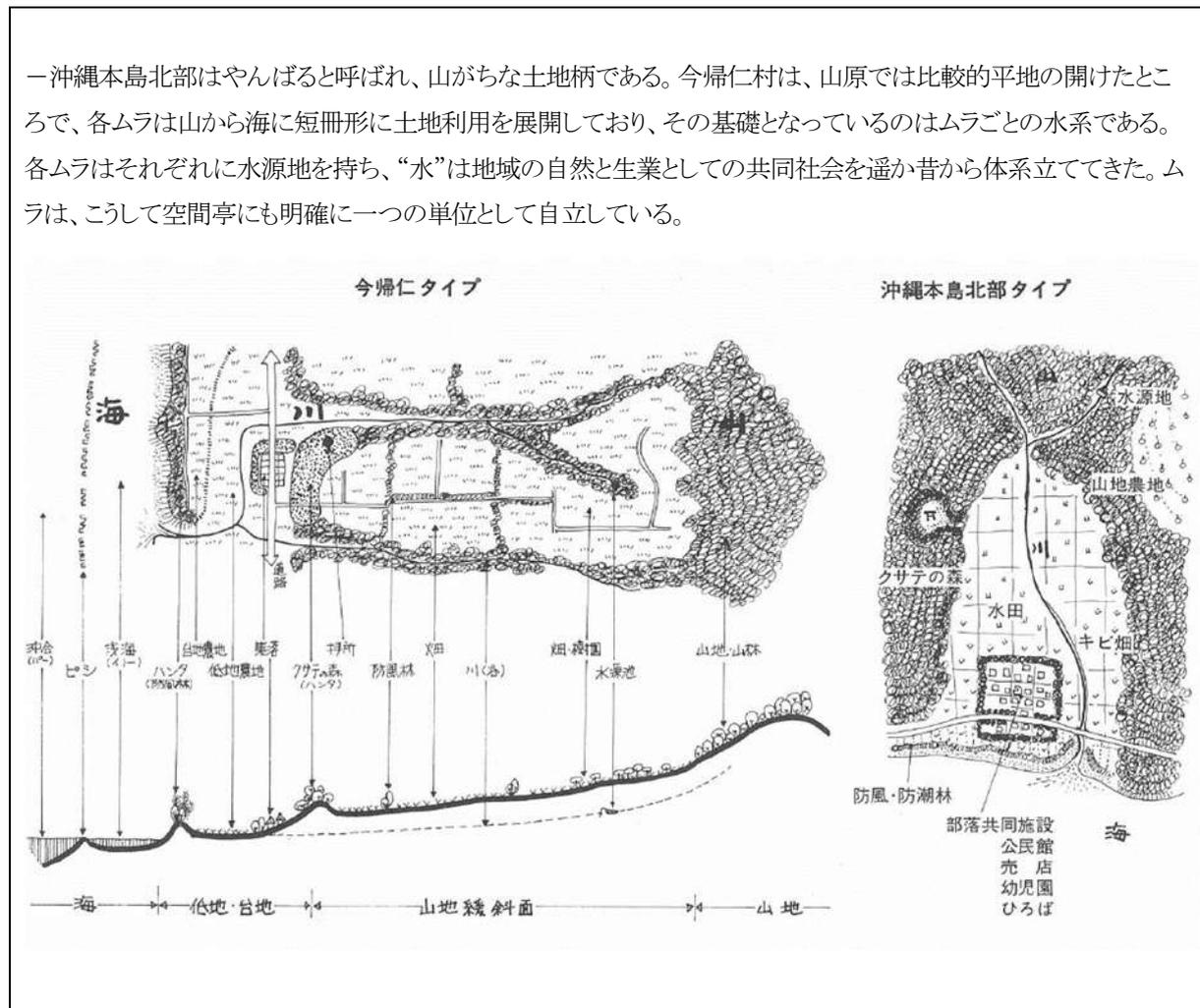
①やんばる型土地利用

1974年(昭和49年)に策定された今帰仁村総合開発計画基本構想において、今帰仁村の生活と産業の特色は、自然の巧みな活用にあり、それは「自然と共に生きてきた」というにふさわしく、村の土地利用は、海岸・平地・緩斜面・山地という等高線に沿った地形区分によって、横軸のパターンとしてあらわれ、構造的には水系を中心とする縦型の集落単位の土地利用の連続と考え、これを「山原(やんばる)型の土地利用」と呼び、その原則を守る。とされている。

この考えかたは、後の「土地利用基本計画」の原則にも引き継がれており、自然の生態的な仕組みを根っこで働かせているのは水の循環と水系であり、水系を単位とする流域界がほぼムラの空間になっていること、また、そこには土地と土地、土地と人、人と人が一つの空間で溶けあっているのが農村・農業的土地利用の姿である。とされている。

この考え方は、約50年後の第五次総合計画にも引き継がれており、将来に向け、「今帰仁らしさ」の根幹ともいえる豊かな自然を次世代に受け継ぐためには、やんばる型土地利用を保全・推進していくことが必要としている。

図「土地利用基本計画」に描かれた やんばる型土地利用(小さな環境単位)



出典:土地利用基本計画(1975)

②集落環境

本村には、19 の集落が肥沃で水はけの良い琉球石灰岩台地を中心に分布し、乙羽岳をはじめ東西に連なる山々の深緑に包まれるように集落が立地している。集落の背後地となる緑地には貴重な動植物をはじめ、地域住民の拠り所である御嶽の森や神アサギが大切に継承されている。

集落内では今泊集落や運天集落に代表されるようなフクギの屋敷林や石垣、伝統的民家、さらにかつての松並木の宿道や馬場等もみられる。また、各字を中心とした祭祀・行事や清掃活動等も行われ、地域住民の地域力(コミュニティ)の高さが伺える。

集落内には、公民館や共同売店などがあり、コミュニティの拠点として機能してきた。今帰仁村総合開発計画基本構想(1974 年)においては、生活・生産・消費などムラの様々な活動を保証してきたのはその共同性であり、今後もそれは重要な役割を果たすであろう、ムラづくりの運動そのものが、新たな共同性の創出の契機となる。字公民館はムラの多様な生活活動の場であり、ムラのセンターとして、共同売店とともにくらしの拠点の役割を担ってきたが、今後のムラづくりにおいても評価していく必要があるとしているとして、当時の各字の集落公民館プラン集が描かれている。(下図参照)

後の、くらしの基本計画(1977 年)では、当時整備が進んでいた今帰仁村中央公民館との関係について、将来は中央公民館と各字公民館のつながりを整備していかなければならないとしながらも、各字公民館ではそれぞれ独自の部落活動、中央公民館では様々な企画と自由な利用があるという体制で行くことにする。とされている。

図 「総合開発計画基本構想」に描かれた 集落公民館プラン集

—今帰仁ではムラのまとまりは強く、自立性が高いとされている。



出典:総合開発計画基本構想(1974)

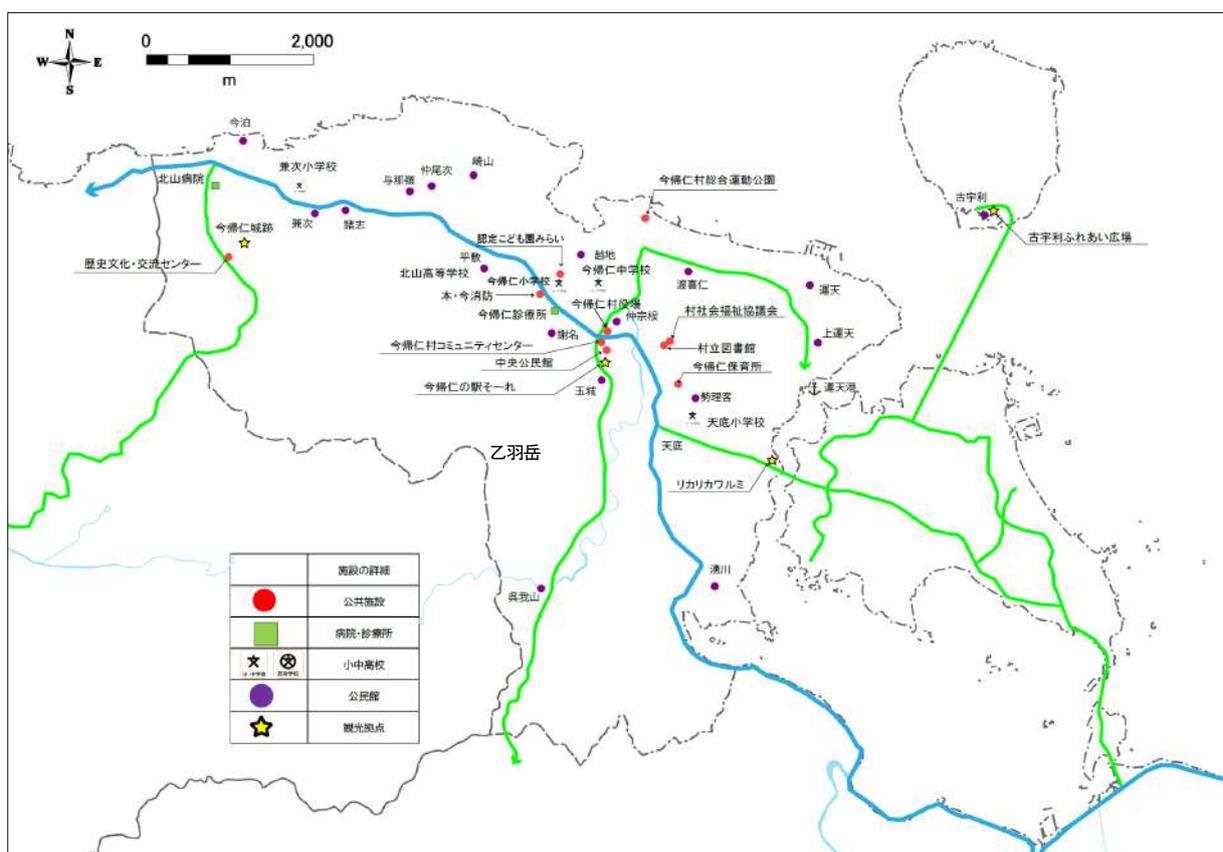
③公共施設分布

今帰仁村では、各字の公民館が集落内に立地しており、生活に密着した拠点となっている。村の公共施設は国道 505 号や県道 72 号線沿いに立地している。

今回の計画対象地である村役場周辺は、国道 505 号と県道 72 号線が交差する場所にあり、今帰仁村中央公民館をはじめ今帰仁村コミュニティセンター、今帰仁村保健センター、今帰仁の駅そーれ、多目的広場など公共施設が集積している。

令和 5 年 1 月より、今帰仁村役場庁舎が背後地に新築移転したことに伴い、今帰仁村中央公民館に入居していた今帰仁村教育委員会、今帰仁村保健センターに入居していた今帰仁村福祉保健課がそれぞれ新庁舎に移動した。

図 今帰仁村公共施設の分布図



今帰仁村役場 新庁舎（令和 5 年 1 月より供用）

(6)道路・交通

①アクセス

今帰仁村は、名護市から本部半島の沿岸部を一周する本部循環線の一部である国道 505 号が主要道路となっている。また、名護市屋部から運天港に至る県道 72 号線は、名護市街地から今帰仁村への近道であり、伊平屋島・伊是名島航路利用者にとっても重要な道となっている。

また、平成 17 年に古宇利大橋、平成 22 年にワルミ大橋が開通したことにより、今帰仁村天底から名護市屋我地島を通して古宇利島・沖縄本島へのアクセスが可能となった。

村内には、現在2本の路線バスが運行している。どちらも名護バスターミナルを発着し、本部廻り・今帰仁廻りで本部半島を一周する路線となっている。

路線バス以外、村内には「やんばる急行バス 空港線」が運天港を拠点に運行している。那覇空港と運天港を結ぶ有料路線のほか、本部町と今帰仁村の観光スポットを巡ることができる「やんばる急行バス四島線」が新設され、瀬底島の Hilton 沖縄瀬底リゾートから、海洋博公園や今帰仁城跡、今帰仁役場を経由し、終点の古宇利島まで結ぶルートとなっている。

図 今帰仁アクセス(バス路線)

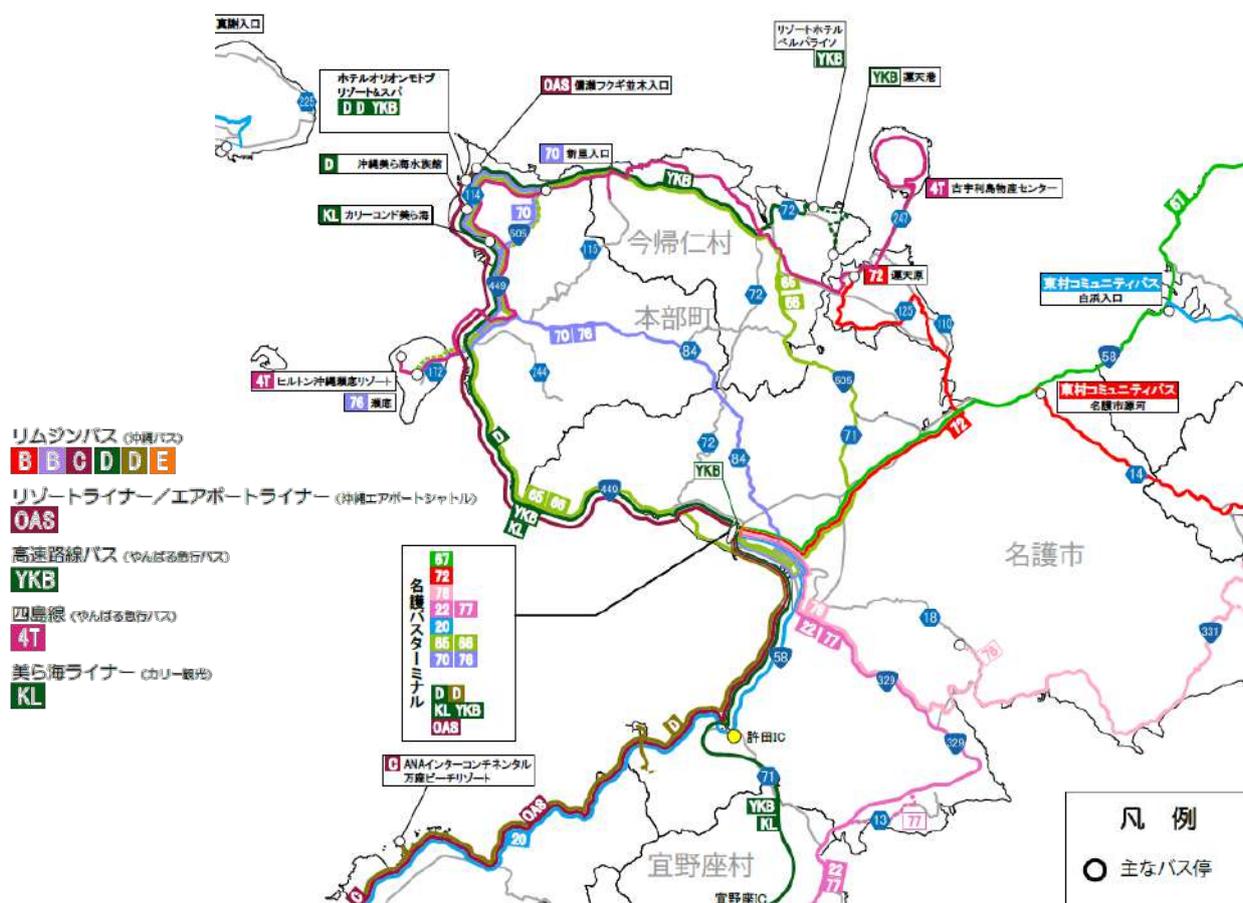


表 今帰仁村内を運行する路線バス(名護バスターミナル発着)

系統	路線名	主たる経由地	本数		
			平日	土曜	日曜
65	本部半島線 渡久地廻り	名護十字路、名護高校、謝花、瀬底、本	17	16	16
66	本部半島線 今帰仁廻り	部港、備瀬、今帰仁城跡	17	16	16

表 やんばる急行バス

始点⇄終点	主たる経由地	本数
那覇空港⇄運天港 (空港線)	県庁北口、大平、名護市役所前、本部港、記念公園前、今帰仁城跡入口、今帰仁村役場、運天港	11
瀬底島⇄古宇利島 (四島線)	ヒルトン沖縄瀬底リゾート、海洋博公園、今帰仁城跡、今帰仁村役場、DRIVE-INリカリカワルミ、古宇利島物産センター	3

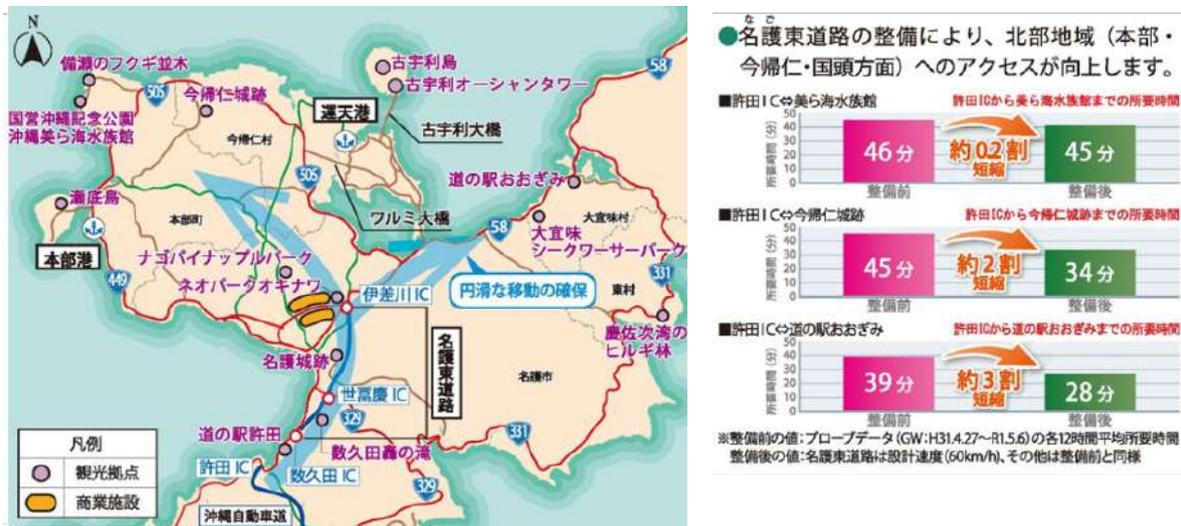
②名護東道路の開通と延伸

名護東道路は、沖縄県北部地域の課題解消に向けて、名護市宇伊差川と字数久田を結ぶ地域高規格道路として計画された延長 6.8km の4車線の自動車専用道路である。平成9年度に事業化され、平成 13 年度から工事を開始し、平成 23 年度に伊差川 IC～世富慶 IC 間が暫定 2 車線で開通され、令和 3 年度に世富慶 IC～字数久田 IC 間が暫定 2 車線で開通された。

名護東道路の整備により、名護市内の交通混雑の緩和の他、北部地域(本部町・今帰仁村。国頭村方面)へのアクセスが向上し、円滑な移動の確保をしながら、北部地域における地域活性化が期待される。

また、今帰仁村にあるオリオン嵐山ゴルフ場に、新たな北部テーマパーク計画が 2018 年に発表され、2025 年度の開業を目指している。テーマパークの計画に伴い、高規格道路として名護東道路の延伸(本部方面)が計画中である。新たなテーマパークと名護東道路延伸が完成による今帰仁村へのアクセス向上や観光客の増加につながると想定されている。

図 名護東道路



出典:北部国道事務所

図 沖縄ブロック 広域道路ネットワーク計画図 より抜粋



出典:沖縄県の道路 2022(沖縄県)

4. 対象地の概要

(1) 自然環境

① 自然環境の概観

本村が持つ海・山・川の自然環境は、大きな財産となっている。村の南側に本部半島中央部連山の1画を形成する乙羽岳(標高 275.6m)があり、北の東シナ海に向かってゆるやかな傾斜地や平坦地を形成している。河川は、村を東西に2分する形で南の山岳地から北の東シナ海へ2級河川の大井川が注ぎ、さらに今帰仁城跡の東側を志慶真川、その他4本の小河川が流れている。

対象地周辺は、今帰仁村内では比較的公共施設や商工業など主要施設が集積しているが、その周囲は、乙羽岳を背景とする緑に囲まれ、また対象地内で湧水である「ソーリガー」が位置しており、豊かな水量が絶え間なく湧き出て、水路を伝って大井川へと注いでいる。

周囲の丘陵や山林の緑、ソーリガーの水の流れなど、豊かな自然を感じさせる場所である。

図 対象地周辺の地形



出典: 国土地理院発行 2.5 万分の 1 地形図を一部加工

②乙羽岳

対象地の南西側には、今帰仁村では最も高い乙羽岳(275.6m)が背景となっている。本部連山の一面をなす山林で、今帰仁村のシンボル、ランドマークとなっている。多様な生態系を育てており、蝶や植物の観察に適している。

また、山頂近くにある今帰仁村営の「乙羽岳森林公園」内にある閑静な森に囲まれたキャンプ場があり、バンガローやシャワー室、炊事場等が完備され、村民のみならず、観光客も利用できる。森林公園内の展望台からは、今帰仁村の町並みと豊かな自然、青く輝く海を見渡すことができる。



写真 中央公民館から乙羽岳を望む



写真 乙羽岳山頂より対象地側を望む

③ソーリガー

対象地には、「ソーリガー」と呼ばれる湧水から水が湧き出ており、水路を経て大井川に流れている。ソーリガーが位置する玉城区は元々、玉城村、岸本村、寒水村の3つの村から構成されており、ソーリガーの名称は寒水、「清い水」(ソーリ)に由来するとされる。

現在でも豊富な水量を誇り、隣接する工場で利用されている。



写真 ソーリガーから流れる水路



写真 ソーリガーの湧水

(玉城村誌より抜粋)

第五編、玉城・岸本・寒水のムラ歴史

第一章 玉城村の歴史

三、寒水村の歴史

寒水村はパーマと呼び、浜からきた地名である。寒水は「清い水」(ソーリ)に由来すると見られる。寒水村の登場は『琉球国由来記』(一七一三年)からである。カンスイやパーマと呼ばれ、寒水は清らかな水が湧き出ること、パーマは浜、大井川の海水が遡流してたどり着き浜の要素を持った場所。大井川河口の炬港から遡流し山原船が着くと、明治になるとマチが発達した時期があった。マチが仲宗根の前田原に移るとプルマチ(古町)の名称にマチの面影を残しているにすぎない。

第六編 玉城のいろいろ

一、玉城の小字(原)

玉城はタモーシと呼ぶ。玉城と書いてタモーシと呼ぶ例は、仲尾次(中城)はナホーシ、兼次(兼次)はハニーシやカニシがある。宮城真治先生は、「タモーシはタマイシの転化であるとされる(『沖縄地名考』)」。また稲村賢敷氏は「沖縄古代部落マキヨの研究」で、玉城の森にある霊石(タマイシ)から来た地名だとされる。

玉城には①寒水原(パーマ)②ソーリ川原(ソーリガー)③岸本原(キシムトゥ)④ウチ原(ウチバル)⑤古島原(ブルジマ)⑥外間原(フカマバル)⑦東アザナ原(ヒガシアザナ)⑧西アザナ原(ニシアザナ)がある。

②ソーリ川原

集落の麓にソーリガー(清水川)があり、その川名に因んだ名称である

第十三編 玉城の伝承・民話

三一、ソーリ川

寒いと稲は発芽しにくいわけ。そこの大きな川は冬でも水がぬるい、風呂場よりぬくい、この川は。そこに玉城(タマシロ)、知念玉城(チネンタマグスク)から持ってきた稲を、ここで発芽させているわけ。ぬるい水に浸けて、分けよったわけよ、この種籾を。そうして、田んぼに植えて六月二十五日頃には収穫するわけ。ムントウカイは。ムントウカイよ。八月の十五日はね、この種をよ、豊年を祝って、その係の方が非常に見守って四ヶ(シカ)の部落(玉城・謝名・平敷・仲宗根)の方に配給して稲を作った頃なんだ。私等の小さい頃までそれやりましたよ。ソーリガーは苗代だったわけ。

ソーリ川(ガー)のソーリは、昔は、候文(そうろうぶん)の候(ソーロー)でしょ、「書いてください候」と。「候」とは沖縄(ウチナー)の看板があるでしょ、「めんそーれー」と言っ、観光地に。それと人が家(ウチ)に、入って来たら「入ってください」というのを方言で、その頃は和音が無いもんだから、「入り候(イーミソーレー)」と言うでしょ、「入ってください」っていうこと。それから来ている、ソーリ川(ガー)のソーリは。

このソーリ川(ガー)は沖縄でも有名で、水が多くて立派な川である。今、戦前はもちろんだけど、戦後も、地下水が豊富で北部製糖の三千トンの水はそこでまかなえた。水が豊富よ今でも。だからこの「そーれー」を取って、ソーレの道の駅ができています。このソーレは、川の名前と同じように、ソーリ川(ガー)と同じ名前。そこは、北山城(ホクザングシク)よりもまだまだ古いですよ。

(2)土地利用

①歴史的経緯(「今帰仁村史」及び「なきじん研究」より)

今回の計画対象地は、仲宗根と玉城の2つの字に跨っており、2つの字の歴史的経緯を述べる。

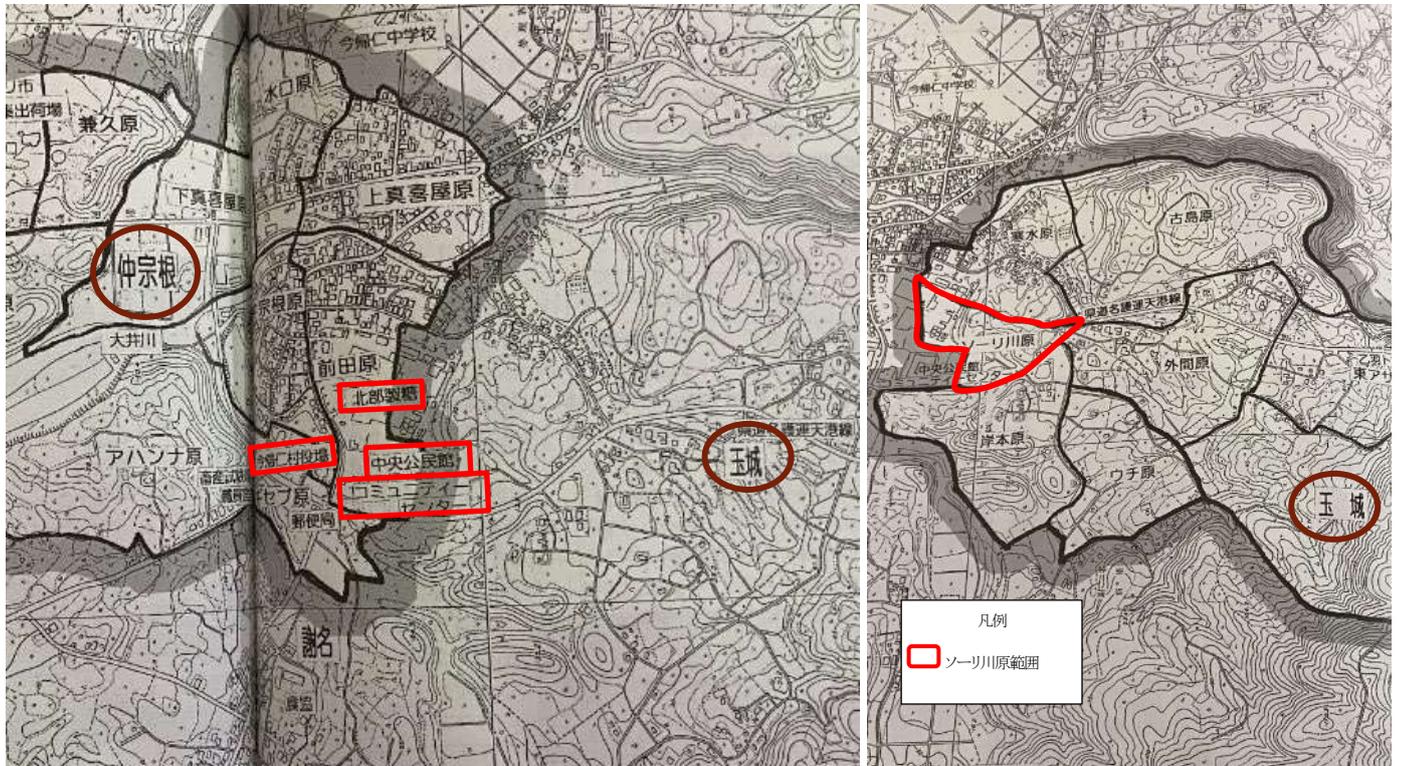
仲宗根は、大井川を挟んで東西に分かれているが、拝所は、西方にあり、根神殿内並びに旧家の屋敷跡は皆西片に在る。東方の田原一帯の部落は西側部落の発展に伴い、人口の増加によって移転したものと推測される。

古老の語りによれば、太古は田原与志古土(よしこと)一帯の低地は皆海で、炬港から船が入港し、現在の渡喜仁に行く所の掛地の前(かきじのめー)の地名は、船を掛けた処であるという。北方の東支那海の中の洲根(すに:浅海の砂洲)であったため、仲宗根と云われたとの伝えがあると語っている。大正5年に運天にあった今帰仁村役場が仲宗根の現在地に移転し、仲宗根は、役場、郵便局、農協、警察、北部製糖工場、パイン工場、学校、銀行等が建ち、都市形態をなし、今帰仁村一の人口戸数を有している。

玉城は、昔、岸本村、寒水村、玉城村の三つの村だったが、明治36年に岸本、寒水の二小村を玉城に併合して玉城となった。

玉城にはソーリ川原(ソーリガール)という小字があり、ソーリ川原は、玉城の字の北端に位置し仲宗根と接していた。北側の崖下にパーマソーリガール(寒水原内)とキシモトソーリガールという湧泉があり、パーマ、岸本両村がそれぞれ生活用水の場として利用していた。キシモトソーリガールは北部製糖工場の敷地側にあり、養鰻場の給水源として利用されていた。養鰻場の跡地は平成9年から公共施設が立っており、パーマソーリガールは拝所として整備されている。

図 仲宗根、玉城の位置図(なきじん研究)



出典:なきじん研究(今帰仁村教育委員会)

写真 バス停や映画館、郵便局が並ぶ通り(昭和 32 年)



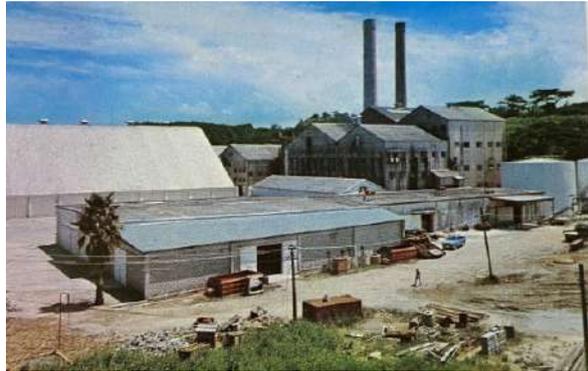
写真 朝のラジオ体操風景(旧市場付近広場)今帰仁村



写真 航空写真(平成3年) 今帰仁村史より



写真 北部製糖工場(平成3年) 今帰仁村史より



②土地利用の変遷(年代別航空写真に見る経緯)

◆1962/06/29(昭和 37 年)

役場庁舎は、1916 年(大正 5 年)に運天から現在の仲宗根に移転した。北部製糖は、1959 年(昭和 34 年)7 月に会社を設立し、同年 12 月に今帰仁工場を建設した。



出典:国土地理院撮影の空中写真(1962 年撮影)より抜粋・一部加工

◆1973/02/10(昭 48)

北部製糖の工場建屋が増えているのが分かる。



出典: 国土地理院撮影の空中写真(1973年撮影)より抜粋・一部加工

◆1977/11/24(昭 52)

北部製糖は1974年(昭和49年)から養鰻事業に着手しており、現在の中央公民館近くやソーリガー付近まで範囲を拡大していた。また、今帰仁村中央公民館は1975年(昭和50年)に建てられた。



出典: 国土地理院撮影の空中写真(1977年撮影)より抜粋・一部加工

◆1993/08/29(平 5)

今帰仁村コミュニティセンターが 1984(昭和 59 年)に建設され、これまで北部製糖が運営していた養鰻事業は、1994(平成 5 年)に撤退した。



出典: 国土地理院撮影の空中写真(1993 年撮影)より抜粋・一部加工

◆2022 年 google map

養鰻場だった敷地の一部に、「今帰仁の駅そーれ」が 1997(平成 9 年)、保健センターが 1998(平成 10 年)に建設され、現在の立地となっている。



出典: googlemap の空中写真(2022 年撮影)より抜粋・一部加工

③土地所有区分

計画対象地周辺の土地所有区分について、村有地を利用して公共施設が立地している。

県道 72 号線の旧道部分が一部里道になっている。今帰仁村コミュニティセンターの東側は、民有地であり、今帰仁村が借用して駐車場に利用している。

写真 土地所有区分

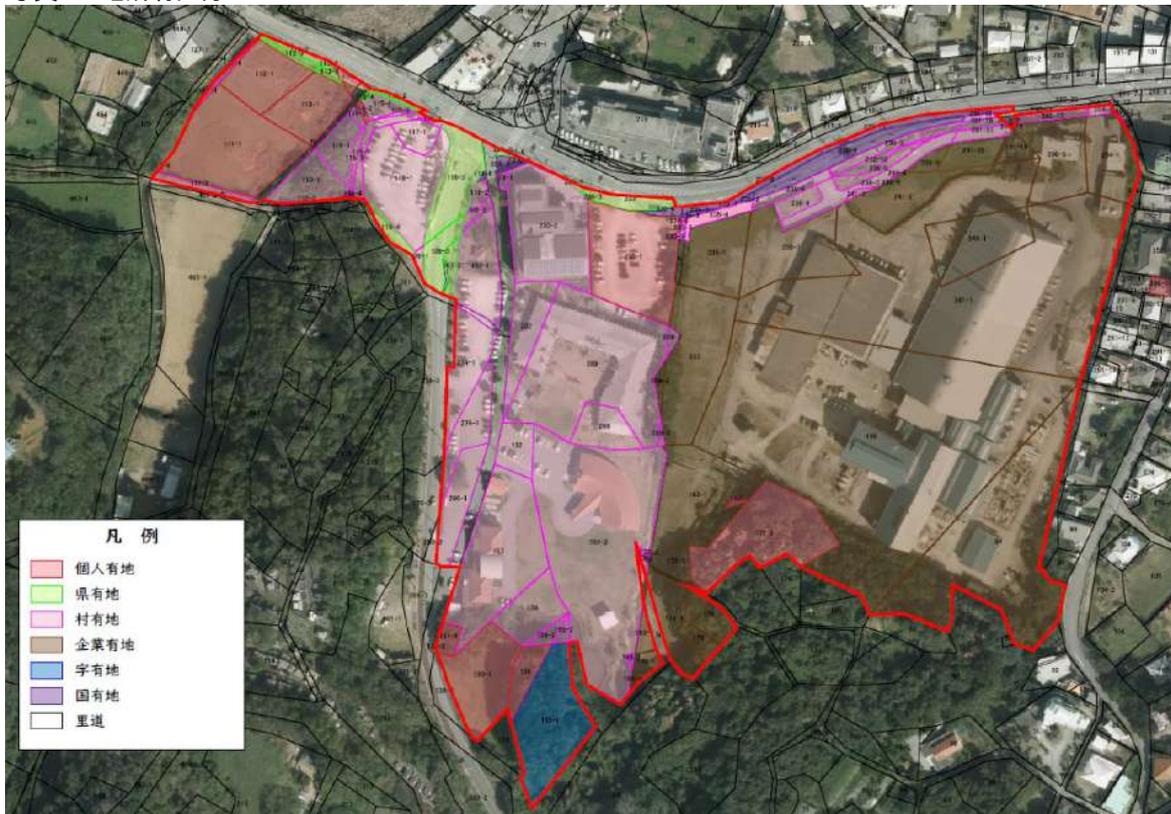
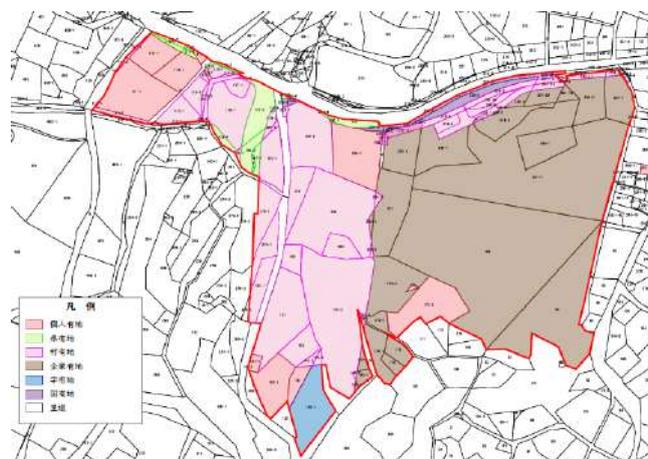


図 所有者別筆数と面積

区分	筆数	面積
企業有地	23	39,181
村有地	55	23,595
個人有地	12	9,290
県有地	17	2,197
字有地	1	1,651
国有地	11	1,319
里道	1	1,207



④土地利用規制現況

計画対象地の土地利用規制については、下表に示す法制度が関連している。

整備あたっては、法制度に基づく許認可が必要になる場合がある。詳細のチェックが必要である。

表 関連する土地利用規制

区域名	根拠法令	指定区域の概要
開発許可申請	都市計画法 県土保全条例	今帰仁村は都市計画区域外であり、3,000㎡以上10,000㎡未満は県土保全条例の開発許可申請、10,000㎡以上は都市計画法の開発許可申請が必要である。
農業振興地域	農業振興地域の整備に関する法律	仲宗根・玉城地域は全体的に農業振興地域となっている。
農用地区域		西側駐車場隣りのサトウキビ畑一帯が農用地となっている。
保安林	森林法	今帰仁の駅そーれの後背地が一部保安林となっている。

参考: 沖縄県土地利用規制現況図 説明書及びを参考に作成

図 計画対象地周辺の土地利用規制現況図



出典: 沖縄県地理情報システム

⑤広域的な位置づけ

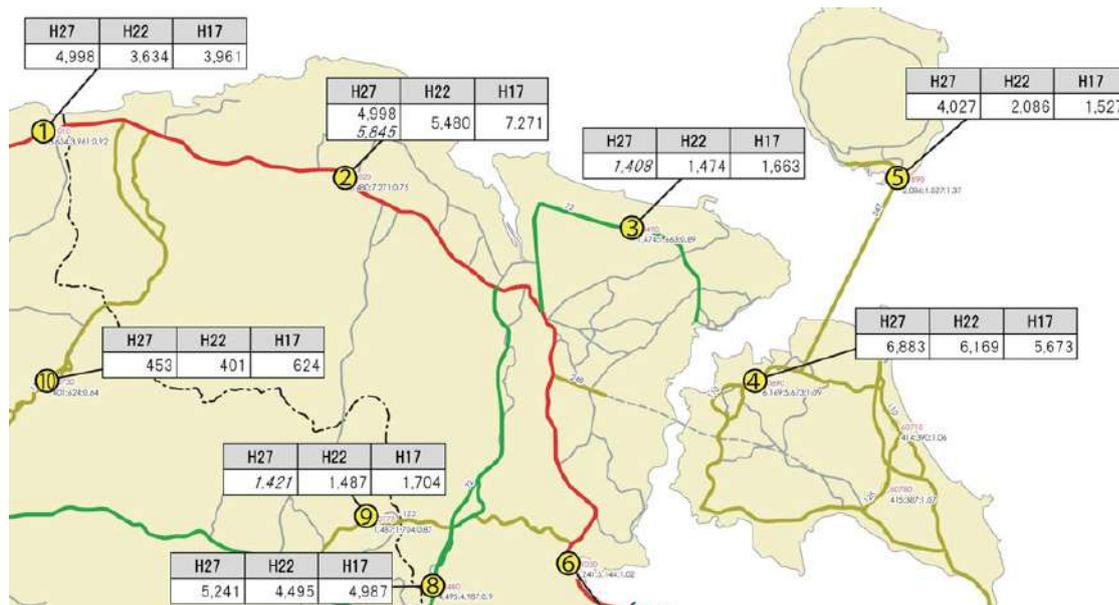
今帰仁村対象地は、広域幹線の国道 505 号、県道 72 号線が交差する位置に隣接している。人気観光スポットの美ら海水族館や今帰仁城跡、古宇利島をつなぐルート上にあつて、道路交通センサスによると、一日当たりの交通量は国道 505 号、県道 72 号線ともに約 5,000 台となっている。

写真 対象地位置



出典: GoogleMap より抜粋・一部加工

図 対象地の位置と交通状況 (24 時間上下合計 ※斜体字は推定値)

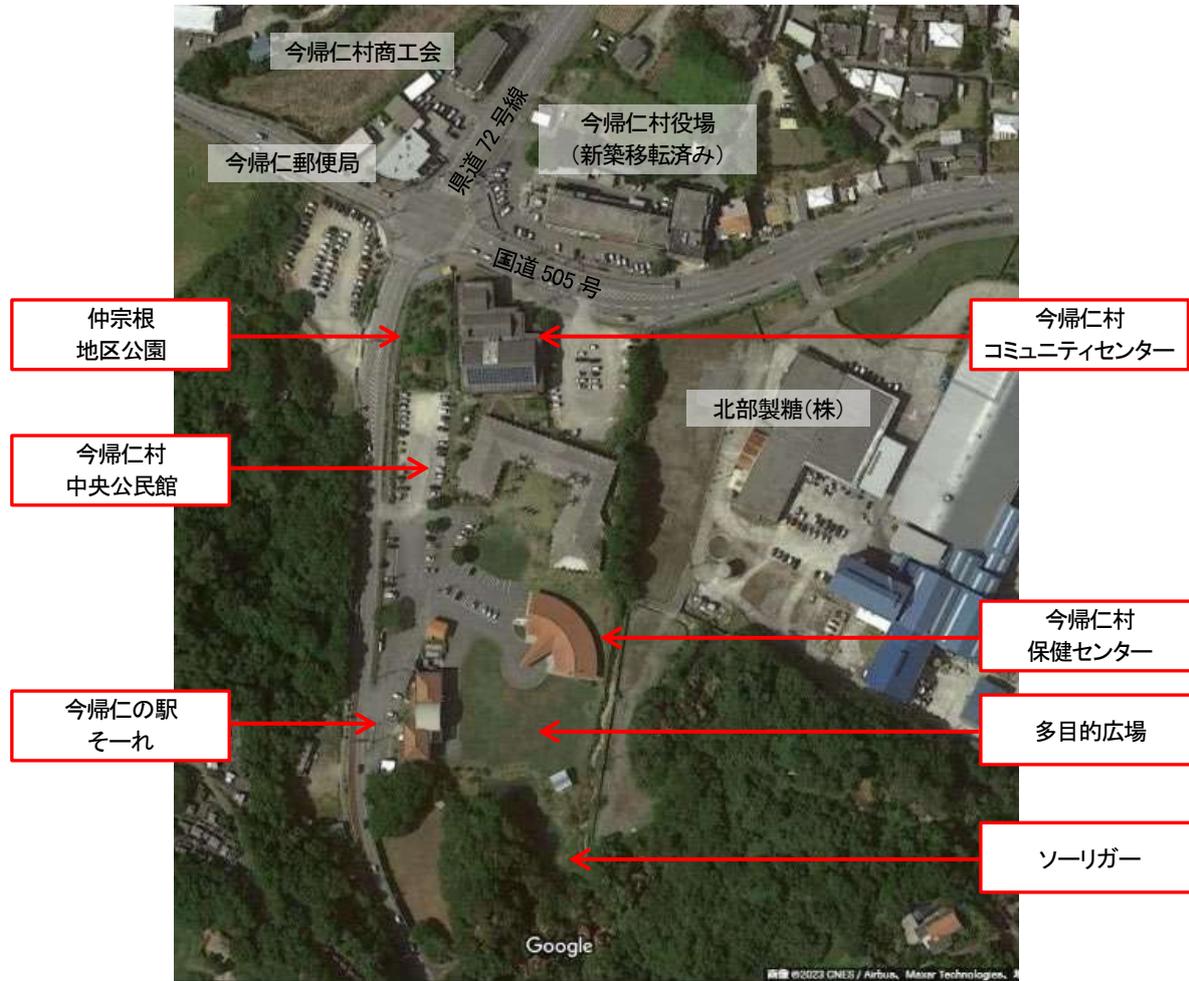


資料: 道路交通センサス

5. 対象となる公共施設の概要

(1)対象施設

計画対象地は、今帰仁村役場に隣接し、公共施設が集積するエリアである。この一帯は、村有地(一部民有地)で、昭和 50 年(1975)に今帰仁村中央公民館が建設され、県道 72 号線の整備や闘牛場の移転、養鰻場(北部製糖株)の撤退など土地利用が変遷しながら現在の形となっている。



出典:googlemap より抜粋・一部加工

表 対象施設一覧

施設名	築年数	現状・課題	備考
今帰仁村中央公民館	48	施設の老朽化により安全面・維持管理での問題がある。建築物としての価値が高く維持・保存を望む声大きい。	教育委員会は新庁舎に移動
今帰仁村コミュニティセンター	39	ホールが2階にあることの使い勝手、利用者の高齢化に対してバリアフリー対策が不足している。	
今帰仁の駅そーれ	26 (一部増築)	立地の視認性、駐車場不足などから、道の駅登録、利用拡大を目指すにあたっては立地の見直し等が必要。	
今帰仁村保健センター	25年	福祉保健課が役場庁舎に移動するため、今後の利活用方法の検討が必要である。	福祉保健課は新庁舎に移動
仲宗根地区公園 (コミュニティセンター横)	32年	周辺集落の農村在住者の健康増進、憩いの場として整備された農村公園である。	
広場(保健センター側) ・ソーリガー		祭り会場などに利用されるほか、子供連れで利用する村民が多い。ソーリガーからの水路が流れている。	

(2)各施設の概要

①今帰仁村中央公民館

今帰仁村中央公民館は、社会教育法に基づき設置された「公民館」である。1975年に竣工し、村全体の公民館として、趣味や芸能・文化等の各種サークルをはじめ、子ども会、老人会、PTA等の各種団体が独自の活動を展開するとともに、住民の健康増進、レクリエーション活動、憩いの場として広く活用されてきた。

今帰仁村役場新庁舎建設に伴って入居していた教育委員会が移動した。

図 今帰仁村中央公民館 平面図（供用開始当時の図）

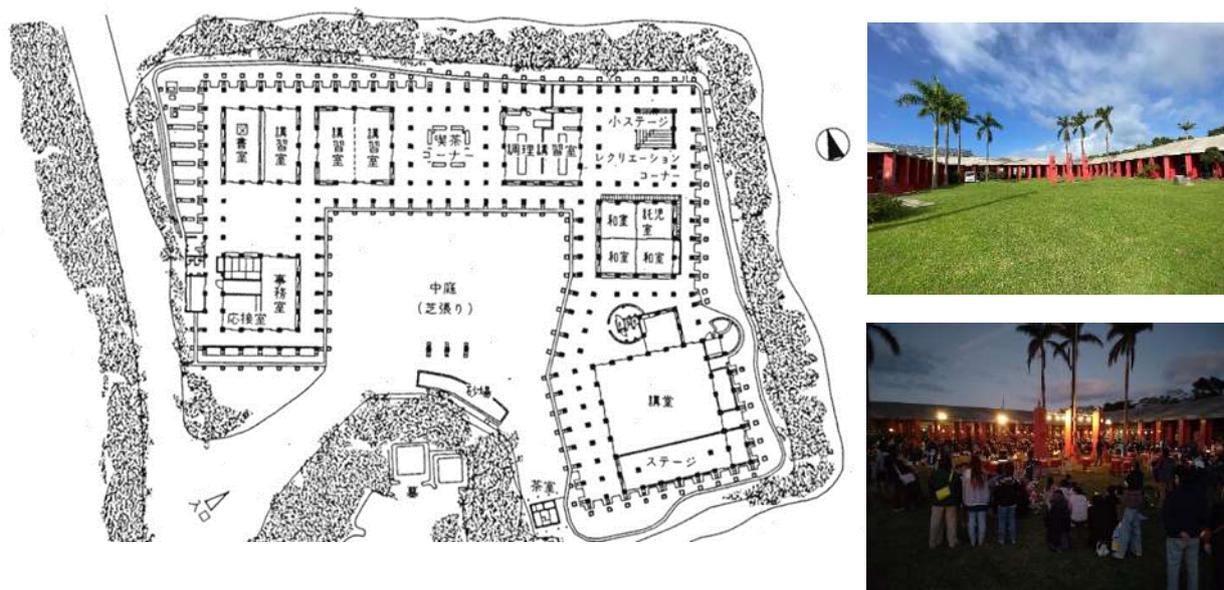


表 今帰仁村中央公民館

供用開始年	築年数	所管	管理者
1975(S50)	48年	教育委員会	教育委員会 (R4年まで入居→R5.1に新庁舎に移動)

棟名	室名	面積	備考
事務棟	事務室、応接室、湯沸室、宿直室	81.00 m ²	のちに事務室増築
	便所A、倉庫A	20.24 m ²	
講習棟	図書室、講習室1	81.00 m ²	
	講習室2、3	81.00 m ²	
	調理講習室	81.00 m ²	
和室棟	和室1、2、3、託児室	81.00 m ²	
	浴室、脱衣室、ボイラ室、便所B	26.07 m ²	
	視聴覚室	20.25 m ²	
講堂	講堂	212.62 m ²	現在は倉庫
	控室、倉庫B	25.30 m ²	
茶室	※現在は撤去されている	7.29 m ²	撤去
	合計(延床面積)	716.77 m ²	(現在は約 779 m ²)

【課題】ヒアリング等より

- 設計にあたりフィールドワークに基づき、今帰仁村の風土が表現されており村民も参加して造られた。建築物としての評価が高い。
- 村内のサークルや団体が利用しており、使用頻度は高い。
- 新庁舎建設で、現在入居・管理している教育委員会は移動する。
- 保存・有効活用を考えていく。シンボリックに残す方法もあるのでは。
- 「中央公民館機能」は確保する必要がある。
- 建築士会がボランティアで調査や保存活動を行っている。

【今帰仁村中央公民館の歴史と価値】

● 地域計画のエポック

今帰仁村の総合計画は、高度経済成長の末期に地方からのアンチテーゼとして「逆格差論」を提唱した名護市総合計画等とほぼ同時期に、同じく象グループが関わって計画されたものである。経済価値優先、都市への一極集中が強化された時代にあつて、地域の潜在的資源を重視し、自然保護・住民自治・基盤づくりを原則とした。

その手法及び地域に徹底的に根差す見方は、地域計画のエポックとして評価されている。

また総合計画と並行して建設が進んでいた今帰仁村中央公民館は、原則とした「住民自治」の拠点として、また村民生活の各分野を支える拠点として計画された。建設以来長きにわたり村民に親しまれ、村の発展に寄与してきたものであり、名護市役所と並び地域計画において歴史的な意味のある建築である。



● 風土に根差した優れた建築計画

中央公民館の建築計画の特徴として以下が挙げられる。

- 沖縄の伝統建築の特性を読み解き、アマハジや低い軒先、直線的な構成などの要素を近代建築に取り入れ再構築したデザイン
- 広場を中心とした配置計画
- 亜熱帯の環境に適した半屋外空間を中心とする建築
- 玄関がなくどこからでもアクセスできる自由度の高さ
- 自力建設・自力での管理運営をコンセプトに、手に入る材料とシンプルな形態で構成

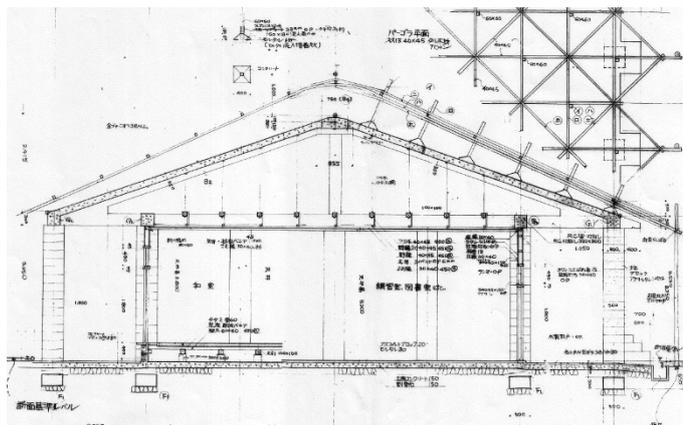
【参考:DOCOMOMO 登録内容】

ドコモモは、モダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織です。日本の近代建築の再評価のための活動を行うとともに、取り壊しが予定される近代建築について保存要望書を提出する等の保存活動に取り組んでいます。(ドコモモ・ジャパン HP より)

● 交流を生み出す場づくり

中央公民館は、当初計画されたように、村民のコミュニティ活動、文化活動、社会福祉サービスなど様々な活用がなされ、多様な交流を生み出す場として機能してきた。その後、各種施設が充実したことで中央公民館の各機能が移転拡大していったが、今も多くのサークル等が活動し、半屋外空間では地域の子供たちが集まり思い思いに過ごす風景がみられる。

図 設計当初の三層構造屋根



	中央公民館での交流活動の内容	機能移転先
サークル活動	多様なサークルが活発に活動している。公民館の自主事業としての講座も多数開催されている。	
調理室	サークル活動、自主活動など。当初は生活改善グループの活動や加工品開発などの拠点であったが、のち「そーれ」に移転した。	そーれ
公演・イベント等	ホールを中心に、芸能その他の公演、講演、祝賀会、イベントなどが多数行われていた。ホールはコミュニティセンター整備後も活発に利用されていたが、現在は老朽化により閉鎖している。	コミュニティセンター
保健・福祉サービス	ホール等において検診など保健・福祉サービスが実施されていた。現在は機能移転している。	保健センター
図書サービス	村の図書館として機能していた。本格的な図書館建設後も、図書室は存続し身近に本と触れ合える場となっている。	村立図書館
野外集会所	中庭が野外活動の場としてフレキシブルに使われる。大規模なイベント等は隣接するお祭り広場に移転した。	お祭り広場

● 他施設との連携や発展を前提

中央公民館は計画当初より、公民館単体ではなく各字の公民館や様々な公共施設と連携し、総合的に村民の生活基盤を整えていくことが前提となっていた。また当地を村民センターとして交流と自治活動、公共サービスが行われる中心地とすることが明確に立案されていた。

そのような思想は現在でも生かされており、役場の建替えもあって、当地一帯には村の発展を推進する中心地としての期待がますます高まっているところである。

ただ建設時点では用地の制約があったためか、中央公民館は独立して建てられ、また配置計画も役場と反対側に開く形であるなど、周辺施設とのフィジカルな関係性を示すには至っていなかった。その後、隣接地に段階的にコミュニティセンターやそーれ、駐車場、保健センターなどが整備されていくが、施設間のつながりはあまり感じられず、中央公民館は奥に囲い込まれた形になっているのが現状である。

【今帰仁村中央公民館の利用状況】

【利用状況】

分類	H30	H31/R1	R2	R3
中央公民館講座	347	109	56	103
サークル	11,709	11,013	7,586	2,906
高齢者学級	75	72	12	13
合計	12,131	11,194	7,654	3,022

※利用者数は延べ数



中央公民館講座



サークル活動



維持管理方法ワークショップ



今帰仁日曜朝市

【利用者内訳（平成30年）】

1、中央公民館講座

講座名	回数(回)	参加延べ人数(人)
かぎやで風教室	5	105
子ども民謡教室	5	101
将棋教室	5	20
三線教室	5	85
琴教室	5	11
ポーセラーツ教室	5	25
合計	30	347

2、サークル

場所	サークル名	回数	利用者数	述べ人数
講堂	今帰仁木踊会	47	27	1,269
	民謡サークル風車	50	26	1,300
	今帰仁トコたんぼぼ	51	22	1,122
	民謡サークル	12	43	516
和室	野村流協会今帰仁支部	6	18	108
	琉球古典音楽部会	6	21	126
	書道	50	7	350
	生け花サークル(嵯峨御流)	51	8	408
	体操教室	52	10	520
	ヨガサークル	50	10	500
	自学塾	96	16	1,536
	アネットフラサークル	100	23	2,300
	フラサークルカバジャリ	49	12	588
研修室A	韓国語サークル	35	10	350
	オカリナサークル	24	8	192
	水墨画サークル	24	6	144
	ジュニアリーダー定例会	12	17	204
研修室B	しまくとばサークル	16	11	176
合計		731	295	11,709

3、高齢者学級

場所	内容	参加人数
中央公民館 講堂	アメリカン・フラワー	21
中央公民館 講堂	「サギにあわないための基礎知識」	14
中央公民館 講堂	健康体操	24
中央公民館 講堂	音楽鑑賞・記念撮影	16
合計		75

総合計(1～3)	述べ人数
	12,131

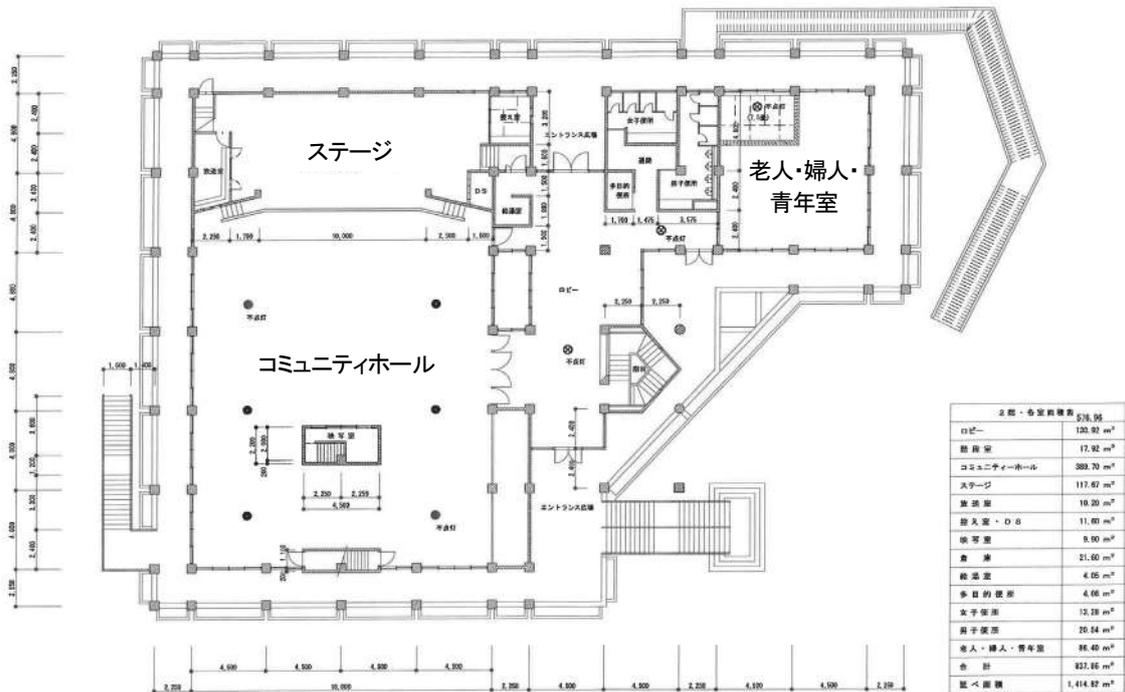
出典(利用状況):今帰仁村教育委員会

②今帰仁村コミュニティセンター

今帰仁村コミュニティセンターは、1984年に竣工した。村民の自主的活動の助長と、社会福祉の増進及び魅力ある新しいふるさとの活性化をめざし、広く内外等の交流を通じて、豊かな人間形成のコミュニティの場として設置されたものである。

中央公民館の活動を補完する形で、村民の作業・研修、娯楽、機能回復などを備えるとともに、2階のホールは最大350名の収容可能である。1階に観光協会が入居しており、選挙の際には選挙管理委員会が事務室として利用している。

【2階平面図】



【1階平面図】

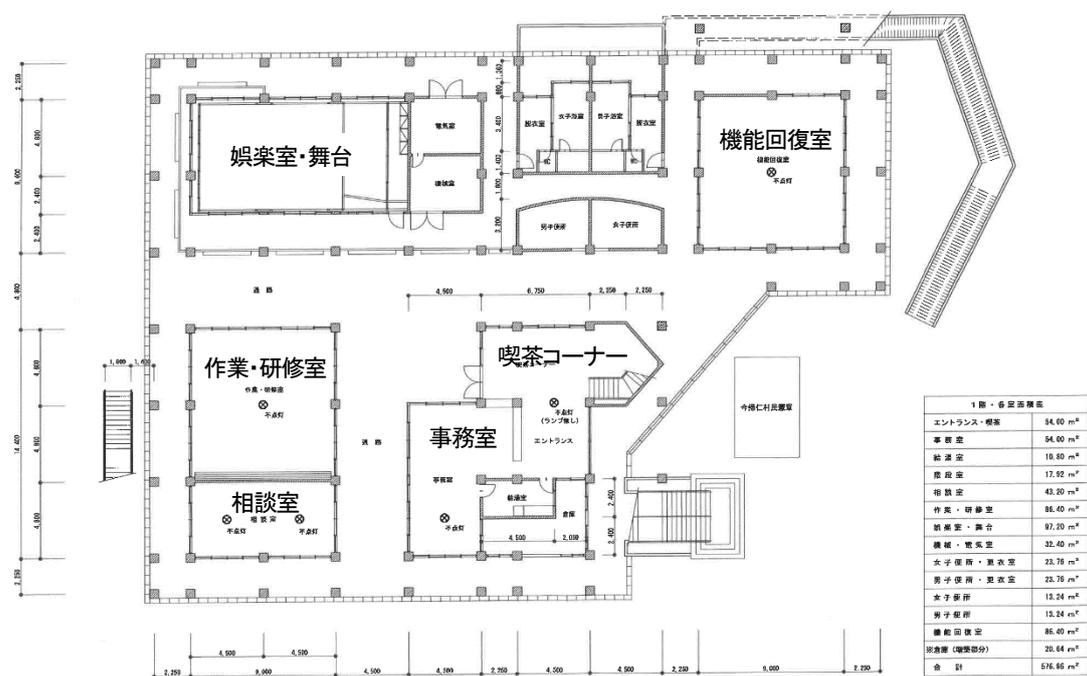


表 今帰仁村コミュニティセンター

供用開始年	築年数	所管	管理者
1984(S59)	39年	総務課	総務課

階	主要室名	面積	備考
1F	エントランス・喫茶コーナー	54.00 m ²	
	事務室・給湯室・階段室	82.72 m ²	
	倉庫(増築部分)	20.64 m ²	
	相談室	43.20 m ²	
	作業・研修室	86.40 m ²	
	娯楽室・舞台	97.20 m ²	
	機能回復室	86.40 m ²	
	その他(トイレ、機械・電気室等)	105.40 m ²	
	1F 計	576.96 m ²	
2F	ロビー・階段室	148.84 m ²	
	コミュニティホール	389.70 m ²	
	ステージ	117.67 m ²	
	放送室、控室、映写室、倉庫、給湯室	57.35 m ²	
	老人・婦人・青年室	86.40 m ²	
	便所(男女、多目的)	37.90 m ²	
	2F 計	837.86 m ²	
	延べ床面積	1,414.82 m ²	

【課題】ヒアリング等より

- 1階に観光協会が入居しており、選挙の際に選挙管理委員会が事務室で利用している。
- 電気代が年間約 300 万円かかっている。
- ホールが2階にあるがエレベーターがなく、利用者は階段やスロープで上る必要がある。
- ホール収容数は 350 人、村の敬老会は午前・午後の 2 部に分けて開催している。
- 建物が古く照明や空調に不具合が出て 1000 万円もかかるため改修できない。



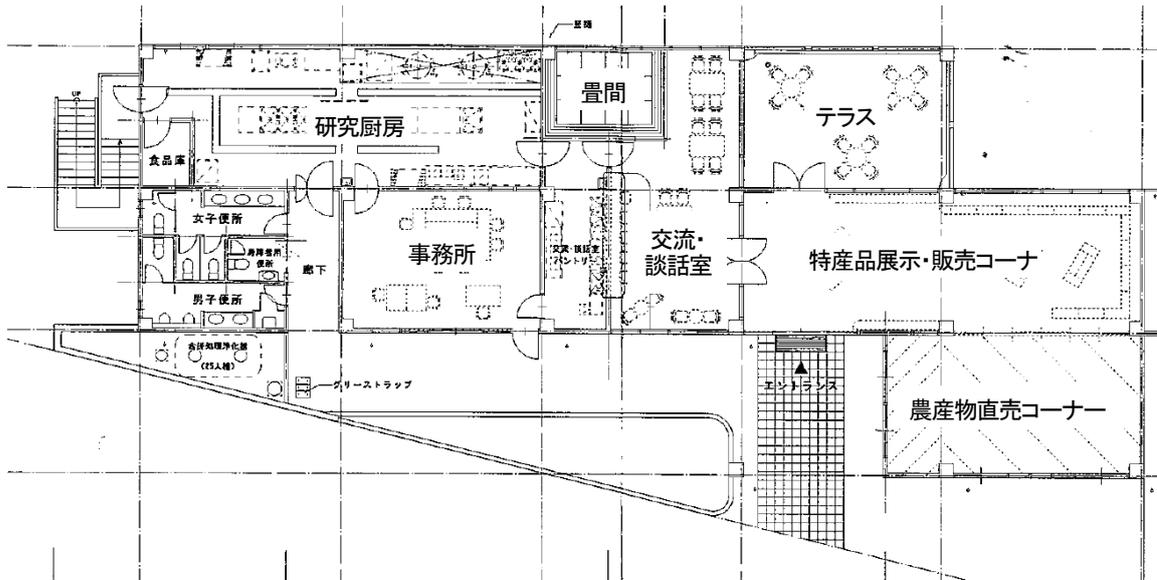
【利用状況】令和3年度

	ホール	団体室	研修室 A	研修室 B	和室	合計
回数	38	0	17	0	23	78
人数	1,394	0	157	0	493	2,044

③今帰仁の駅そーれ(中山間事業利活用施設)

今帰仁の駅そーれは、正式名称を「今帰仁村中山間事業利活用施設」といい、1997年に竣工した。この施設は、農林水産物の販売や特産品の加工直売をはじめ、村民の交流の場として、また、情報発信の場としての役割を有し、かつ、産業観光の振興に寄与し地域の活性化を目指すことを目的として設置されたものである。2011年に商品開発施設(1F)、2013年に隣接地にトイレが増設され、現在に至る。今帰仁村経済課が「(有)そーれの会」に管理委託している。

【2階平面図】



【1階平面図】

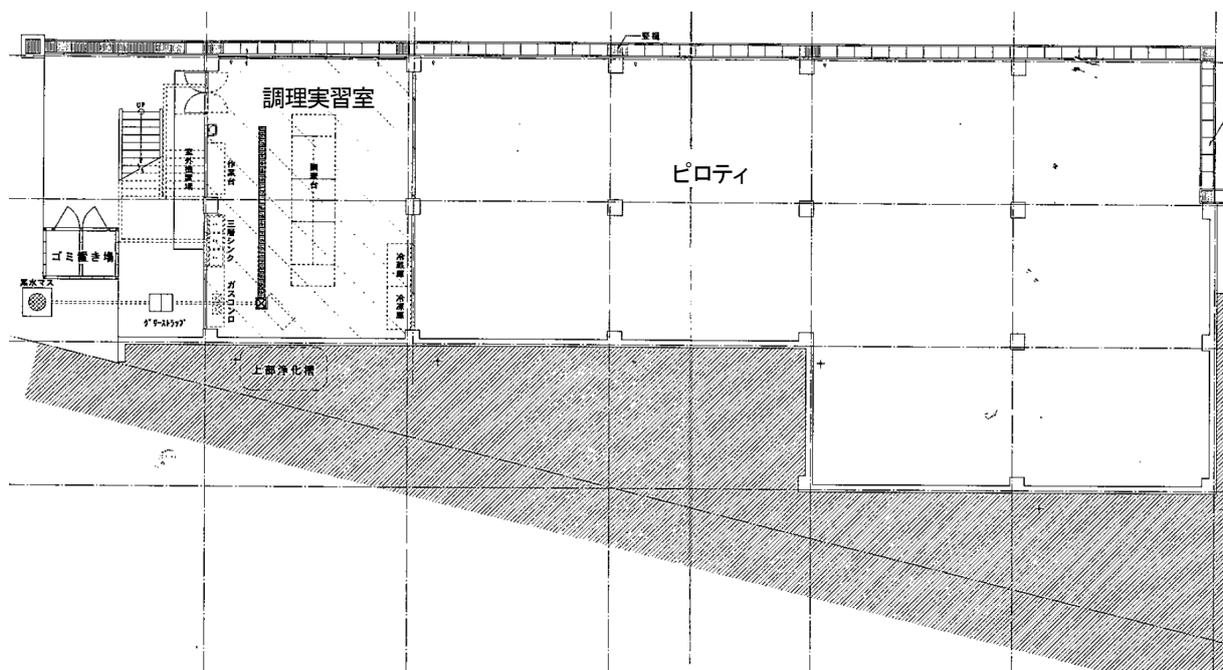


表 今帰仁村中山間事業利活用施設

供用開始年	築年数	所管	管理者
1997 (H9)	26 年	経済課	(有)そーれの会(管理委託)

	主要室名	面積	備考
1F	調理実習室	72 m ²	2010(H22)年 改修
	ピロティ	313 m ²	
	1F 計	385 m ²	
2F	特産品展示・販売コーナー	70 m ²	
	農産物直売コーナー	44.78 m ²	2010 年(H22) 改修・増築
	交流談話室、パントリー、畳間	70 m ²	
	研究厨房・食品庫	70 m ²	
	事務所	35 m ²	
	便所・廊下、その他	35 m ²	
	2F 計	324.78 m ²	
	延べ床面積	709.78 m ²	

【課題】ヒアリング等より

- 地元農家と消費者をつなぐ役割を担っている。
- ホールの空調機器等のメンテナンスに不便がある。(梯子が必要)
- ピロティはパッカー車等駐車に利用している
- ソーレ大感謝祭に演者 100 名、300～400 名が集まる。
- 若手の従業員が少ないのが課題。
- 道の駅的な施設ができるならテナントとして食材提供等などはできるかもしれない。

【利用状況】(人)

H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R1	R2
79,241	72,896	75,203	72,679	75,238	74,049	72,525	69,481	70,153	66,426	70,333

「(有)そーれの会」

今帰仁村の生活改善グループが、自分たちの経験や技術を活かしながら「地元の農産物を使った加工販売がしたい」という強い想いから、12 人の女性メンバーで「そーれの会」を結成。「女性だけで企業を！！」を合言葉に、農産物の直売所、加工施設、レストランを併設した「今帰仁の駅そーれ」で経営活動を続け、2006 年 5 月に有限会社化を実現した。(今帰仁の駅 そーれの会 HP より)



④今帰仁村保健センター

今帰仁保健センターは、地域保健法に基づき設置された保健センターで、1998年に竣工した。

地域住民の健康の保持及び増進を図ることを目的としており、福祉保健課が所管し入居していたが、新庁舎建設に伴い移動しており、現在は集団検診等で利用されている。

【平面図】

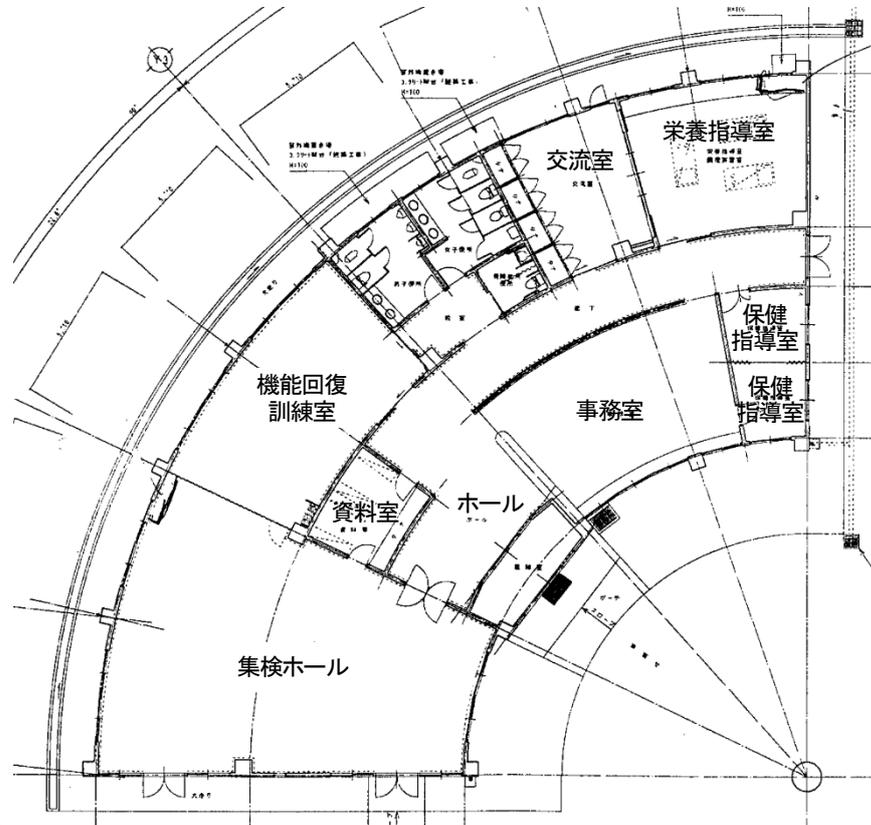


表 今帰仁村保健センター

供用開始年	築年数	所管	管理者
1998(H10)	25年	福祉保健課	福祉保健課 (R4年まで入居→R5.1に新庁舎に移動)

主要室名	面積(m ²)	備考
集検ホール	145 m ²	図上計測値
機能回復訓練室	60 m ²	〃
資料室	15 m ²	〃
交流室	35 m ²	〃
栄養指導室(調理実習室)	45 m ²	〃
保健指導室1, 2	20 m ²	〃
トイレ	45 m ²	〃
事務室	60 m ²	〃
ホール・廊下その他	85 m ²	〃
延べ床面積	510 m ²	

【課題】ヒアリング等より

- 保健センターは福祉保健課で自主管理している。
- 新庁舎ができると福祉保健課はそこに移動する。その場合でも集団検診機能を残す必要がある。
- 集団検診のみの利用では利用頻度が少ない。
- 地域住民の健康保持、増進を図るための機能の維持又は同機能が別で確保できれば、保健センターを別用途で利用する可能性はある。
- こども食堂やこどもの居場所に絡めて子育てにかかわる地域の有志が活動できる場があればよい。

【利用状況】(人) R4

項目	回数×人数	人数	備考
乳児健診	5回×50人(親子)	250人	
1歳半・3歳児健診	6回×54人(親子)	324人	
ピアママ教室	3回×5人(親子)	15人	
住民健診	5回×120人	600人	
婦人検診	4回×60人	240人	
こころの健康相談	6回×3人	18人	
精神連絡会	6回×10人	60人	

○今帰仁村保健センターの設置及び管理に関する条例では、今帰仁村保健センターは次の業務を行うこととされている。

- (1) 健康相談に関すること。
- (2) 健康教育に関すること。
- (3) 健康診査に関すること。
- (4) 保健指導に関すること。
- (5) 予防衛生に関すること。
- (6) 機能回復訓練に関すること。
- (7) 自主的な保健活動に関すること。
- (8) その他保健センターに必要な事業に関すること。



⑤仲宗根地区公園

仲宗根地区公園は、農村総合モデル整備事業で整備された農村公園で、1993年に竣工した。

近隣6集落の農村在住者の健康増進、憩いの場として整備されたものである。



【平面図】

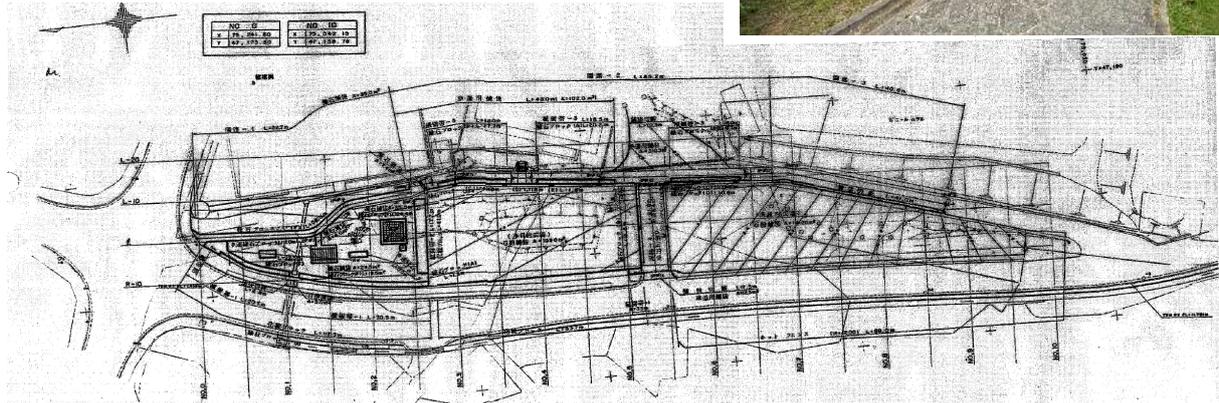


表 仲宗根地区公園

供用開始年	築年数	所管	管理者
1993 (H5)	30年	経済課	経済課
面積(m ²)	整備概要	備考	
4,308 m ²	パーゴラ1基、東屋1棟		

⑥多目的広場

保健センター、今帰仁の駅そーれ、ソーリガーに囲まれて、芝広場が整備されている。以前は養鰻場として利用されていた土地である。

祭り等のイベントに利用された経緯がある。村民の憩い、こどもの遊び場として多目的に利用されている。



第2章 ニーズ調査

1. 関係機関ヒアリング

(1) 庁内関係部署

実施日時	令和4年9月26日
場所	今帰仁村中央公民館 研修室
参加部署	総務課、経済課、社会教育課、福祉保健課、企画財政課

【主な意見】

- 今帰仁村立図書館は、少し外れたところ(今帰仁村子育て支援センター内)にあり、約 100 m²程度と小さい。対象地一帯に機能を移転できると良いと考える。
- 図書館の機能の他にも、お茶やコーヒーを飲みながら、ゆっくり時間を過ごせて時間をつぶせるような機能があると良いと思う。
- 対象地一帯は、今帰仁村の“へそ”の位置にある好立地である。
- 村外の方から、日曜日に村を訪れても食事場所がないとよく言われる。少年野球やイベントは多いが、大人数に対応した食事場所がない。対象地一帯に食事場所ができれば、庁舎の来訪者も利用すると思う。
- こども食堂やこどもの居場所に絡めて、子育てに関わる地域の有志が活動できる場をつくれたらよい。対象地一帯が村の中心であることから、無料塾のような安全安心を考慮した機能を整備できないか、という話もあがっている。
- 今帰仁の駅そーれは、道の駅として国道側に移設する場合、駐車場のスペースが足りないため、隣接する土地を確保しながら、段階的に整備する方がよいと考える。道の駅として整備する場合、様々な条件があるため、こじんまりとした施設を整備するより、ある程度の面積を確保しつつ、時間をかける必要がある。
- 保健センター横の広場にある小規模の舞台は、イベント時には前に仮設の舞台を組み立てて、既存の舞台はバックヤードとして活用している。既存の舞台は小さくて高さもあまりなく、踊りを披露するにもアプローチが短い。広場としては芝生で使い勝手がよい。村の中心であるため、祭りを開催するにも立地がよい。
- 仲宗根農村公園は、農村モデル事業で整備された地区公園であり、役場の管理となっている。

(2)村内関係機関

	機関名	対象者
11/26(土)	中央公民館維持・保全活動ボランティア	東京理科大学教授 今本啓一氏 沖縄県建築士会 根路銘安史氏
11/30(水)	現代版組踊 北山の風	北山ていーだの会 事務局上間敦子氏
12/02(金)	今帰仁村生活改善グループ	(有)そーれの会 代表 鈴木江美子氏
12/06(火)	今帰仁村商工会	事務局長 島袋禎好氏
12/06(火)	今帰仁村観光協会	事務局長 横澤一美氏
12/09(金)	今帰仁村内建築家	建築設計工房 paraya 代表 島袋勝也氏

【主な意見】※同様の意見は集約しています。

- 建物の塩害、劣化に対する生きた見本(中央公民館)。
- 村の中心で集まりやすい場所。住民どうしのふれあい・交流の場。
- 公共施設や商業施設が集約された拠点形成。
- 子供たちを遊ばせる場所。
- 図書館機能があるとよい。村内外の交流の場となるとよい。
- 水の流れを有効利用し、ビオトープなど、生き物とのふれあい、学習、花木等での演出。
- 北山文化圏の交流の場。芸能などを発表できる場所。
- ホール機能は平屋が良い。
- 村民と村外の人がふれあえる場所、キーワードは「交流」
- 夜市、朝市など賑わいづくり、村内外、若い方や移住者などがビジネス展開できるチャレンジショップなど。
- レストラン機能の復活。
- 道の駅機能は、古宇利島の施設もあるので機能分担がよいのでは？
- 教育民泊の入村・離村の場所が必要。(雨でも使えるピロティ機能、大型バス8台程度)
- ワークション・コワーキング機能、カフェ併設で村内外のコラボスペースなどがあるとよい。
- 料理スペースがあれば料理体験、料理教室等に使える。
- 農産加工施設(名護にあるアグリパーク的なもの)があるとよい。
- 健康増進のためのジムのようなものがないか。
- 広場には遊具等は置かずに広い空間としての使い方がよい。
- 役所のリニューアルに伴い、オープンなスペースが生まれるのでそれを活かした拠点づくりをするとよい。
- コミュニティセンターをもし建て替えるなら、中央公民館のアマハジとつなぐなどコンセプトを合わせるとよい。

(3)有識者(象設計集団)

令和3年10月12日 象グループ関係者 ヒアリング

象設計集団 富田玲子氏 小山賢哉氏
アトリエ・モバイル 丸山欣也氏 浅沼秀治氏
龍環境計画 内田文雄氏
千葉県地方自治研究センター 若井康彦氏



【ヒアリング要旨】

- 中央公民館を残していただきたい。保存・活用についてのワークショップなどは協力していける。
- 全国的に歴史的建造物の保存・取り壊しの議論はいくつもあり、実際の利用者である地域住民の意思が尊重されるべきである。
- 活用の在り方を村民含めて議論できるといい。



2. シンポジウムの開催

(1)開催概要

中央公民館エリアを活用した村づくりを考えるということをテーマに地域住民および関係者を集めてシンポジウムを開催した。

■目的

中央公民館の価値を見直し、今後の活用と周辺エリア整備方針について考える。

■日時および場所

日時：令和5年2月18日（土）15：00～17：00

場所：今帰仁村コミュニティセンター

参加人数：86人（村内：53人 村外32人 不明1人 男性：53人 女性：33人）

■内容

シンポジウム

- (1) パネルディスカッション（有識者からの提言とクロストーク）
- (2) フロアディスカッション（参加者との質疑応答）

■【パネルディスカッション登壇者】

- 若井康彦氏 千葉県地方自治研究センター理事長（今帰仁村第1次総合計画策定に関わる）
- 山名善之氏 東京理科大 教授（建築史 コルビジエ作品の世界遺産登録に貢献）
- 服部 敦氏 中部大学 教授（地域計画 象設計集団の研究等）
- 渡邊朋子氏 埼玉県宮代町コミュニティセンター「進修館」指定管理者



今帰仁の未来を考えてみよう！シンポジウム

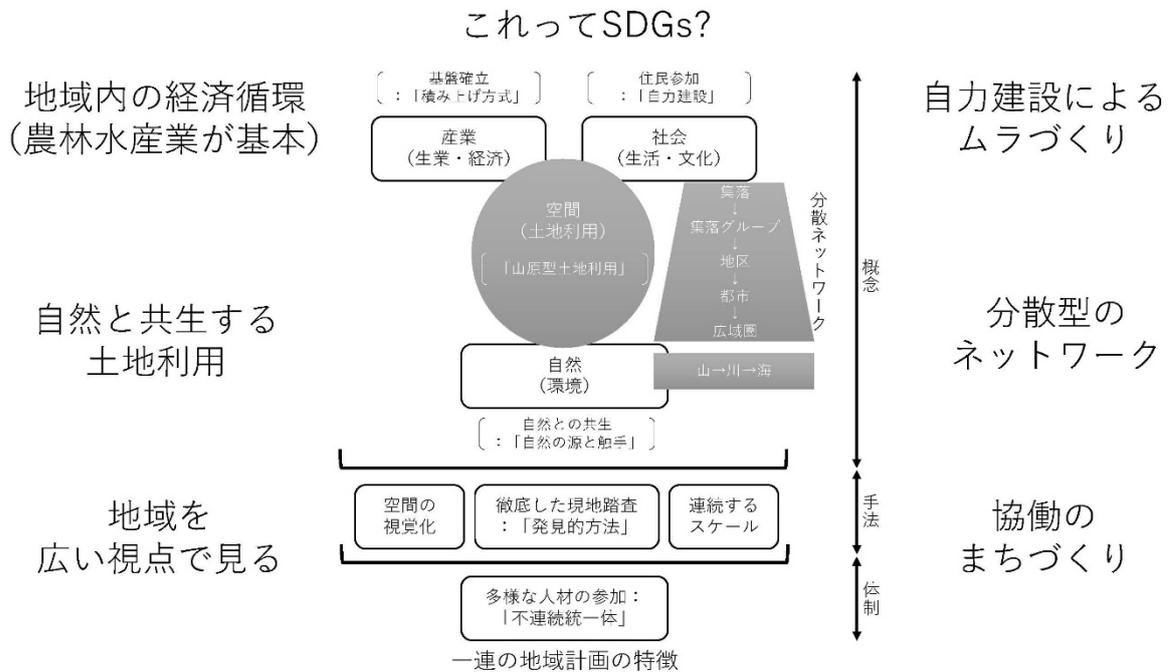
中央公民館エリアを活用した村おこしを考える

日時：2023年2月18日(土) 15:00 - 17:00	役場の新庁舎が完成し、役場周辺の公共施設再編と既存施設の有効活用という観点から、今帰仁村の新たな魅力創出と拠点形成の一環として中央公民館エリアの整備計画を策定しています。中央公民館の保存と活用という切り口から、当該エリアの今後の整備のあり方について、有識者をお招きし議論する場を設定しました。
場所：今帰仁村コミュニティセンター	
主催：今帰仁村 今帰仁村教育委員会	より多くの村民に村づくりに主体的にかかわってもらい、村民一人ひとりが今後10年 - 50年の今帰仁村の住みよみ環境のために情報共有をはかり、共に考えます機会とします。
後援：今帰仁村商工会 今帰仁村観光協会	
内容：●パネルディスカッション ●フロアディスカッション	若井康彦氏 千葉県地方自治研究センター理事長（今帰仁村第1次総合計画策定に関わる） 山名善之氏 東京理科大学 教授（建築史・都市計画・建築設計、特に米澤実の建築文化遺産登録に関与） 服部 敦氏 中部大学 教授（都市計画・都市設計・まちづくり、景観設計集団の創設者） 渡邊朋子氏 埼玉県宮代町コミュニティセンター「進修館」指定管理者
問い合わせ	今帰仁村企画財政課 電話0980-56-2114

(2)有識者の提言

①計画遺産

象設計集団が残した地域計画は、一連の建築物と一体として今日求められている SDGs にも繋がる考え方が体现されている。



中部大学の服部先生からは、個々の建築物として評価するだけでなく、一連の地域計画の価値ある概念や手法が現れたものとして、象設計集団の作品を評価し保存活用してはどうかと提案いただいた。そのことを「計画遺産」というキーワードで表された。

②リビング・ヘリテージ

東京理科大学の山名先生からは、建築を文化財としての遺産という概念から、20世紀建築のモダン・ムーブメント建築の考え方として、「使い続ける保存・リビング・ヘリテージ」という概念が示された。それは、変化を容認する保存の考え方で、オーセンシビティ(真正性)とインテグリティ(全体制)の両面をとらえていく。



APPROACHES FOR THE CONSERVATION OF TWENTIETH-CENTURY ARCHITECTURAL HERITAGE, MADRID DOCUMENT 2011 Madrid, June 2011

- Article 2: Apply appropriate conservation planning methodology.
- 2.1. Maintain integrity by understanding significance before any intervention.
- 2.2. Use a methodology that assesses cultural significance and provides policies to retain and respect, prior to conservation work.
- 2.3. Establish limits of acceptable change.
- 2.4. Use interdisciplinary expertise.
- 2.5. Provide for maintenance planning.
- 2.6. Identify responsible parties for conservation action.
- 2.7. Archive records and documentation.

MANAGE CHANGE TO CONSERVE CULTURAL SIGNIFICANCE

- Article 4: Acknowledge and manage pressures for change, which are constant.
 - Article 5: Manage change sensitively.
- Cultural significance, Authenticity, Integrity

③シビックプライド

象設計集団が手掛けた建築物で埼玉県宮代町にあるコミュニティセンター進修館の指定管理を行う NPO 法人 MCA サポートセンターの渡邊さんより、進修館での取り組みを伺った。住民生活によりそう、コミュニティの中心として様々な取り組みを紹介していただいた。

今後は、進修館のファンクラブ「修繕ワークショップ」などでの情報交換や、運営等でも情報交換をしていきたいとの提案があった。

コミュニティセンター進修館とは

- 開館昭和55年（1980年）7月
- 建築年月昭和54年（1979年）3月～昭和55年（1980年）5月

- 面積
建設面積2,484平方メートル
延床面積2,955平方メートル

- 設計 象設計集団 施工 間組



2009/03

コミュニティセンターのサイト

④静止人口社会

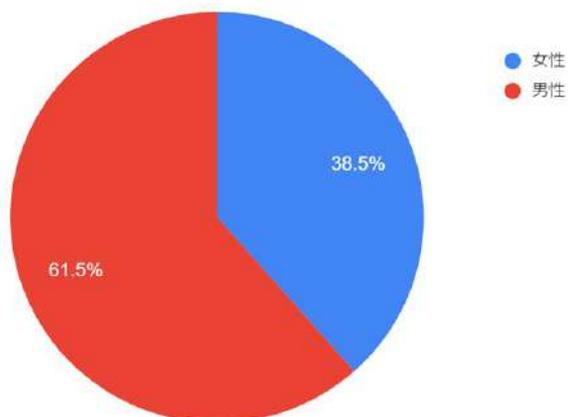
千葉県地方自治研究センター理事長の若井氏からは、今帰仁村は50年前から人口があまり減っておらず、維持していることは全国的にみると非常に珍しいという指摘があった。若年者の人口減はみられるものの、本村における隠された魅力であり、そのことを言語化し今回の整備事業に結びつけることで、(仮称)北山文化圏センター整備の方向性が見てくるのではないかと指摘があった。



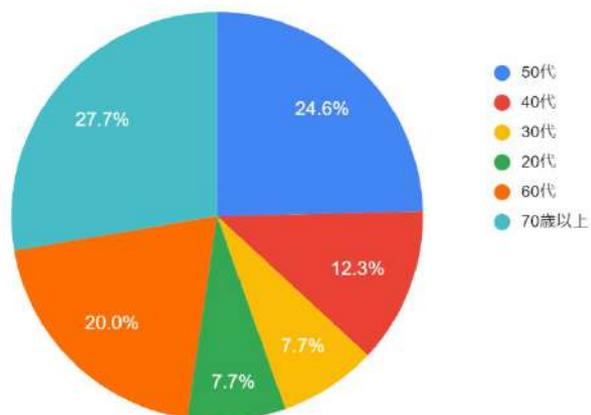
(3)アンケート結果

シンポジウム会場で参加者にアンケートを行った。設問と回答詳細は資料編とし、本項では結果概要と簡単な分析を示す。

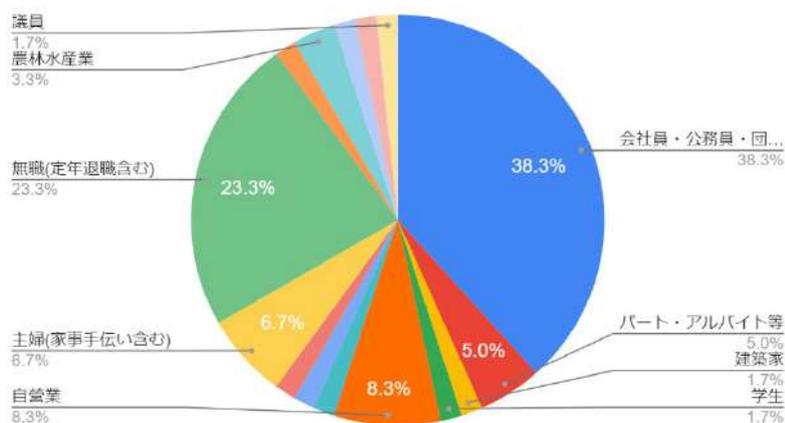
あなたの性別を選んでください。



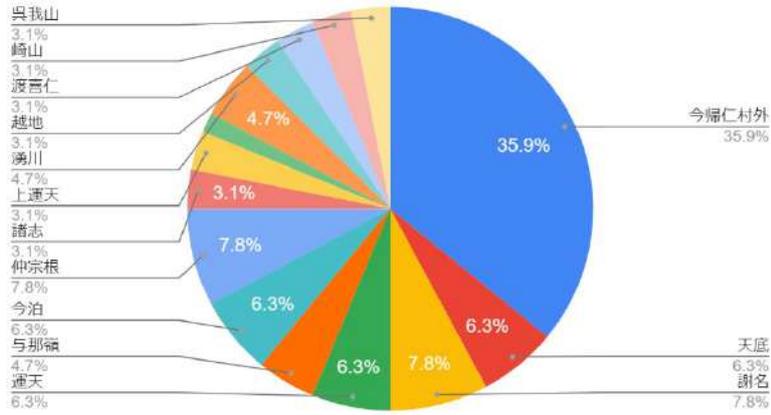
あなたの年齢が当てはまる年代を選んでください。



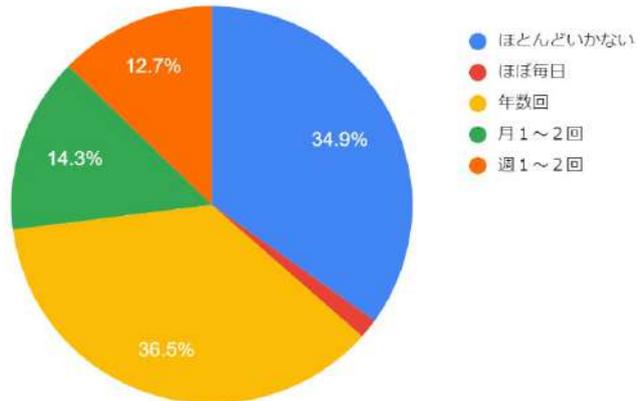
あなたの主たるご職業を選んでください。



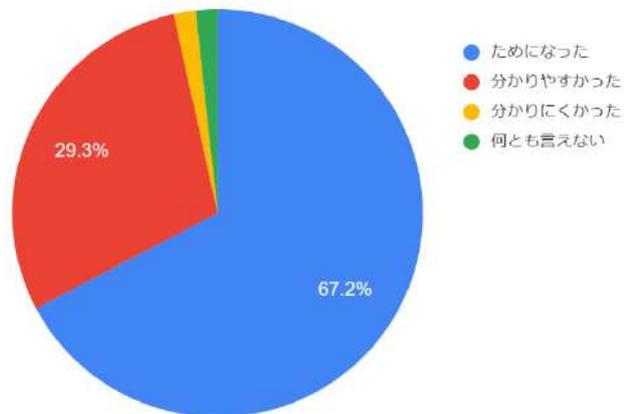
あなたのお住まいの字を選んでください。



あなたは中央公民館またはコミュニティセンターにどれぐらいの頻度で訪れていますか選んでください。

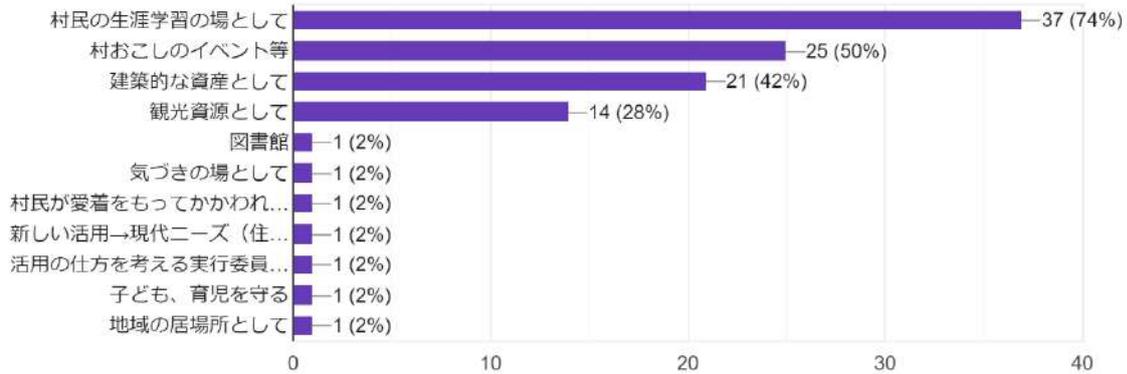


本日のシンポジウムの内容はいかがだったでしょうか。



今後の中央公民館の活用について、下記より選んでください。（複数回答可）

50件の回答



北山文化圏の中心として中央公民館エリアを整備進める予定です。ご意見等自由にお書きください。

(回答のテキストマイニングによって、抽出されたキーワード)



3. 事例調査

事例調査 拠点施設の例

視察対象	拠点施設の例 道の駅 川場田園プラザ(群馬県)
法人名	株式会社 田園プラザ川場 資本金 90 百万(うち主な出資団体 川場村 出資割合60% 他9団体)
従業員数	140 名(社員 40 名 パート・アルバイト 100 名)
設立	1993 年 1 月
所在地	群馬県利根郡川場村荻室 385
事業目的	<p>川場村は人口約 3480 人(令和 2 年国勢調査)。施設への来場者は 約 180 万人(H27) 川場村の村づくりの基本路線である「農業+観光」の集大成の事業と位置づけ、川場村の地場産品の振興及び新規開発を担うとともに、川場村の商業・情報・ふれあいの核である“タウンサイト”形成の場として機能させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 若者を中心とした就業機会を増やし、定住、Iターン、UI ターンなどを推進する ● 地場産品の開発、PR を進め、その流通を促進する ● 村民相互、並びに村民と来訪者の交流・交歓や情報交換の場とする。 ● 村来者の飲食や買い回りニーズに応えるとともに、村内消費の拡大を図る。 ● シャトルバスなどの起点・終点など、村内の交通ターミナルとして機能する。



出典:田園プラザ川場 HP より



事例調査 象設計集团の作品

視察対象	宮代町コミュニティセンター 進修館 (埼玉県)	
開館	昭和 55 年 (1980 年) 7 月	
建築年月	昭和 54 年 (1979 年) 3 月 ~ 昭和 55 年 (1980 年) 5 月	
設計	象設計集团	
面積	建設面積 2,484 平方メートル	
指定管理者	NPO 法人 MCA サポートセンター 埼玉県南 埼玉郡宮代町学園台 2 丁目 11 番地 6	
施設概要	<p>埼玉県宮代町のコミュニティセンターで、「進修館」と呼ぶ。象設計集团が設計したユニークな建造物である。</p> <p>コミュニティの拠点として、音楽会、映画会、武道会、踊り、演劇、落語、民謡大会、展示会、絵画教室、お茶、お花の会、町議会、委員会などのさまざまな地域活動および各種発表会に活用されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 施設見学希望者への対応 ◆ 撮影場所として対応 ◆ ファンクラブ運営 ◆ 研修室、食堂、小ホールの貸出 ◆ まちづくりサポート・進修館ラボ・フリーマーケット) ◆ 定期刊行物の発行 	



進修館ファンクラブ

進修館ファンクラブの目的

- 進修館の建築理念を多くの方に知ってもらうこと
- 進修館の建築物としての美しさを多くの方に知ってもらうこと
- 進修館を美しい建築物として後世に残すこと
- 進修館を記憶として後世に残すこと

進修館ファンクラブの活動

- 進修館にまつわる資料をデジタルアーカイブ化し蓄積します。
- アーカイブ化された資料を用いて進修館の魅力を発信します。
- 年1回、ファンクラブ企画を実施します。
- 宮代町との連携を図り、進修館を後世に残すよう計ります。
- 年4回、ファンクラブ会報を発行し活動報告を行います。
会報には特典 (ポストカードやカレンダーなど) をお付けします。



視察対象

宮代町 笠原小学校(埼玉県)

施設概要

進修館の近郊にある、公立小学校で東武園に隣接する。土地の特性を生かし、多様な空間を配置し、こどもたちの五感に訴える自然を取り込み、内と外の曖昧さの中に調和した世界を作り出す。



視察対象

用賀プロムナード(世田谷区)

施設概要

用賀駅北口から砧公園、世田谷美術館まで続いている遊歩道。敷き詰められた様々なデザインの淡路瓦には、百人一首の和歌が刻まれており「いらか道」の愛称もある。



事例調査 こどもの遊び場の例

視察対象	川崎市子ども夢パーク(神奈川県)
施設概要	「川崎市子どもの権利に関する条例」をもと子どもについての約束を実現する場です。 夢パークは子どものこんな居場所です ありのままの自分でいられる場 多様に育ち、学ぶ子どもの居場所 自分の責任で自由に遊ぶ場 つくりつづけていく場 子どもたちが動かしていける場。
指定管理	川崎市子ども夢パーク共同運営事業体 構成員:公益財団法人川崎市生涯学習財団、NPO 法人 フリースペースたまりば



視察対象	天王寺公園(大阪府)
施設概要	大阪市では天王寺・阿倍野エリアの中心部にあり各観光資源の結節点となる公園の南東部と北東部について、「エントランスエリア魅力創造事業」を実施。 その一部にボーネルンド・プレイヴィルが参画し、「子供の遊び場」を提供している。 ※指定管理者制度ではなく、当該地域の管理運営を民間が担うが、底地所有権や公園使用許可権限は市。
施設管理スキーム	

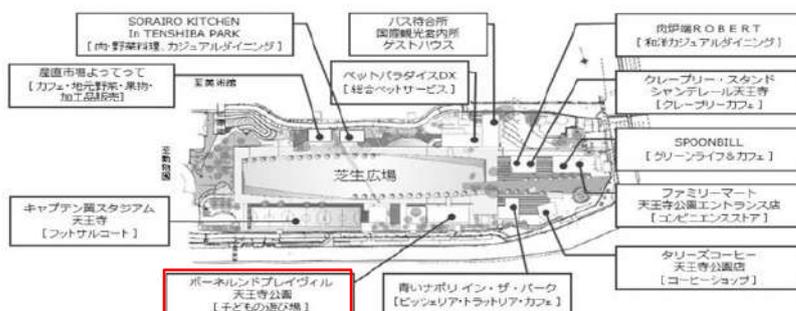
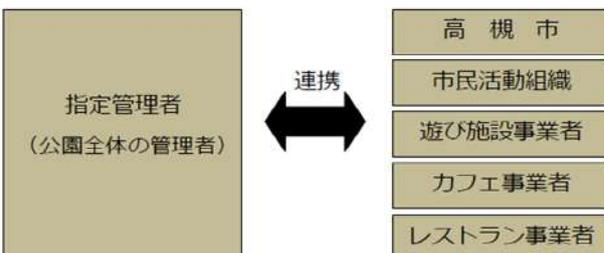
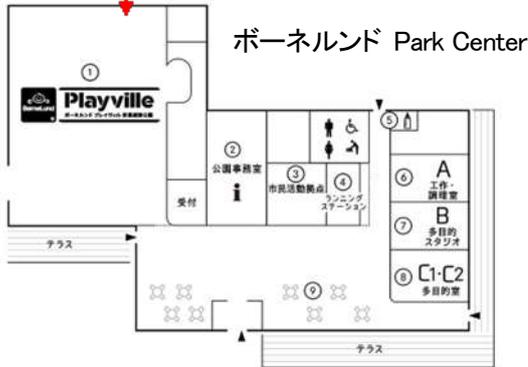


図-3 エントランスエリア整備図 ※茶臼山北東部エリアは割愛。



視察対象	安満遺跡公園(高槻市)
施設概要	<p>弥生時代の歴史資産である史跡安満遺跡を保存・活用しながら、防災機能を備えた緑豊かな公園。</p> <p>公園全体の管理運営を行う指定管理者のほか、全天候型「子どもの遊び施設」部分をポーネランド・プレイヴィルが運営している。</p> <p>成長・発達を応援する最新の遊具を設置。プレイリーダーがあそびをサポート。自然あそびや表現あそびをテーマに感性を刺激するプログラムを定期開催。</p>
指定管理	<p>安満遺跡公園パートナーズ</p> <p>構成員: 西武造園株式会社(代表者)、株式会社ワールドインテック、株式会社地域環境計画</p>



第3章 全体コンセプト及び基本方針

1. (仮称)北山文化圏センターの形成へ

(1)「北山文化圏」を土台とする歴史的背景

①自然と文化とくらしの継承

今帰仁村は、豊かな自然環境に恵まれ、それらを土台としながら生業を営み、くらしを作ってきた。

北部地域は現在でも、中南部と区別して「やんばる」という呼称がある。ただし、ここでは中南部や他の地域との違いが何か、「北山文化」とは何かを突き詰めていくのではなく、今帰仁城を居城とする王の時代があったこと。そこでは豊かな自然を敬い、それに生かされていることに感謝し、地域で共に暮らす人々と分かち合う祭祀があり、こうした文化をくらしの中に脈々と受け継いできた地域の人々。これが誇りであり、今日のSDGsの考え方にもつながるものである。

(仮称)北山文化圏センターは、北山文化の歴史を背景とする地域の誇りと、「やんばる」の一体感や連携意識、新しいやんばるづくりへの機運の高まりを背景に、北山文化圏をつないでいく拠点としていくものである。

図 やんばるの歴史と文化

【なきじん研究 2009 vol16 より】

- 北山文化圏は、中南部と異なる風土の上に歴史を刻んできたという仮説。
- 北山王は今帰仁を中心に羽地、名護、国頭、金武などの地域を支配下に収めていた。北山王の居城は今帰仁城跡だった(平成12年に世界文化遺産に登録された)。
- 北山王統は中国への朝貢を独自に行うなど、当時自立した経済圏を形成していたことがうかがわれる。
- 神アサギが分布する領域は、北山の領域と重なっている。伊是名、伊平屋、奄美大島の加計呂麻にまで及ぶ。
- 15世紀初頭に滅ぼされた後も、監守制度が設置されたことは、言語や気質、習俗、祭祀、集落形成など、文化の違いがあったからだともいわれている。
- 三山統一後、首里王府の文化が地域にかぶさっていく。山原の各地の村(ムラ)にはそれを受け入れる素地があった。
- 山原の文化の根底に流れているのは村(ムラ)の祭祀であり、祈願は繁栄や五穀豊穰、そして航海安全などの予祝がある。

【今帰仁城跡の石積みについて】



今帰仁城跡の城壁に使われる黒色の古生代石灰岩石は、中南部にみられる白色の琉球石灰岩とは異なり、重く硬いため加工しづらいため自然石を積み上げる「野面積み」しかみられないという特徴がある。

【神アサギについて】



神アサギが分布する領域は、北山の領域と重なっているとされる。奄美大島の加計呂麻にもアサギがみられる。(写真は玉城の神アサギ)

②水に支えられてきた暮らし

今帰仁村内には、本部半島の山岳地帯を源流とする水系があり、土地を潤してきた。地域では水を活かして作物を作り、生活を営んできた。

今帰仁村内には、大井川(二級河川)と今帰仁城跡の東側を流れる志慶真川(普通河川)があり、そのほかに四本の普通河川がある。いずれも南から北方向へと流れ東シナ海へと注いでいる。

また、村内には湧水と呼ばれる水源地が多数存在し、北山城の築城にも水源が大きくかかわった。その後も村内の産業、暮らしを支える水源として大切にされてきた。

今日の総合計画にも受け継がれ「やんばる型土地利用」の考え方によると、基礎となっているのは水系であり、各ムラ(字)は、それぞれ水源をもち、「水」は地域の自然と生業としての共同社会を遥か昔から体系立ててきた。

北部地域＝「やんばる」は、豊かな緑が水源をたたえる場所である。「北山文化」の成立と発展、「今帰仁村」の産業と暮らしには、「水」が欠かせない要素であった。

現在の今帰仁城の東側を流れる河川は志慶真川で、グスク内で使用する水は水揚げ場を使い汲み上げたという説がある。古くから集落の生活を支え北山の古い歴史と関わる河川である。

計画対象地を流れるソーリガーも、地域の暮らしを支え、産業を支えてきた重要な水源である。現在も豊富な水量を誇る湧水を地域のシンボルとして大切にしていく。

潤れる

【今帰仁城跡の築城にあたって】

- 今帰仁城跡が世界文化遺産に付け加えられているシイナグスクの伝承に、北山王が居城を造るとき、初め呉我山のシイナグスクの場所は、裏側の岩間から湧水量の多い泉があったので、そこに城を築こうと人夫を集めて石を積み始めると、6ヶ月雨が続き、6ヶ月日照りが続いた。そのとき湧き水が涸れたので、「干ばつになると水が涸れるからここでは駄目だ。」と言って、今の北山城の場所に城を造ったという。

(出展:今帰仁村文化財調査報告書第27集 村教育委員会)



今泊の親川(エーガー)

現在も水量が豊富で、昔から日照りでも涸れることなく湧き出している。



玉城のソーリガー

「清い水」(ソーリ)に由来するとされる。豊富な水量は養鰻場や工場用水としても利用されてきた。

(2) 村民文化センターの実現へ

① 約 50 年前に描かれた「村民文化センター」

今帰仁村では、約 50 年前に「今帰仁村 総合開発計画 基本構想」をはじめとする一連の計画は、象設計集団とそのグループにより作成された。

これらの計画では、地域の潜在的資源を重視し、自然保護・住民自治・基盤づくりを原則とした。その手法及び地域に徹底的に根差す見方は、地域計画のエポックとして評価されている。

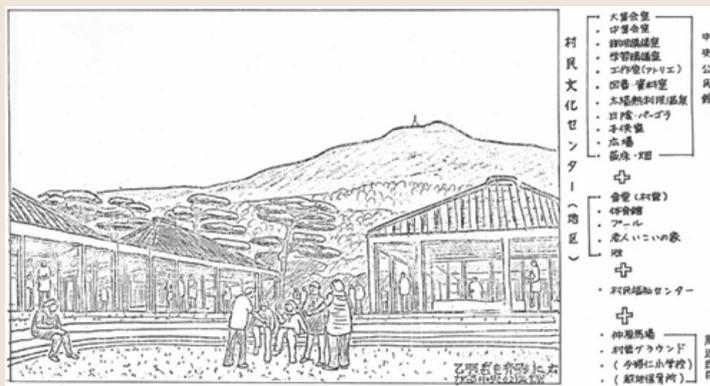
当時の計画は約 50 年を経た今でも、色あせることなく、むしろ今の時代を先取りしていたかのように、地方創生や第 6 次産業、SDGs などの考え方につながっている。

一連の計画のなかで、「村民文化センター」が計画されており、村の公共施設・文化施設を重点的に進める地区とされ、計画と並行して進んでいた「中央公民館」は、村のあつまりのための施設として大きな意味をもたせ、その利用像が詳細に描かれている。その機能は、のちに今帰仁村コミュニティセンターや今帰仁村保健センター、今帰仁の駅そーれなどに分化し、公共施設の集積地区が形成されてきた。

「(仮称)北山文化圏センター」は、当時の考え方である「村民文化センター」の意味を今一度見直し、新しい時代に向けて再編することで、50 年越しにその計画の実現を目指すものである。

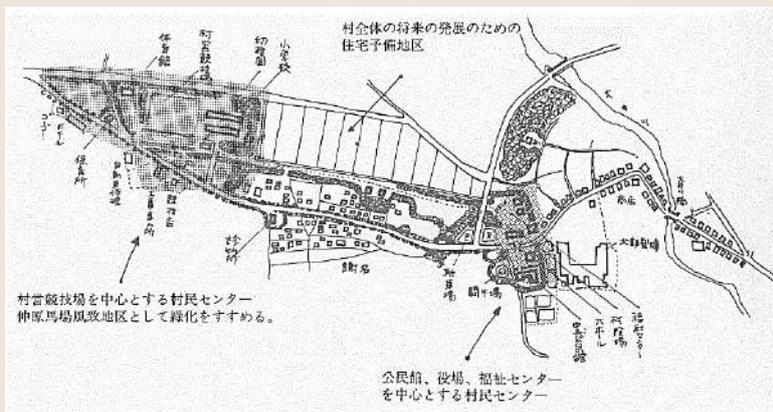
図 村民文化センター(地区)に関する記載

総合開発計画 昭和49(1974) 村民文化センター(地区) ※再掲 P11 参照



村民文化センターについて、当時、集会施設は各字公民館や村役場等に限られることから村民が気軽に使える「あつまりのための施設をつくる」とされている。いろいろに使える複合施設、各字の公民館とは違い、村民の広がりの中で自由なあつまりがもたれるもの、管理・運営は村民が積極的に参加することが書かれている。

土地利用基本計画 昭和 50 年(1975) 村民センター ※再掲 P13 参照



村民センターについて、仲原馬場・村営競技場周辺と、役場・中央公民館周辺の 2 か所としており、村役場のほか、中央公民館、大ホール、福祉センターが描かれている。この二つを歩行系の生活道路で結びつけ、松並木の最も濃い場所とすることとしている。

②公共施設の再編と拠点化

【今帰仁村中央公民館周辺の過去・現在・未来】

【過去;1975～2000 オール今帰仁のセンターの必要性】

- ① 本土復帰以前の沖縄では、個々の集落の自治機能が強く、字単位の地域活動が活発であった。一方、集落相互の交流は薄く、村全体の活動は今日に較べてその分低調だった。歴史的背景に加えて、交通等の地理的条件の制約もあったと考えられる。今帰仁村においても例外ではなく、そうした傾向が顕著だった。
- ② 集落の活動拠点としての字公民館の活用は多様かつ頻繁で、充実していた。集会、イベント、催しに加えて日常的な癒し空間でもあり、文字通り、集落のセンターであった。
- ③ 復帰後、地域の中心として市町村の役割が強まり、村全体を対象とした行政・文化・経済活動の多様化・充実が進んだ。その具体的受け皿としての施設・空間の必要性が高まり、整備が進んだ。
- ④ 中央公民館はこれまで集落ごとに字公民館が全面的に担ってきた地域活動、住民活動のうち、村全体で展開することがより望ましいと考えられる、主として文化的な活動分野を包括的に担う、多目的な複合施設として建設された。

【現在;1984～2025 センター機能の多様化・分化の展開】

- ⑤ 以来、半世紀近く、全村対象の総合文化センターとしての役割を担ってきた。一方、この間、より多様化・高度化する住民のニーズに応えるため、中央公民館の果たしてきたいくつかの機能(※1)を随時、隣接空間に新設、移転してきた。
- ⑥ この結果、中央公民館は従来、一括して担ってきた機能のいくつかから解放され、過密・重複の弊を免れる一方、その部分が遊休化したままの現状である(内装、設備は要改装または除却必要、構造は基本的に保全する)。
- ⑦ 今日、それが担う役割は、広場と共に形成する半屋外空間(※2)を用いるイベント、集会等に特化してきている。さらに、隣接する複数の村民活動施設群のシンボルとしての役割を果たしている。(※3 なきじん夜市で実証)

【未来;2025～ (仮称)北山文化圏センター地区のシンボル施設】

- ⑧ 今後、中央公民館を中心に展開する(仮称)北山文化圏センター地区のシンボル、中央広場としての役割に特化して再生、周辺に関連機能施設を備えた地区として再整備する(シンボル広場、伝統芸能舞台+交流情報センターなど)。

※1 ①今帰仁村コミュニティセンター(屋内大ホール、集会所等)、②今帰仁村保健センター(保健センター機能)、③今帰仁の駅そーれ(共同売店・食堂)

※2 中央公民館の面目躍如、アマハジ(雨端)空間が、誇るべき最たる空間特性。なお、中央公民館雄発想のモデルは、神アサギ、字公民館とされる。

※3 なきじん夜市は、令和5年2月18日に開催されたイベントである。

(3) 現在のくらしの課題解決の場へ

①地域コミュニティの醸成

北部地域は、復帰以前から人口11万人前後で推移し、微増傾向にある。大幅に増加することが無い反面、全体的に減少はしていない。全国的に進む人口減少の中においては特徴的である。市町村別にみると、北部3村や離島村では減少傾向にあるが、今帰仁村は微増減を繰り返しながらもほぼ横ばいの状況にある。少子高齢化が進むとともに、若年層を中心に流出が続く一方で、Uターン、Iターンも一定人数が流入することでバランスが取れている。

今帰仁村の人口を安定化、または増加させるには、若年層は進学・就職で流出することを止めるより、その後子育て世代の流入を定着させていくことが先決である。そのためには、働く場所とともに、地域コミュニティの一員としてみなで村づくりを担っていく意識の醸成が必要である。

(仮称)北山文化圏センターは、元々の地域住民と、UIターン人口を受け入れる交流拠点となって、多様な立場や世代の人々をつなぐコミュニティづくりの場所を目指すものである。

②健康・保健・福祉環境の充実

北部地域はこれまで「長寿地域」としても知られてきたが、特に若い世代の生活習慣、食生活の変化などで、近年は、平均寿命は全国でも下位に転落してきている。一方、最近では新型コロナウイルス感染症の流行を契機に健康意識がさらに高まりつつある。

これまでも各種教室・健康相談、イベント等を通して健康管理に対する正しい知識の普及と健康増進への意識の向上を図ってきており、村民一人ひとりの健康管理に対する自覚を促し、健康づくりに努めることが重要である。

(仮称)北山文化圏センターは、北部地域の健康・長寿地域を復活させていくよう、地域コミュニティ交流を通して心身の健康づくりの場を目指すものである。

③子育て環境の整備

北部地域では、少子高齢化が顕著に進んでいる。人口の増加は、子育て世代を誘致することが先決であり、子育ての環境を整えることが重要である。

これまで今帰仁村では、子の貧困、こどもの居場所、遊び場所が求められることがあり、地域住民が取り組みに乗り出している。こうした動きを村全体で支援していく体制が必要である。

(仮称)北山文化圏センターは、次世代の担い手であるの子供たちの居場所を確保することで、北部地域、今帰仁村への愛着を育み、進学や就職でいったん村外に出ても、戻ってきたくなる、戻ってくることのできる環境を目指すものである。

④教育・文化の振興

北部地域は、伝統行事、伝統芸能が各集落に息づいている。湧川の路次楽、謝名アヤチ獅子、今泊の棒術等に代表される数多くの伝統芸能や、各地でみられるエイサー、豊年祭、古宇利のウンジャミ等の祭祀行事が保存会や地域住民等により継承されている。これらは、住民の精神文化、すなわち北山文化の時代から脈々と受け継がれてきたものである。これらを継承するためにも後継者育成や文化活動との関連を図りながら伝統芸能・祭祀行事を継承し、生活文化の向上と村おこしにつなげる必要がある。また、優れた芸能や国内外の評価の高い芸能にふれあう機会を提供することも必要である。

(仮称)北山文化圏センターは、こうした北山の時代から受け継がれてきた文化を守り育て、次世代に繋いでいく場として、地域のアイデンティティの根幹となる地域の教育・文化を育み、発信していく場を目指すものである。

⑤自然環境の保全

北部地域には、世界自然遺産に登録されたやんばるの森や、美しいサンゴ礁の海が残されている。今帰仁村でも乙羽岳や美しい海岸線、フクギ屋敷林や松並木など本村の豊かな自然環境は「今帰仁らしさ」の根幹となるものであり、この豊かな自然環境を土台として農林水産業や観光業が発展していることから、本村の自然環境は村民の財産と言える。自然環境の保全と開発のバランスをとり、村民の財産といえる自然環境を適切に維持・発展させながら次世代に引き続いていくことが必要である。

(仮称)北山文化圏センターは、こうした北山文化の自然環境やそれと調和する土地利用を背景として、自然豊かな「やんばる」の一体感や連携意識、新しいやんばるづくりへの機運の高まりを背景に、緑や水の流れをつなぎ、未来へとつないでいく拠点としていくものである。

⑥経済の振興

今帰仁村は、一人当たりの所得が沖縄県の中でも低い方にあり、産業振興で稼ぐ部分を活性化していくと同時に地域内での経済循環を高めていくことが必要である。

もともと、北部地域は豊かな自然環境に恵まれ、それらを土台としながら各種産業が栄えてきた。そのなかでも今帰仁村はスイカやマンゴー、アグー(豚)などの名産地として名高い。また、黒糖や泡盛などの加工場が立地し、それぞれ特産品を生み出している。観光産業においては、隣接する本部町に海洋博公園があり、広域幹線の国道 505 号線等を通じて観光客が往来している。

村内には世界遺産の今帰仁城跡や、美しい海で有名な古宇利大橋・古宇利島などが観光スポットとして知られて、観光客が訪れるが、村内での周遊、滞在、消費を促進することが必要である。

隣接する名護市との間にまたがる嵐山ゴルフ場跡地に、テーマパークの建設も始まっており、これに向けた道路整備などにより新しい観光動線ができることが期待される。これらの機会を活かし観光消費の取り込みによる経済振興の体制を整える必要がある。

(仮称)北山文化圏センターは、地域と観光客をつなぐ交流の場としていくとともに、地域の第一次、第二次産業の地域産物と観光産業をつなぐことで、観光消費を促し、経済の活性化を進める場を目指すものである。

(4)新時代の“北山文化の拠点”づくりへ

①北部地域を取り巻く動向と機運の高まり

沖縄北部地域は、通称「やんばる」と呼ばれ、中南部に比較して人口が少なく、都市化も進んでいない場所であった。

1975年の海洋博覧会開催以来、リゾート地として注目を浴びると、豊かな自然環境や豊富な特産品、伝統文化などが注目されるようになってきた。

2000年には今帰仁城跡が世界遺産に登録されると、「北山」の名が知られ歴史ロマン、伝統文化の豊富な場所であるという認識も広がった。さらに、2016年にはやんばる国立公園の指定、続いて2021年7月には世界自然遺産登録など、その価値は世界に認められてきている。

近年では、今帰仁村と名護市にまたがる嵐山地区に大規模テーマパークの建設が進められ、2023年2月に起工式がおこなわれている。

沖縄北部、「やんばる」、「北山」に注目が集まることが予想され、地元の機運も高まっている。豊かな自然と歴史文化を財産として大切にしながら、こうした機会を活かして飛躍するチャンスを迎えている。

②新時代の「北山文化圏」

前述したように、今帰仁城を居城とする王の時代があったこと。豊かな自然を敬い、それに活かされていることに感謝し、地域で共に暮らす人々と分かち合う祭祀・行事が各地にあった。これらをとおして住民は自らの地域を大切に、各地の公民館を拠点としてコミュニティの強固なつながりを保ってきた。こうした文化をくらしの中に脈々と受け継いできた歴史がある。

その歴史の中で現在の北部地域、今帰仁村には、沖縄の中でも豊かな自然、伝統文化が色濃く残っている。それは自らの財産でもあり、今後の沖縄全体の中での財産となっていく。

北部地域・今帰仁は、こうした財産を生活と切り離すのではなく、大切に守りながらもうまく活用し、北山と呼ばれる地域全体を生きた遺産(リビング・ヘリテージ)ととらえ、今後も生活の中に受け継ぎながら守っていく。

(仮称)北山文化圏センターは、その象徴となって新時代の「北山文化圏」を築いていく場を目指すものである。

2. 全体コンセプト及び基本方針

(1)全体コンセプト

- 北山の根底に流れる歴史・文化に立脚し未来に向けて発展させる拠点
- 今帰仁村役場の新庁舎建設を契機とした公共施設の再編と村の新たな顔づくり
- 機会と機運を生かした新たな「北山文化圏」をつなぐ拠点づくり
- 「やんばる」に注目が集まる今だからこそ北山文化圏のつながりを再認識
- 新しい時代潮流に向けて新旧、内外、過去未来、老若がつながる複合、融合の「つながりの核」となる拠点をつくる。
- 約 50 年前に描かれた「村民文化センター(地区)」をエリア全体で実現する。

(仮称) 北山文化圏センター 歴史と未来をつなぐ つながりの拠点

(2)くらしのニーズに関わる 6つの「つなぐ」

(仮称)北山文化圏センターは、歴史と未来をつなぐ拠点であるが、それを実現していくには、私たちの「今」のくらしを一步ずつ積み上げていくことが重要である。

今帰仁村のくらしのニーズに関わる次の 6 つの視点から、一つ一つを大切にするとともに、これらをつないでいく。

図 くらしのニーズに関わる6つの「つなぐ」



(3)(仮称)北山文化圏センターの位置づけ

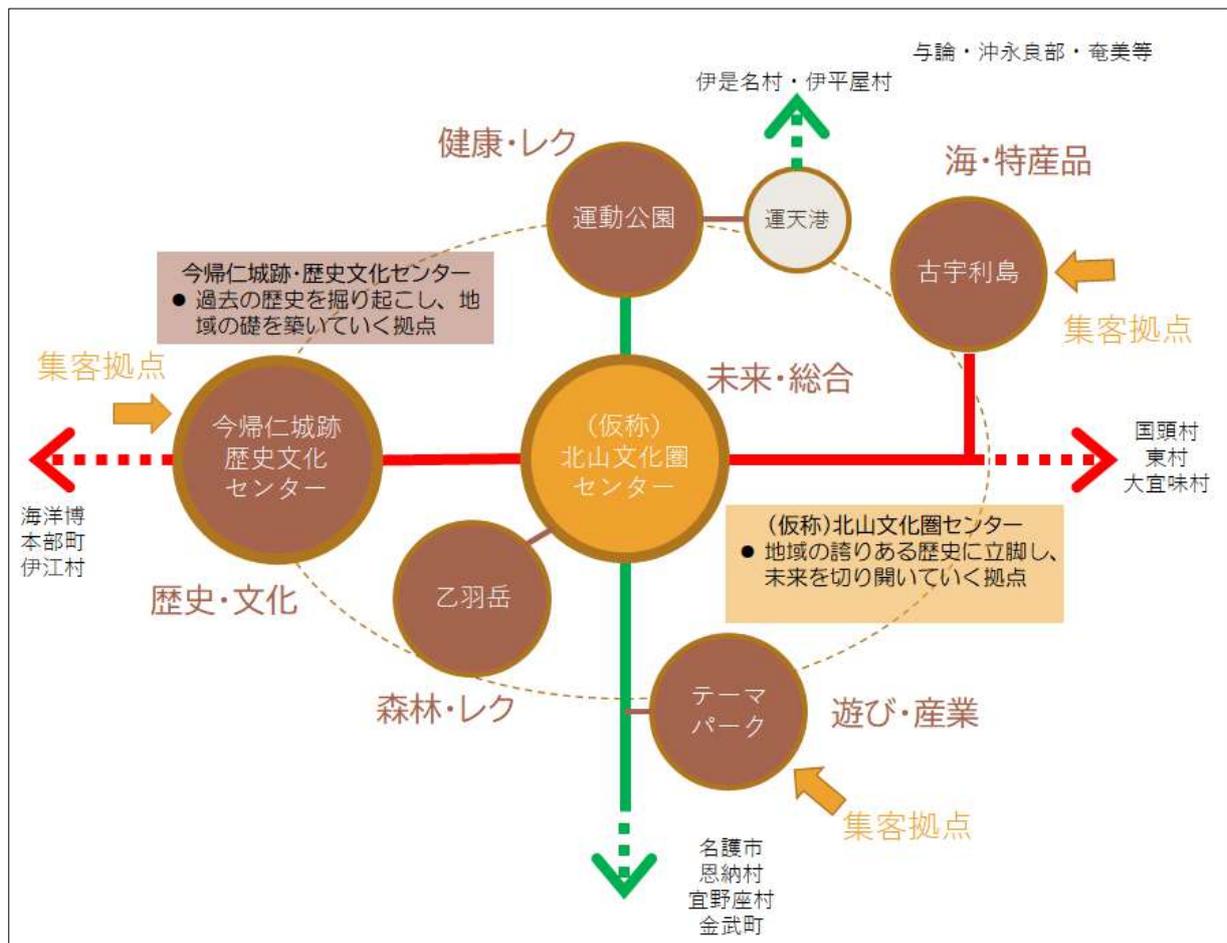
今帰仁村内には、世界自然遺産に登録された今帰仁城跡と、これに隣接する今帰仁歴史文化センターがあり、歴史・文化の継承と研究の拠点となっている。また、村内には今帰仁村運動公園、乙羽岳森林公園などのスポーツレクリエーション拠点、古宇利島の「古宇利島の駅ソラハシ」などもそれぞれ集客力を有し、拠点性の高い施設である。

また、村内には古来より天然の良港として利用されてきた運天港が立地し、交通の要衝となってきた。現在は伊平屋島、伊是名島をつないでいる。

今後、嵐山地区に民間企業によりテーマパーク(約60ha)の新設が計画されており、令和5年2月に着工し、2025年の開業が目指されている。

(仮称)北山文化圏センターは、コンセプトを「つながりの拠点」としており、こうした拠点間をつなぐ連携の拠点として、また未来へ向けた総合的な拠点として、今帰仁村のみならず、北山文化圏を繋ぐ場所を目指していく。

図 (仮称)北山文化圏センターと各拠点の位置づけ・役割等イメージ図



3. ゾーニング

(1)6つの「つなぐ」と必要機能

(仮称)北山文化圏センターは、コンセプトを歴史と未来をつなぐ「つながりの拠点」として、くらしに係る6つの「つなぐ」を実現していく。

くらしに係る分野を次の6つに分類し、それぞれここでの取り組み方針を次に掲げる。その中で、検討懇談会やヒアリング等から得られた必要機能を次のように整理した。

表 くらしに関わる6つの分野と取り組み方針・必要機能

分野	方針	必要機能
コミュニティ・交流 (地域をつなぐ)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 北山文化圏の一体感 ■ 村民の一体感 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中央公民館機能 ● ホール(集会場)
健康・保健・福祉 (命をつなぐ)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 健康づくり ■ 生きがいづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康チェック(検診等) ● リフレッシュ
子育て (世代をつなぐ)	<ul style="list-style-type: none"> ■ こどもの居場所 ■ 子育て世代の定住促進 	<ul style="list-style-type: none"> ● こどもの居場所 ● こども食堂 ● 遊び場・広場
教育・文化 (文化をつなぐ)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人材育成・生涯学習 ■ 伝統文化の継承 	<ul style="list-style-type: none"> ● 無料塾 ● 図書館・ブックカフェ ● 芸能・イベント広場
自然環境 (自然をつなぐ)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自然環境とのふれあい ■ 環境保全意識の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ● ビオトープ・親水空間 ● 散策道・ドッグラン
経済効果 (産業をつなぐ)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第6次産業化 ■ 体験滞在型観光 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道の駅機能 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特産品展示販売 ・ チャレンジショップ ・ レストラン ・ クラフトビール・ワイン ・ 産業体験(黒糖等) ● 朝市・夜市 ● ドッグラン ● 商店街の再生

(2)ゾーニング

(仮称)北山文化圏センターは、ある単体の施設を指すのではなく、今帰仁村中央公民館を中心とするエリアを一つなぎの拠点ととらえて、くらしにかかわる6つの「つなぐ」をもとに、下記のようにゾーニングを設定する。

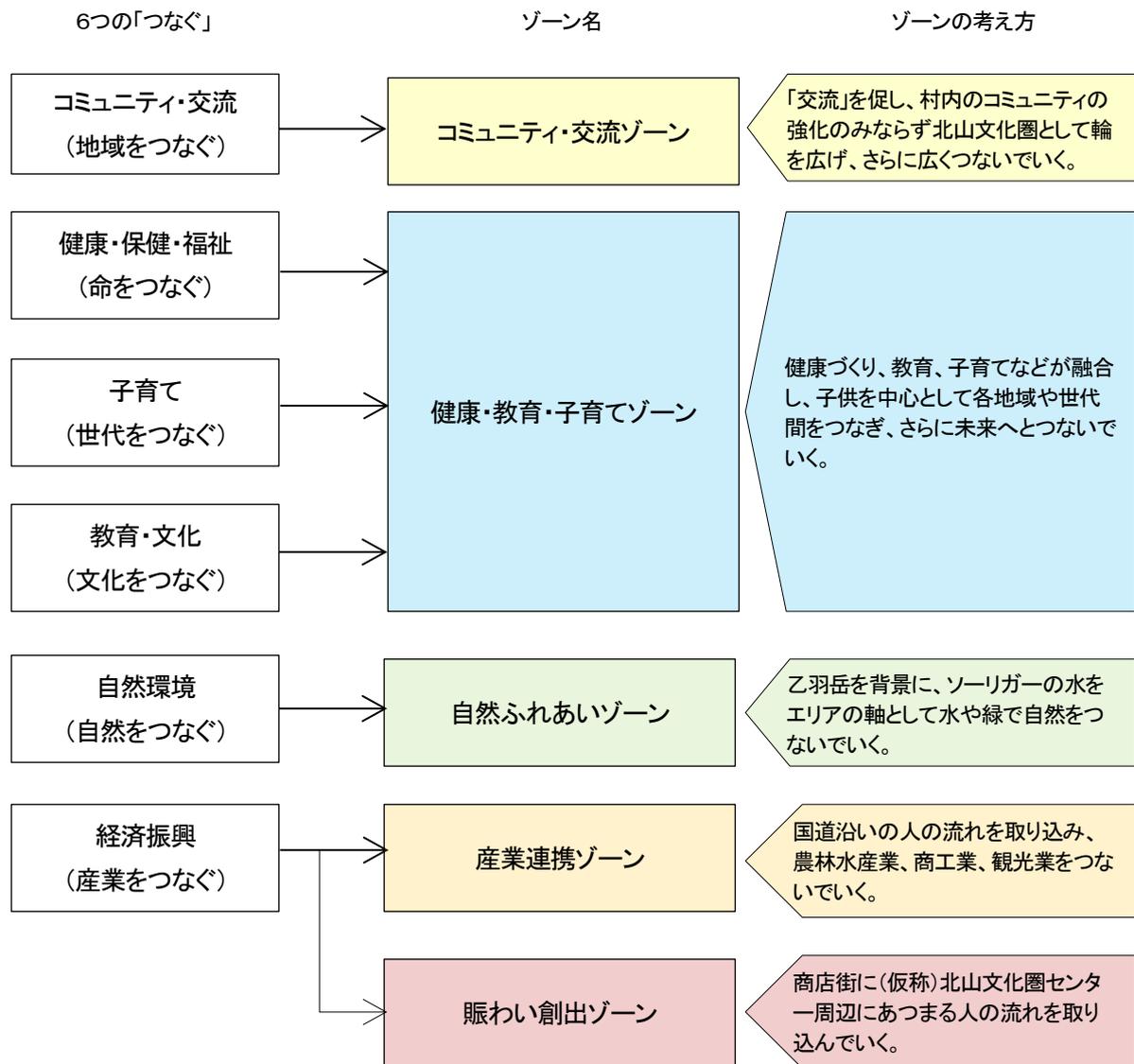
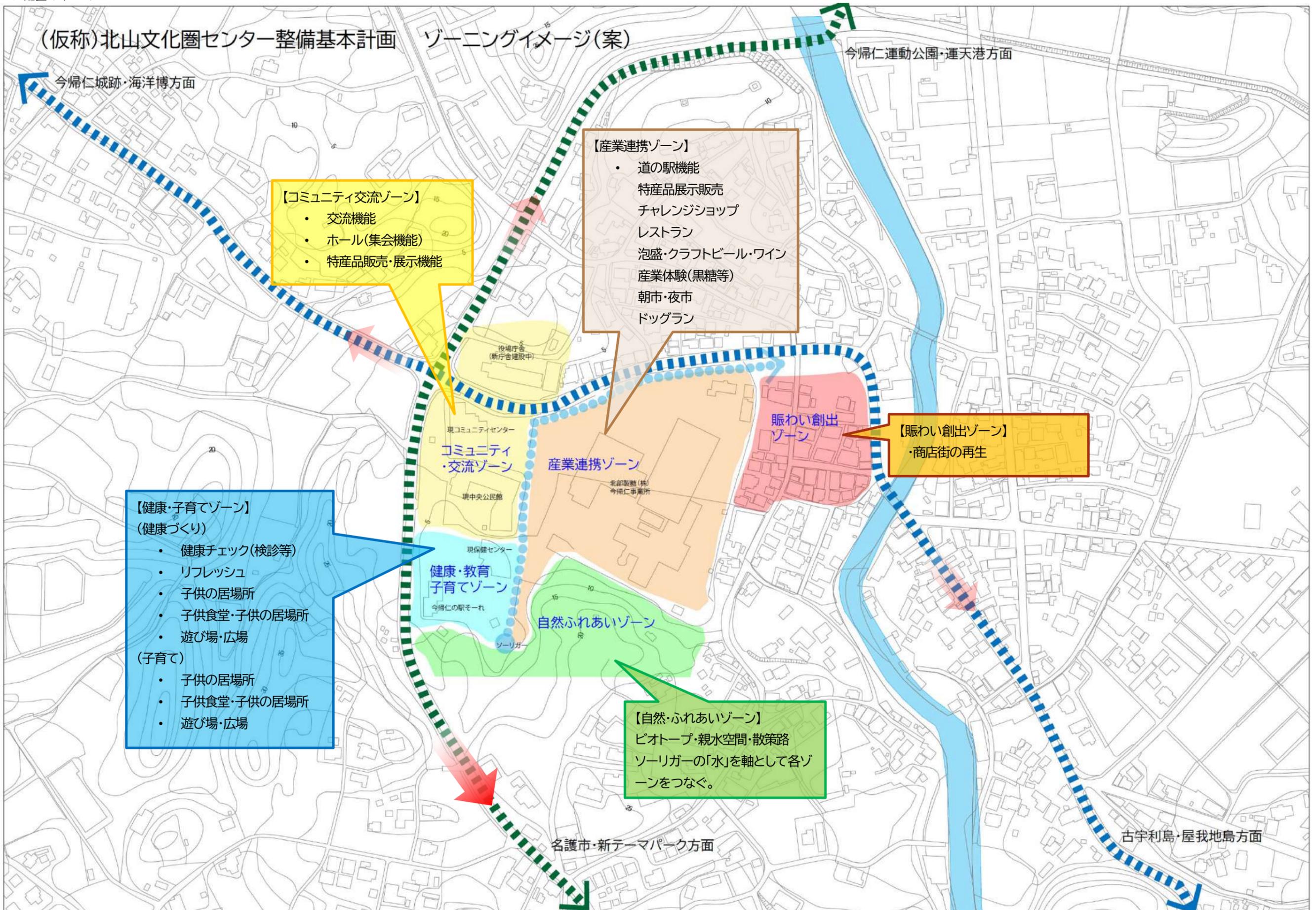


図 ゾーン配置のイメージ



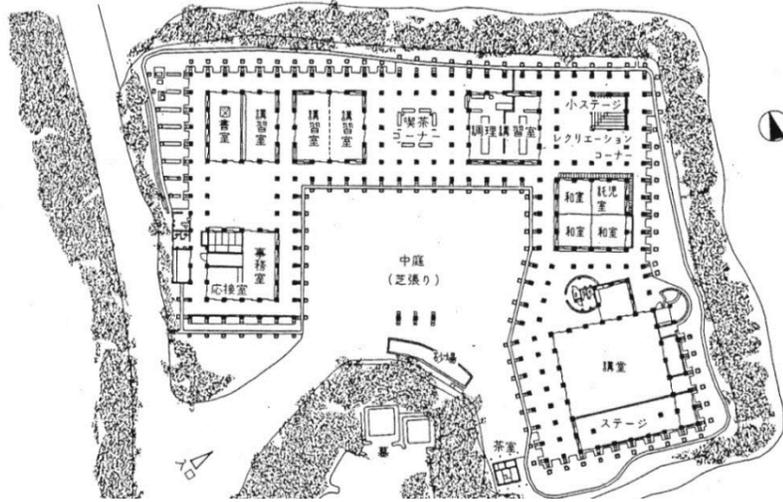
■今帰仁村中央公民館エリアの過去・現在・未来

【過去:1975~2000 年ごろ】

- ① 復帰以前は個々の集落の自治機能が強く字単位の活動が盛ん。
- ② 集落の活動拠点としての字公民館の活用が多様かつ頻りに利用。
- ③ 復帰後は村全体での行政・文化・経済活動の多様化・充実が進む。
- ④ 村全体で展開、文化的な活動分野を包括的に担う多目的な複合施設として今帰仁村中央公民館が建設された。

■1975年 中央公民館 供用開始 約717㎡

事務室、図書室・講習室1、講習室2・3、喫茶コーナー、調理講習室1・2
レクリエーションコーナー、和室1・2・3・託児室、浴室・ボイラ室・便所
講堂・ステージ、茶室、中庭



【中央公民館の利用活動】くらしの基本計画(1977年より)

●社会教育団体等の育成

1. 子供会
2. ボーイスカウト
3. 海洋少年団
4. 剣道教室
5. 青年会
6. 婦人会
7. 老人クラブ
8. 青少協
9. 体協
10. 新生協
11. PTA 連協
12. 文化的サークル
 - ・写真クラブ
 - ・ギタークラブ
 - ・盆栽クラブ
 - ・書道クラブ
 - ・生け花同好会
 - ・少年少女合唱団結成促進
 - ・その他
 (読書会、民俗芸能保存会、茶道の会)

●各種学級講座の開設並びに促進

1. 婦人学級
2. 家庭教育学級
3. 乳幼児学級
4. 高齢者学級
5. 父親学級
6. 青年学級
7. 放送利用学級
8. その他専門学級等の開設促進

●その他中央公民館利用

1. 企画行事
 - ・民俗芸能祭
 - ・産業まつり
 - ・緑化まつり
 - ・清掃週間
 - ・展覧会・展示会
 - ・映写会・演劇会・コンサート

2. 講習会・技術指導

- ・講習会
- ・生活改善グループ活動
- ・工芸伝承塾
- ・出張職業訓練所
- ・産物加工研究所

3. 社会福祉関係

- ・母子会
- ・身障者親の会
- ・民生委員協議会
- ・社会福祉協議会
- ・保健研究会

4. 行政に関連して

- ・人権相談
- ・集団検診
- ・農業委員会
- ・保健委員会
- ・各種行政相談

5. その他

- ・結婚式
- ・各種集会
- ・エイサー

【現在:1984年~2025年】

- ⑤ 中央公民館が全村対象の総合文化センターとしての役割を担いつつ、多様化・高度化するニーズに応えるため、隣接空間に新設・移転してきた。
- ⑥ 中央公民館は、過密・重複を免れる一方、一部が遊休化
- ⑦ 中央公民館は、広場と共に形成する半屋外空間を用いたイベント、集会等に特化してきている。

■中央公民館 改修等 約779㎡

事務室増築、茶室撤去、パーゴラ改修・撤去、クーラー導入、天井・床の張替え、芝生の張替え、柱の塗り替え

■1984年 今帰仁村コミュニティセンター供用開始 約1,415㎡

1階:事務室、相談室、作業・研修室、娯楽室・舞台、機能回復室
2階:コミュニティホール(350名収容)・ステージ、老人・婦人・青年室



●利用内容

- 管理:総務課
- ・中央公民館の利用内容を補完
 - ・大規模集会(350人収容)
 - ・会議・研修、サークル活動
 - ・観光協会が入居

■1998年 今帰仁村中山間事業利活用施設(そーれ)供用開始 約710㎡

1階:商品開発施設(調理実習室2012年増設)、ピロティ
2階:特産品展示・販売、農産物直売、交流談話室・パントリー・畳間
研究厨房・食品庫、事務所



●利用内容

- 管理:経済課(有)そーれの会管理委託
- ・農産物・特産品展示販売
 - ・食堂(現在は閉鎖)
 - ・商品開発(調理実習室)
 - ・ピロティはパッカー車駐車

■1999年 今帰仁村保健センター供用開始 約510㎡

事務室、集団検診ホール(約110㎡)、機能回復訓練室、資料室、交流室
栄養指導室(調理実習室)、保健指導室1・2



●利用内容

- 管理:保健福祉課
- ・集団検診(乳児、1歳半、3歳児、発達相談、住民、婦人、乳がん)
 - ・こころの健康相談会
 - ・離乳食実習、育児教室
 - ・歯科検診

■今帰仁村立図書館

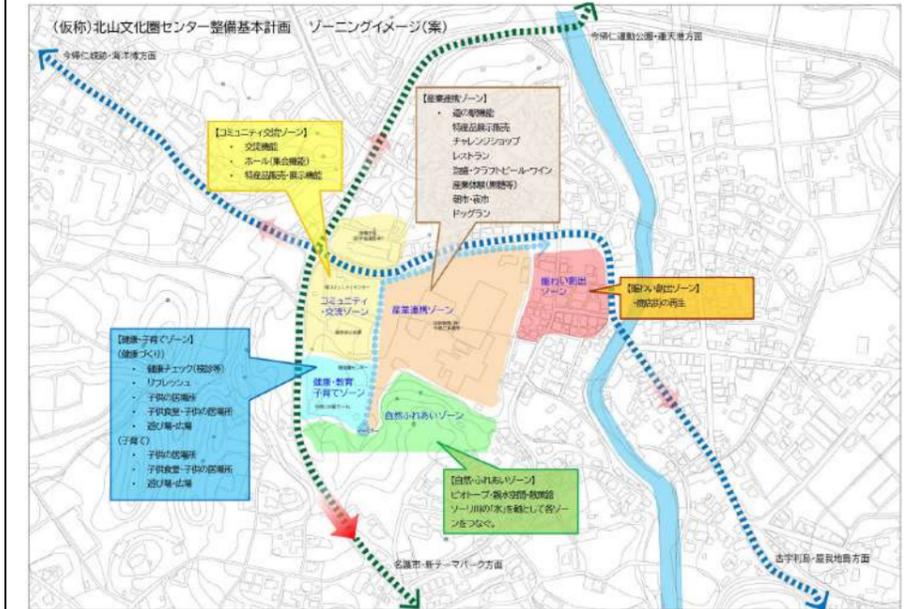
→1984に今帰仁村立図書館として、設置されたが2014年7月より旧今帰仁中学校跡地に移転している。

【未来:2025年~】

- ⑧ 中央公民館を中心として公共施設が集積するエリアを(仮称)北山文化センターとして、中央公民館機能、総合文化センター、経済振興機能を備えた拠点センターとして整備する。
- ⑨ 中央公民館はその中のシンボル広場、伝統芸能・イベント、交流情報センターとして位置付ける。

■1973(昭和48年)に描かれていた「村民文化センター」の実現

■中央公民館機能の継承と北山文化の発信拠点



各々の公民館も、現在も地域の複合的な拠点として機能しており、その強固なコミュニティのつながりこそが北部地域＝やんばる＝北山の特徴であり今後も大切に つないでいく。(仮称)北山文化圏センターは各コミュニティ間をつなぐとともに、地域全体をつなぎ、さらに大きなコミュニティを築いていく場所としていく。

今帰仁村中央公民館の建設当時、「あつまりの場」とされていたことを受け継ぐとともに、地域内外、過去と未来、世代を「つなぐ」拠点としていく。

かつて中央公民館の利用活動として求められていた活動を、今後も多様化、高度化するニーズに合わせてエリア全体で担っていく。

表 ゾーニングと施設機能

ゾーン名	施設名	既存機能	現状・課題	利用方針	今後の導入機能	備考
コミュニティ・交流ゾーン	今帰仁村中央公民館	研修・サークル活動	耐震診断(一次診断)はクリアしているが一部補強により安全性を強化する必要がある。コンクリートは補修・維持管理が必要。教育委員会は新庁舎に移動)建築物としての価値が高く維持・保存を望む声大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ● 今帰仁村の風土を現したシンボリックな建築物として保存・利活用を図る。 ● 利活用にあたっては安全面の確保を前提に利用可能な用途を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 補修・補強による安全確保のもと、これまでのサークル活動や講座・高齢者学級等の利用を維持するとともに、幅広い活動の受け入れを図る。 ● 北山文化圏や象設計集団に関する展示等 ● イベント・集会等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会教育法に基づく「中央公民館」の位置づけは検討を要する。 ● コンクリート維持のモデルとして継続的なチェックや補修・修復していく体制づくりが必要
		調理実習				
		講堂				
		広場				
今帰仁村コミュニティセンター	今帰仁村コミュニティセンター	作業・研修室・娯楽室	350名収容のホールが2階にあるが、EVがなく高齢者・障がい者の利用に難がある。コンクリートの状態は良好で、改修により寿命が延びる可能性がある。	<ul style="list-style-type: none"> ● ホール機能及び中央公民館機能を分担しつつ、バリアフリー対策や利便性向上のためリニューアルを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①改修案:1Fに展示・販売機能を設け、十字路側が表になるよう動線を変更する。 ● 展示販売・チャレンジショップなど経済交流機能 ● 2階はホール・集会場として継続利用(EV設置) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 改修・建替えコスト、維持管理コストに配慮して検討する。
		機能回復室				
		ホール・ステージ				
		団体室				
仲宗根地区公園	散策・休憩	周辺集落の農村在住者の健康増進、憩いの場として整備された農村公園である。	<ul style="list-style-type: none"> ● 国道505号、県道72号線の交差点に面する好立地を生かした機能配置を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駐車場・オープンスペース 		
健康・教育・子育てゾーン	今帰仁村保健センター	集団検診ホール	福祉保健課が役場庁舎に移動するため、今後の利活用方法の検討が必要である。(福祉保健課は新庁舎に移動)	<ul style="list-style-type: none"> ● 集団検診機能を別途確保する。 ● 周辺の環境を生かし、新たに健康や子育て等の機能配置を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● こどもの居場所 ● こども食堂 ● 無料塾 ● 健康チェック ● リフレッシュ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域保健法に基づく施設として整備
		機能回復訓練室				
		栄養指導室(調理)				
		保健指導室・交流室				
今帰仁の駅そーれ	今帰仁の駅そーれ	調理実習	立地の視認性、駐車場不足などから、道の駅登録、利用拡大を目指すにあたっては立地の見直し等が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ● 展示・販売機能を国道沿いに移す。(※) ● 周辺の環境を生かし、子供から大人までくつろげる機能配置を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ブックカフェ(図書館) ● 談話室 	<ul style="list-style-type: none"> ● ※展示・販売機能の国道側移設時期は、コミュニティセンターの改修案、建替え案と連動して、検討する。
		展示・販売				
		交流・談話室(食堂)				
		研究厨房・食品庫				
多目的広場	芝広場・ステージ	祭り等の会場として利用している。子供連れで利用する村民が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境とのふれあい、子育て環境の充実など村民の健康づくりや子育てをとおした交流の場として機能配置を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多目的広場(遊び場・ドッグラン) ● 大屋根施設 ● ステージ機能 		
自然ふれあいゾーン	ソーリガー・後背丘陵		湧き水から流れ出る水路を活かした環境づくりが望まれる。	<ul style="list-style-type: none"> ● ソーリガーの水の流れを活かしビオトープや親水空間等の環境づくりを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ビオトープ・親水空間 ● 森の散策路 	<ul style="list-style-type: none"> ● サガリバナ等植栽
産業連携ゾーン	北部製糖内敷地	空地		<ul style="list-style-type: none"> ● 国道沿いに道の駅等の機能配置のための用地確保を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道の駅機能 ● 特産品展示販売 ● クラフトビール・ワイン ● 産業体験等 ● 散策道路、園地整備、ドッグラン等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来的に産業連携機能を集約していく

全体で中央公民館機能を確保

4. 全体整備計画

(1) 計画課題について

① 既存施設の持続的利用

(仮称)北山文化圏センターは、村役場周辺の公共施設群を再編し、エリア一帯を拠点とする計画である。本業務において旧耐震基準の時代に建設された「今帰仁村中央公民館」については、耐震診断(一次診断)を行った結果、必要な評価点をクリアしているが部分的には構造補強が必要である。

建設から一定期間が経過している「今帰仁村中央公民館」(築48年)と「今帰仁村コミュニティセンター」(築39年)については、劣化調査も行った。その結果、今帰仁村コミュニティセンターはコンクリートの健全性は高い。ただし、床面積が大きい改修コストやバリアフリー対策(エレベーター設置)や維持管理費コストに課題が残り、地域住民意見も踏まえながら検討していく必要がある。

一方で今帰仁村中央公民館劣化が進行しており、安全確保のため今後も劣化のチェックと補修・修繕を継続的に行っていく必要がある。これまで、東京理科大学の今本教授らの研究チームと沖縄建築士会を中心としたボランティアグループにより調査研究や補修活動が続けられており、この活動を拡大していくことが望まれる。

昨今のSDGsの流れや建設当時の「自力建設」の考え方にもとづくと、既存建物を見守り続けながら利用していくことが、村民の愛着を育んでいくことにもつながる。他の建物も自立建設の考えの元、大切に見守りながら利用していく。

写真 中央公民館のボランティア・ワークショップ活動



② エリア全体の一体感醸成

今帰仁村中央公民館を中心とするエリアは、元々「村民センター」の一つとして、公共施設が整備されてきた場所であるが、土地利用の変遷に応じて、建築物もその時期のニーズに応じて、建てられてきた。

周辺には、乙羽岳を背景とする緑や、ソーリガーの水の流れ、製糖工場等の産業施設、仲宗根のまちなみなど多様かつ今帰仁村を象徴する環境・景観がとりまいている。これらの要素を取り込みながらエリア一帯を一つの拠点として一体感を創出していくことが必要である。

③ ランドスケープデザイン(景観づくり)

乙羽岳を背景に、ソーリガーがエリア内を流れており、今帰仁村の自然を象徴する資源を有している。こうした背景を取り入れる景観づくりが重要である。

今帰仁村中央公民館は、今帰仁村の風土を体現したとされる建築物で、シンボリックな建築物となっており、そのデザインは建築物として貴重な価値を有している。

こうした景観のポテンシャルを活かし、この場所の見え方、眺望景観を作っていくことが望まれる。

④ 用地の確保

本エリア周辺は、村有地が多くを占めるが、コミュニティセンターの東側、国道沿いの駐車場となっている場所は民有地である。また、「産業連携ゾーン」としている場所は北部製糖の敷地である。

一体的な利用を図っていくためには、こうした土地の確保が必要となる。

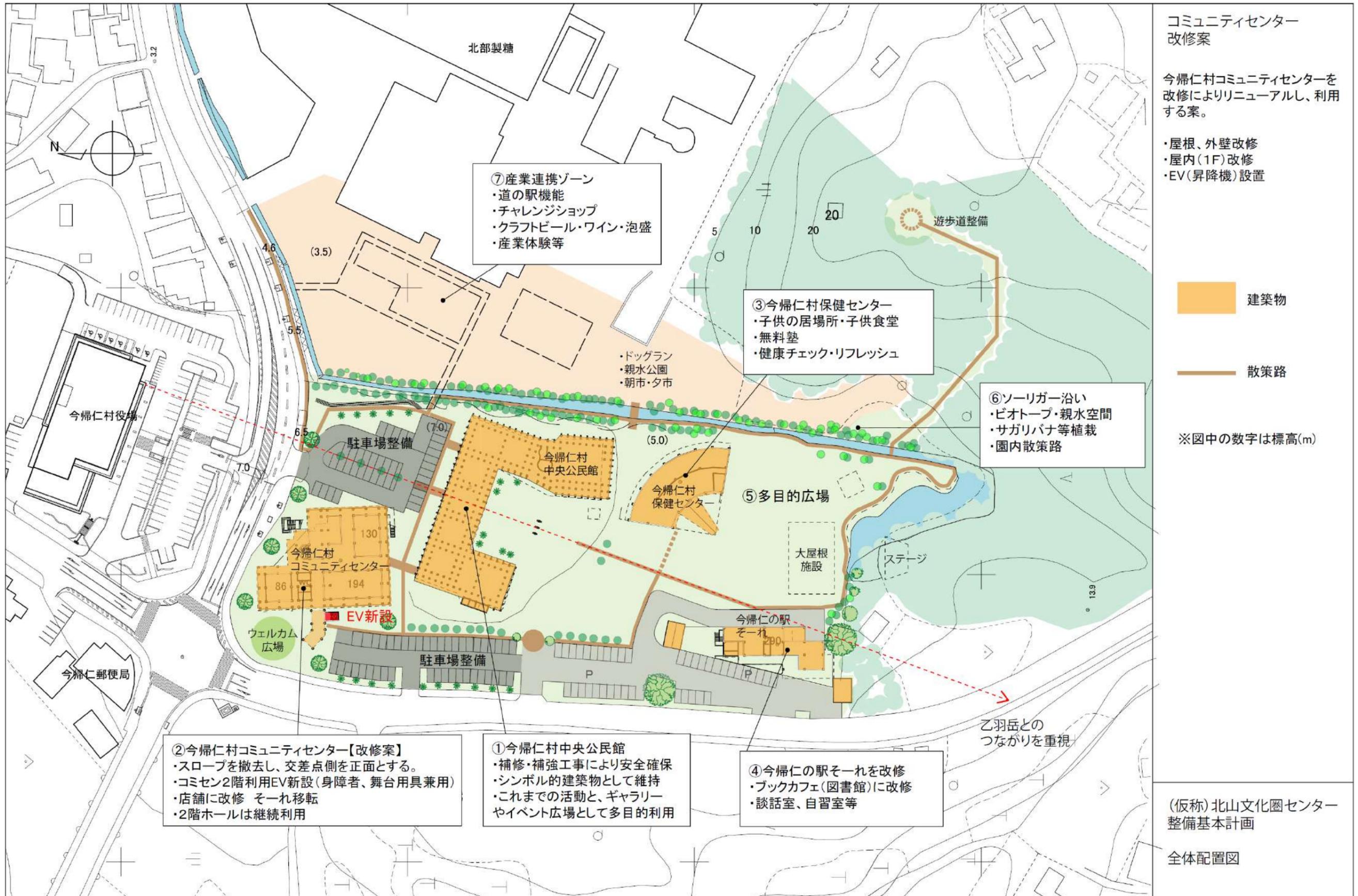
(2)機能配置計画

①機能配置フロー

(仮称)北山文化圏センターは、計画地周辺に立地する公共施設群を活用して機能を再編し、エリア一帯を拠点としていくものである。ここでは各施設の機能をリストアップし、今後の活用方法について検討した。



②全体配置図 コミュニティセンター改修案



第4章 ゾーン別整備計画

1. ゾーン別計画・個別施設計画

(1)コミュニティ交流ゾーン

ゾーン名	コミュニティ交流ゾーン
対象施設	今帰仁村中央公民館、今帰仁村コミュニティセンター 仲宗根地区公園、既存駐車場(民有地)
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 「交流」を促し、村内の全体的なコミュニティの強化のみならず、北山文化圏として輪を広げ、さらに広くつないでいく。
利用イメージ	<p>①今帰仁村中央公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今帰仁村の風土を現したシンボリックな建築物として保存・利活用を図る。 ● 利活用にあたっては安全面の確保を前提に利用可能な用途を検討する。 ● 補修・補強による安全確保のもと、これまでのサークル活動や講座・高齢者学級等の利用を維持するとともに、幅広い活動の受け入れを図る。 ● 北山文化圏や象設計集団に関する展示ギャラリー等。 ● イベント・集会等。 <p>②今帰仁村コミュニティセンター</p> <p>【改修案】:1Fに展示・販売機能を設け、十字路側が表になるよう動線を変更する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 展示販売・チャレンジショップなど経済交流機能 ● 2階はホール・集会場として継続利用(エレベーター設置によるバリアフリー対策) <p>【建替え案】:集会機能として平屋で建替え、役場駐車場と共にオープンな空間を作り出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平屋で建替えにより多目的集会機能 <p>③仲宗根地区公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国道505号、県道72号線の交差点に面する好立地を生かした機能配置を図る。 ● 駐車場・オープンスペースとして整備する。 <p>④既存駐車場(民有地)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 土地を取得して駐車場として一体的整備を図る。中央公民館、コミュニティセンターの地盤高との段差を緩和するよう盛土造成する。
計画課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 今帰仁村中央公民館は社会教育法に基づく「中央公民館」の位置づけに検討を要する。また、コンクリート劣化に関して継続的なチェックや補修・修復の体制づくりが必要。 ● 屋根の三層構造、緑化復元は維持・管理や補修作業との兼ね合いで検討を要する。 ● 中央公民館周辺から建物への見通し、遮蔽、統一感など整理が必要である。 ● コミュニティセンターは改修・建替えコスト、維持管理コストに配慮して検討する。

【コミュニティ・交流ゾーン整備計画図】

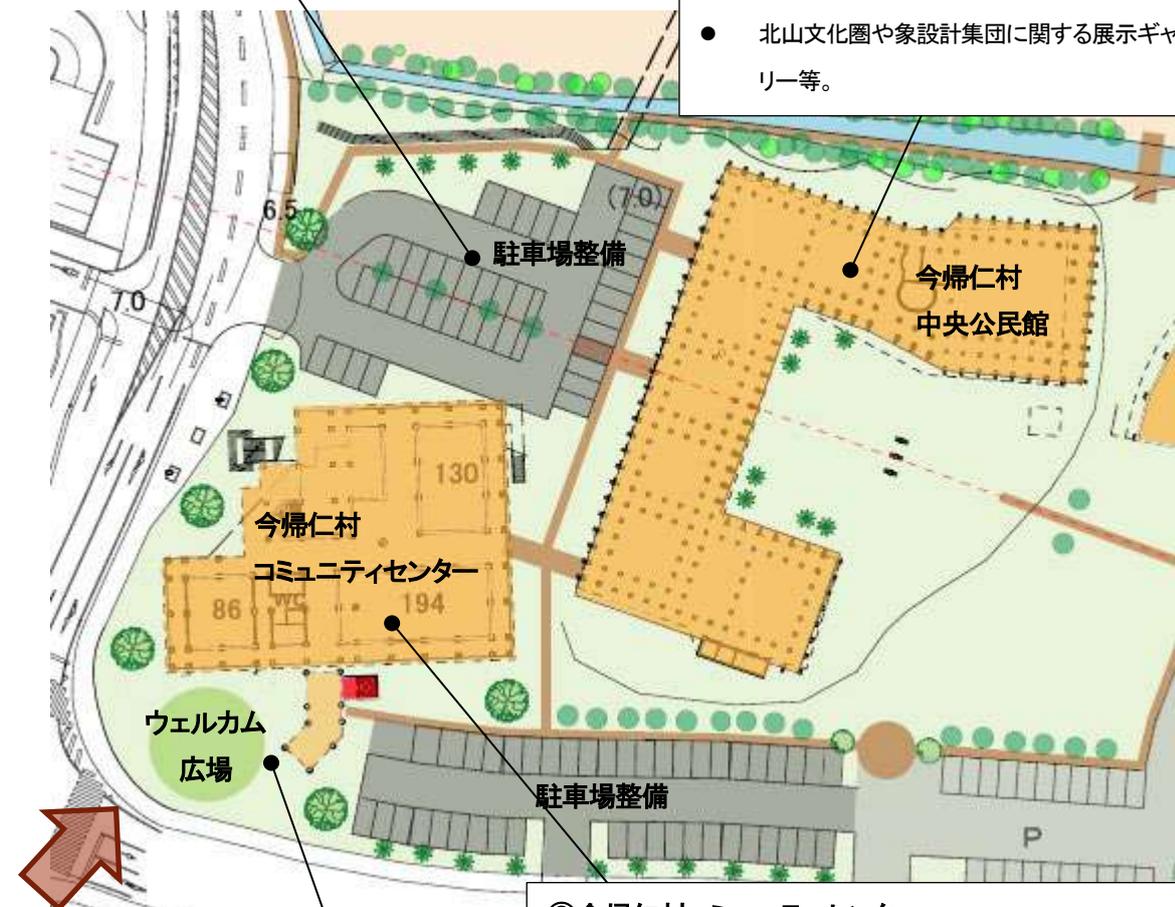
コミュニティセンター【改修案】

④既存駐車場整備

- 土地を取得して駐車場として一体的整備を図る。中央公民館、コミュニティセンターの地盤高との段差を緩和するよう盛土造成する。

①今帰仁村中央公民館

- 今帰仁村の風土を現したシンボリックな建築物として保存・利活用を図る。
- 利活用にあたっては安全面の確保を前提に利用可能な用途を検討する。
- 補修・補強による安全確保のもと、これまでのサークル活動や講座・高齢者学級等の利用を維持するとともに、幅広い活動の受け入れを図る。
- 北山文化圏や象設計集団に関する展示ギャラリー等。



交差点からみて表になるよう顔づくりを図る。

③仲宗根地区公園

- 国道 505 号、県道 72 号線の交差点に面する好立地を生かした機能配置を図る。
- 駐車場・オープンスペースとして整備する。

②今帰仁村コミュニティセンター

- 1F 改修により展示・販売機能をそーれより移設、スロープを撤去し、十字路に面した側が表になるよう動線を変更する。
- 2F バリアフリー機能を整備 (EV 設置) しホール継続利用。

【コミセン改修イメージ】



コンクリート打ち放し仕上げ意匠復元工法【施工前】



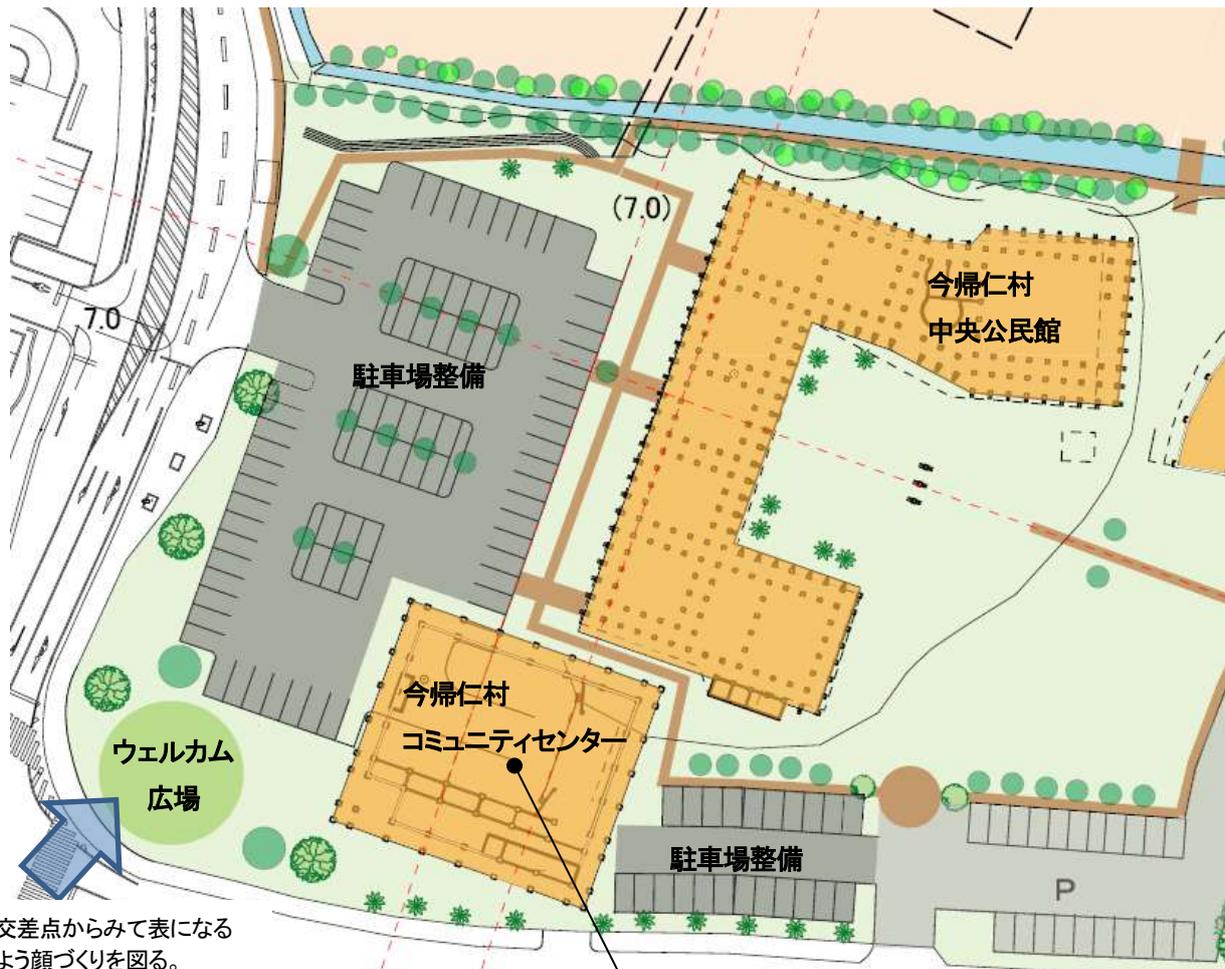
【施工後】

【コミュニティ・交流ゾーン整備計画図】

コミュニティセンター【立替案】



イベント利用(左:毎月行われる朝市/右:2月に行われた夜市)



交差点からみて表になる
よう顔づくりを図る。

- ②今帰仁村コミュニティセンター
- 集会機能として平屋で建替え、役場駐車場と共にオープンな空間を作り出す。
 - 平屋で建替えにより多目的集会機能

(2)健康・教育・子育てゾーン

ゾーン名	健康・教育・子育てゾーン
対象施設	今帰仁村保健センター、今帰仁の駅そーれ、多目的広場
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康づくり、教育、子育てなどが融合し、子供を中心として各地域や世代間をつなぎ、さらに未来へとつないでいく。
利用イメージ	<p>①今帰仁村保健センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 集団検診機能を別途確保する。 ● 周辺の環境を生かし、新たに健康や子育て等の機能配置を図る。 ● こどもの居場所 ● こども食堂 ● 無料塾 ● 健康チェック ● リフレッシュ  <p style="text-align: center;">子供の居場所のイメージ</p> <p>②今帰仁の駅そーれ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 展示・販売機能を国道沿いに移す。(※) ● 周辺の環境を生かし、子供から大人までくつろげる機能配置を図る。 ● ブックカフェ(図書館) ● 談話室 <p>※ 展示・販売機能の国道側移設時期は、コミュニティセンターの改修案、建替え案と連動して、検討する。</p>  <p style="text-align: center;">ブックカフェ(図書館)、談話室のイメージ</p> <p>③多目的広場</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境とのふれあい、子育て環境の充実など村民の健康づくりや子育てをとおした交流の場として機能配置を図る。 ● 多目的広場(遊び場) ● 大屋根施設
計画課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 機能及び利用方策の詳細について、実際に利用する健康づくり関係者や子育て世代の意見を反映させる必要がある。 ● 隣接するソーリガー(自然ふれあいゾーン)で子供たちが水に親しみながら遊べるよう連携、一体感のある整備が必要である。

【健康・教育・子育てゾーン整備計画図】

①今帰仁村保健センター

- 集団検診機能を別途確保する。
- 周辺の環境を生かし、新たに健康や子育て等の機能配置を図る。
- 子供の居場所
- 子ども食堂
- 無料塾
- 健康チェック
- リフレッシュ



大屋根施設のイメージ

直射日光や雨を遮り、イベント等にも利用できる



③多目的広場

- 自然環境とのふれあい、子育て環境の充実など村民の健康づくりや子育てをとおした交流の場として機能配置を図る。
- 多目的広場(遊び場)
- 大屋根施設・ステージ

②今帰仁の駅そーれ

- 展示・販売機能を国道沿いに移す。(※)
- 周辺の環境を生かし、新たに健康や子育て等の機能配置を図る。
- ブックカフェ(図書館)
- 談話室

※展示・販売機能の国道側移設時期は、コミュニティセンターの改修案、建替え案と連動して、検討する。

- 村役場～中央公民館～乙羽岳への見通しの軸線を意識する。
- 既存の保健センター駐車場は撤去し、新設駐車場その他で台数を確保する。

(3)自然ふれあいゾーン

ゾーン名	自然ふれあいゾーン
対象施設	ソーリガー、背後地丘陵
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● ソーリガーの水の流れを活かしビオトープや親水空間等の環境づくりを図る。
利用イメージ	<p>①ソーリガー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ビオトープ・親水空間 ● サガリバナ植栽等 <p>②背後地丘陵</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 森の散策路
	 <p>中央公民館などで行われたスーパー寺子屋の様子</p>
	 <p>森の小道のイメージ</p>  <p>ビオトープのイメージ</p>
計画課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 背後の丘陵は一部保安林に指定されている。 ● 子供の遊び場とする場合は、①かく乱によって生物の生息に影響が生じることと ②水遊びのできる水質の確保 が課題となる。



【サガリバナ】 別名:サワフジ

開花時期:6~8月

原産地:沖縄、アフリカ、インド、マレー半島

生育適地:土壌は特に選ばないが、多少の湿潤があるのを好む。

特徴:真夏に白からやや桃色の芳香のある花を、垂れ下がるように夜咲かせる。マングローブの構成樹種の一つで、湿り気の強い土壌で良く育つ。群生地では、花の甘い香りと、流れに散ってゆく様は実に圧巻。最近、苗が容易に手に入るようになり、育てやすいので庭園樹として人気が増えてきた。

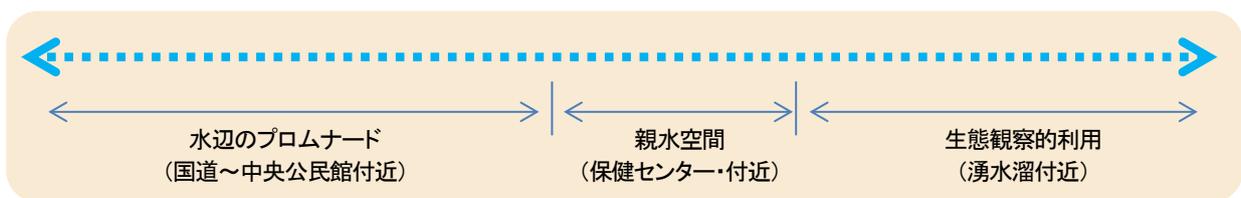
(出典:おきなわ緑と花のひろば 沖縄県環境部)

【自然ふれあいゾーン整備計画図】



図 ビオトープの展開イメージ

- ソーリガーの湧水(水面)部分は生態観察的な利用、多目的広場や保健センターに面する部分は子供が水に親しめる空間、下流に向かっては散策等、水辺のプロムナード的な空間にするなどゾーニングを図る。



(4)産業連携ゾーン

ゾーン名	産業連携ゾーン
対象施設	※現北部製糖敷地内
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 国道沿いに道の駅機能を持った賑わいの場を設け、地域産業が連携した第6次産業を促進し、地域内外の交流・消費の場を設ける。
利用イメージ	<p>※現在は北部製糖(株)の敷地につき、下記については今後調整が必要である。</p> <p>①道の駅機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本部半島には現在、登録「道の駅」がない。今帰仁村内では国道 505 号を 5000 台/日が通過しており、滞在・消費の場を作る必要がある。 <p>特産品展示販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 今帰仁の駅そーれは、村民をはじめ周辺市町村からの顧客も多く、そのビジネススタイルは確立しているが、国道沿いに移すことにより観光客を対象に地域の特産品を展示販売していく。 <p>クラフトビール・ワイン・泡盛</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 地域の資源を活かし、クラフトビールやワイン、泡盛を活かした商品開発により加工・展示・販売していく。 <p>産業体験等</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 沖縄の特産品である「黒砂糖」について、その製造過程や製品の紹介などをおして観光メニュー開発や産業活性化を図る。 <p>②散策道路・園地整備・朝市・夕市、ドッグラン等</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 観光客の休憩・散策により滞在時間を延ばし消費促進につなげるとともに、村内外交流の場として機能する。 ◇ ソーリガーを軸として、ゾーン間をつないでいく。
計画課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 北部製糖(株)との、継続的な交渉により事業連携方策等を調整していく必要がある。

【産業連携ゾーン整備計画図】

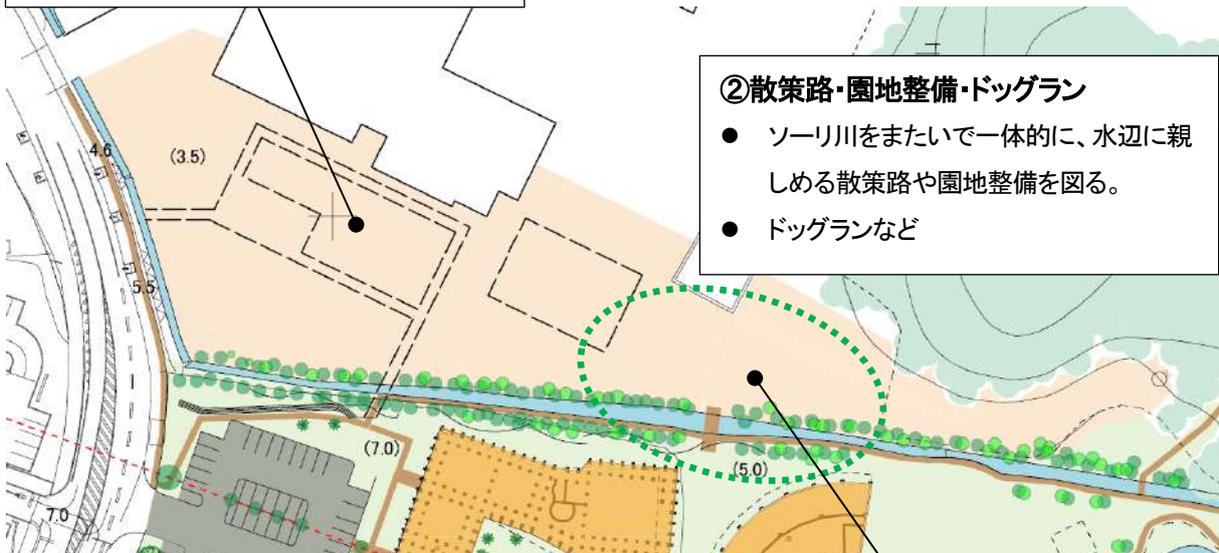


①道の駅機能

- 特産品展示・販売
- クラフトビール・ワイン・泡盛
- 産業体験等

道の駅の事例 川場田園プラザ（群馬県）

村づくりの基本路線である「農業＋観光」の集大成の事業と位置づけ、川場村の地場産品の振興及び新規開発を担うとともに、川場村の商業・情報・ふれあいの核である“タウンサイト”形成の場として機能している。



②散策路・園地整備・ドッグラン

- ソーリ川をまたいで一体的に、水辺に親しめる散策路や園地整備を図る。
- ドッグランなど

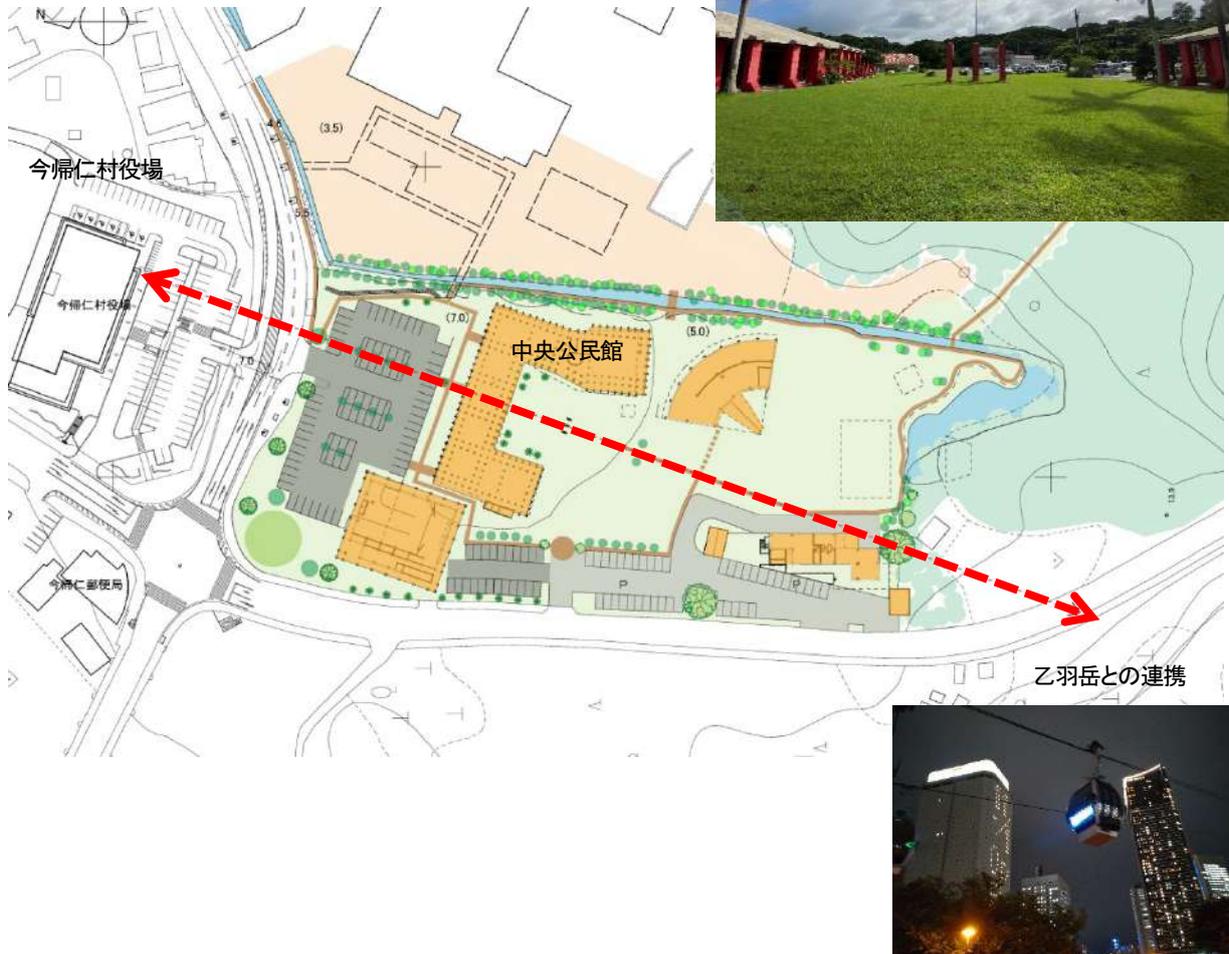


水辺を生かした親水空間の創出

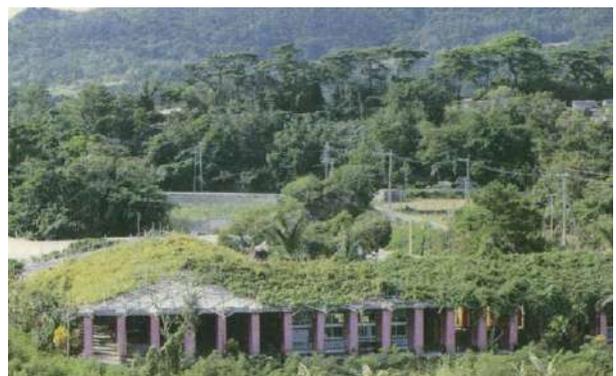
(5)全体的ネットワーク

ゾーン名	エリア全体の統一感の醸成
対象施設	
基本方針	<ul style="list-style-type: none">● 散策路による全体のネットワーク、植栽による一体感と統一感の演出、ランドスケープによる景観形成などエリア全体の一体感を醸成する。
利用イメージ	<p>①構内動線・散策路</p> <ul style="list-style-type: none">● 施設間を有機的につなぐネットワーク動線となる散策路が必要である。● 散策路は、施設間をつなぐとともに健康づくりのためのウォーキングやジョギングコースともなるとともに、自然と触れ合う散策路としても機能する。 <p>②植栽</p> <ul style="list-style-type: none">● エリア一帯の統一感を持たせるよう、植栽による演出を施す。地域の風土に調和した樹種を選定する。● 乙羽岳を背景とする景観を活かし、自然のつながりをエリア内に取り込んでいくような植栽を施す。 <p>③ランドスケープデザイン</p> <ul style="list-style-type: none">● エリア内を一つの園地として、景観や環境に配慮した一体的なランドスケープデザインにより統一感を醸成する。● 今帰仁村役場庁舎～中央公民館～乙羽岳につながる軸線を重視する。
計画課題	<ul style="list-style-type: none">● 設計・施工にあたっては、統一したコンセプトに配慮する必要がある。

【全体的なネットワーク計画図】



【植栽について】



屋根が緑で覆われていた時の中央公民館

周辺の自然とみごとに調和した景観を作り出していた。

植栽の維持管理を含め、屋根の補修等に関する維持管理に配慮する必要がある。

2. 概算事業費

(仮称)北山文化圏センターの概算事業費を、下表のとおり算出した。

表 (仮称)北山文化圏センター整備事業 概算工事費 (コミュニティセンター改修案)

業務名	対象	業務内容	金額
測量調査	計画対象地周辺(約2.5ha)	基準点測量、水準測量、用地測量、現地測量	2,750,000
土質調査	屋根施設	ボーリング1カ所、磁気探査	3,553,000
建築設計業務	今帰仁村中央公民館	補修改修設計業務	7,135,000
	今帰仁村コミュニティセンター	改修設計業務	7,737,000
		昇降機施設設計業務(基本・実施)	4,893,000
	今帰仁の駅そーれ	改修設計業務	4,040,000
	屋根施設・ステージ	設計業務(基本・実施)	6,355,000
土木設計業務	計画対象地全体	外構基本設計・開発申請業務	10,130,000
		外構実施設計	20,630,000
①調査・設計業務	計(税別)		67,223,000
工事監理業務	今帰仁村中央公民館	補修改修工事監理業務	4,126,000
	今帰仁村コミュニティセンター	改修工事監理業務	8,425,000
		昇降機施設工事監理業務	1,372,000
	今帰仁の駅そーれ	改修工事監理業務	4,126,000
	屋根施設・ステージ	工事監理業務	1,973,000
②監理業務	計(税別)		20,022,000
	合計(税別)	①+②	87,245,000
	消費税相当額(10%)		8,724,500
	委託費合計(税込)		115,991,500

施設名	工事名称	工事名称	金額
今帰仁村中央公民館	①屋根・軒天等補修工事	仮設工事、屋根・軒天・梁補修工事	49,680,000
	②内部仕上げ	建築工事、電気設備工事、機械設備工事	213,720,000
	計(税別)		263,400,000
今帰仁村コミュニティセンター (改修+昇降機新設工事)	①改修工事	仮設工事、屋根・外壁改修、屋内解体	71,690,000
	②内部仕上げ	建築工事、電気設備工事、機械設備工事	339,620,000
	③昇降機新設	建築工事、電気設備工事、機械設備工事、昇降機	86,540,000
	計(税別)		497,850,000
今帰仁の駅そーれ (改修工事)	①仮設工事費	仮設工事、屋根・外壁改修、屋内解体	19,860,000
	②内部仕上げ	建築工事、電気設備工事、機械設備工事	106,780,000
	計(税別)		126,640,000
駐車場・外構・緑化工事	①駐車場	コミセン東側	15,120,000
		仲宗根地区公園側	31,760,000
	②構内外構・緑化		88,180,000
計(税別)		135,060,000	
ピオトープ工事・散策路		ピオトープ・園路・木橋、階段、デッキ	234,790,000
	計(税別)		234,790,000
屋根施設	①屋根施設	400㎡幕屋根想定	181,830,000
	②ステージ	100㎡幕屋根想定	49,140,000
	計(税別)		230,970,000
	合計(税別)		1,488,710,000
	消費税相当額(10%)		148,871,000
	工事費合計(税込)		1,637,581,000

委託費・工事費合計	委託費(税込)		115,991,500
	工事費(税込)		1,637,581,000
	合計(税込)		1,753,572,500

(別途)	用地購入費		
	備品等購入費		
	産業連携ゾーン関連工事費		

※上記には、用地購入費、備品等購入費、産業連携ゾーン工事費は含まない。

表 (仮称)北山文化圏センター整備事業 概算事業費 (コミュニティセンター建替え案)

業務名	対象	業務内容	金額
測量調査	計画対象地周辺(約2.5ha)	基準点測量、水準測量、用地測量、現地測量	2,750,000
土質調査	コミセン建替え、屋根施設	ボーリング6カ所、磁気探査	9,755,000
建築設計業務	今帰仁村中央公民館	補修改修設計業務	7,135,000
	今帰仁村コミュニティセンター	解体設計業務	4,057,000
		設計業務(基本・実施) 建替え	30,684,000
	今帰仁の駅そーれ	改修設計業務	4,040,000
	屋根施設・ステージ	設計業務(基本・実施)	6,355,000
土木設計業務	計画対象地全体	外構基本設計・開発申請業務	10,130,000
		外構実施設計	20,630,000
①調査・設計業務	計(税別)		95,536,000
工事監理業務	今帰仁村中央公民館	補修改修工事監理業務	4,126,000
	今帰仁村コミュニティセンター	解体工事監理業務	2,149,000
		建替え工事監理業務	12,634,000
	今帰仁の駅そーれ	改修工事監理業務	4,126,000
	屋根施設・ステージ	工事監理業務	1,973,000
②監理業務	計(税別)		25,008,000
	合計(税別)	①+②	120,544,000
	消費税相当額(10%)		12,054,400
	委託費合計(税込)		157,606,400

施設名	工事名称	工事名称	金額
今帰仁村中央公民館	①屋根・軒天等補修工事	仮設工事、屋根・軒天・梁補修工事	49,680,000
	②内部仕上げ	建築工事、電気設備工事、機械設備工事	213,720,000
	計(税別)		263,400,000
今帰仁村コミュニティセンター (改修+昇降機新設工事)	①既存解体	解体工事	57,200,000
	②内部仕上げ	建築工事、電気設備工事、機械設備工事	316,150,000
	計(税別)		373,350,000
今帰仁の駅そーれ (改修工事)	①仮設工事費	仮設工事、屋根・外壁改修、屋内解体	19,860,000
	②内部仕上げ	建築工事、電気設備工事、機械設備工事	106,780,000
	計(税別)		126,640,000
駐車場・外構・緑化工事	①駐車場	コミセン東側	25,680,000
		仲宗根地区公園側	26,060,000
	②構内外構・緑化		85,150,000
計(税別)		136,890,000	
ピオトープ工事・散策路		ピオトープ・園路・木橋、階段、デッキ	234,790,000
	計(税別)		234,790,000
屋根施設	①屋根施設	400㎡幕屋根想定	181,830,000
	②ステージ	100㎡幕屋根想定	49,140,000
	計(税別)		230,970,000
	合計(税別)		1,366,040,000
	消費税相当額(10%)		136,604,000
	工事費合計(税込)		1,502,644,000

委託費・工事費合計	委託費(税込)		157,606,400
	工事費(税込)		1,502,644,000
	合計(税込)		1,660,250,400

(別途)	用地購入費		
	備品等購入費		
	産業連携ゾーン関連工事費		

※上記には、用地購入費、備品等購入費、産業連携ゾーン工事費は含まない。

第5章 事業化推進計画

1. 管理・運営体制

(仮称)北山文化圏センターの計画対象地は、今帰仁村の公共施設群が建ち並ぶエリアで、2ha 以上(産業連携ゾーンを含まず)の面的な広がりを持つ。これまで各施設は所管部局も異なり、個別に管理されてきた。

今回の計画では、当エリアを一体として有機的な連携のもとでの利用を図っていく場合、全体を面的にとらえるとともに総合的にマネジメントしていくことが必要である。

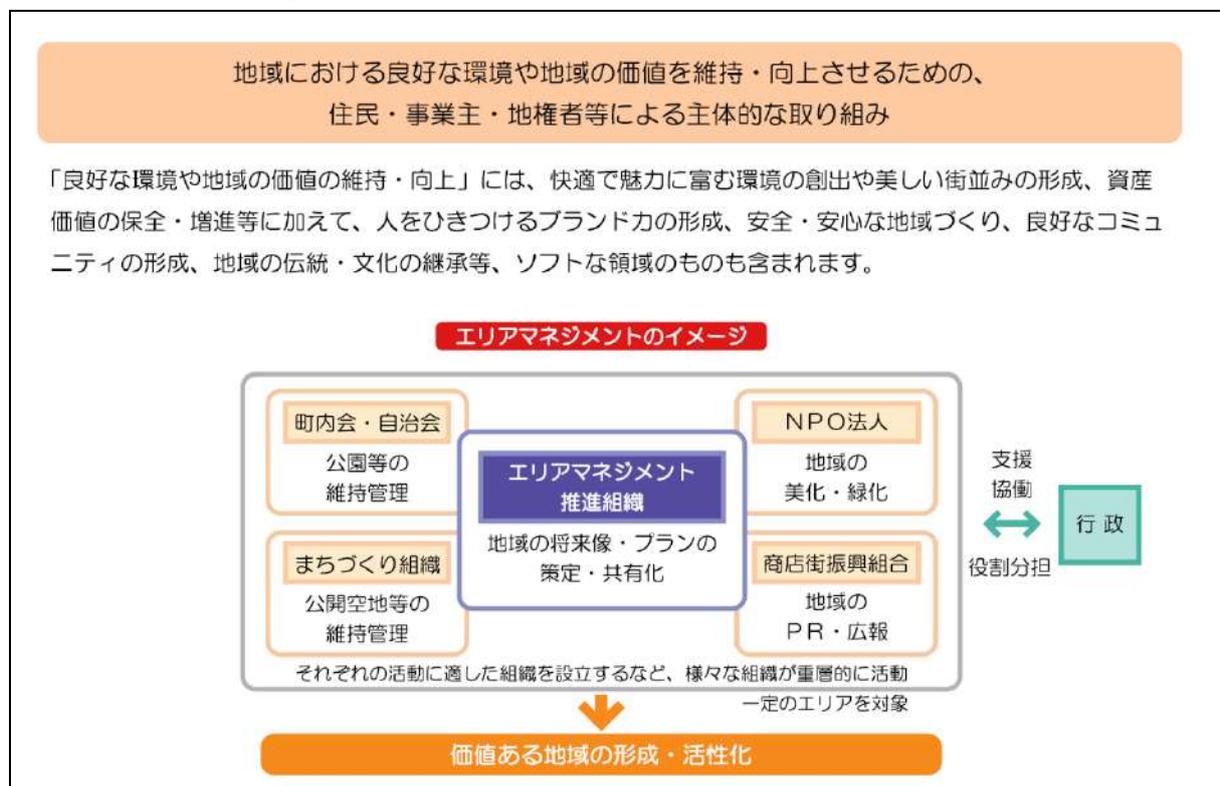
本エリアは、コンセプトに基づき、「歴史と未来をつなぐ つながりの拠点」として、くらしに関わる6つの「つなぐ」の実現に向けて、多彩な住民活動が実施できる環境や体制を整備するとともに、来訪者との交流やサービスの提供にあたっては、多様な関係者(村・管理運営者・村民活動組織・企業)が連携・協力し取り組む必要がある。

特に、施設の維持・管理は、皆で見守り、手入れをしながら未来へとつないでいく体制が必要である。

また、この場所は、北部地域でも広域幹線道路の交差する重要な場所に位置し、ポテンシャルの高い公共施設エリアであることから、民間のノウハウやアイデアを最大限活用することが望まれる。

当計画対象地は、面的な広がりを持つ公園的なエリアととらえることもできる。近年、面的エリアや公園管理の手法として、地域の持つポテンシャルを活かし、観光振興や地域経済の活性化といった効果を高めるため公民連携をはじめとしたより効率的なマネジメントを図る、エリアマネジメントやパークマネジメントの手法が取り入れた例が多くみられており、このエリアでもこうした管理体制を検討していく必要がある。

図 エリアマネジメントの定義



出典: エリアマネジメントのすすめ パンフレット 国土交通省土地・水資源局

2. サポーター組織の組成

(仮称)北山文化圏センターの形成にあたっては、公共施設の再編と拠点化が背景としてあり、建設コスト・維持管理コストに配慮しながら、できるだけ既存施設を有効活用していく方針となっている。

1975年(昭和50年)に今帰仁村中央公民館が建設されてから48年が経過しているが、その間村民の様々な活動の場となってきた場所である。背景の乙羽岳の緑や青い空に映える赤い柱の象徴的なデザインは村民の記憶の中に刻まれている。

ただし、今帰仁村中央公民館は、耐震診断(一次診断)はクリアしたものの、コンクリートの劣化が進行しており、今後も定期的なチェックや補修・修繕を続けていくことが必要となっている。当公民館は建設当初、「自立建設」という、村民自らの手で創り育てていくという考え方のもとに建てられたものである。既存の建築物を地域のシンボルとして有効利用を図っていく体制、見守り続けていく体制が必要である。既にこれまで東京理科大学の今本教授や沖縄建築士会などを中心とするボランティアグループが維持・保全活動を進めている。こうした動きと連携しながら、村民を中心とした組織を創出する必要がある。

また、今年2月に行われた「なきじん夜市」では、今帰仁村中央公民館をシンボリックにライトアップしたイベントが行われ、村民をはじめ多くの来場者で賑わった。こうした取り組みを進めることで施設への愛着を醸成していくことも必要である。

埼玉県の宮代町に建設されたコミュニティセンター「進修館」は、同じく象設計集団が手掛けた建築物であり、同じDNAを持つ建物である。そこでは、建物の利用や維持管理を皆の手で図っていくため、「進修館」ファンクラブを組織している。

今帰仁村でもそのようなサポーター組織を創出して、今帰仁村中央公民館のみならず、(仮称)北山文化圏センター一帯の建物を大切にしながら積極的な利用と維持管理を続けていくことが望まれる。

図 進修館ファンクラブ

進修館ファンクラブの目的

- 進修館の建築理念を多くの方に知ってもらうこと
- 進修館の建築物としての美しさを多くの方に知ってもらうこと
- 進修館を美しい建築物として後世に残すこと
- 進修館を記憶として後世に残すこと

進修館ファンクラブの活動

- 進修館にまつわる資料をデジタルアーカイブ化し蓄積します。
- アーカイブ化された資料を用いて進修館の魅力を発信します。
- 年1回、ファンクラブ企画を実施します。
- 宮代町との連携を図り、進修館を後世に残すよう計ります。
- 年4回、ファンクラブ会報を発行し活動報告を行います。
会報には特典(ポストカードやカレンダーなど)をお付けします。

進修館に興味がある方であれば、どなたでもご参加いただけます。

出典:進修館ホームページ

写真 ボランティア活動



写真 なきじん夜市



3. 事業化スケジュール

事業化にあたっては、エリアの施設群の利用状況に応じて機能を補完しつつ段階的に進める。

			2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)
コミュニティ・交流ゾーン	今帰仁村中央公民館	補修・補強 改修	事業化調整	調査・設計 	工事		
	今帰仁村コミュニティセンター	改修 (建替え)	"	調査・設計 	工事		
	仲宗根地区公園	改修	"	調査・設計 	工事		
	既存駐車場	造成・舗装	"	調査・設計 	工事		
健康・教育・子育てゾーン	今帰仁の駅 そーれ	改修	"		調査・設計 	工事	
	今帰仁村保健センター	用途変更	"	上記工事期間・代替機能として利用 			
	多目的広場	改修	"		調査・設計 	工事	
自然ふれあいゾーン	ソーリガー (ビオトープ・親水空間)		"		調査・設計 	工事	
	山の小道		"			調査・設計 	工事
産業連携ゾーン	道の駅機能		"	企業と調整次第推進 			

4. 今後の課題のまとめ

(1) 住民意見の反映

今年度の整備基本計画では、ニーズ調査として村役場の関係各課、関係機関の代表、有識者に意見を伺い、全体的な方針を整備計画としてまとめたものである。

今後は、これを基に今帰仁村民より利用者目線での利用方法や使い勝手など詳細について意見を徴収し、個別の建物の計画・設計への反映を図る必要がある。

(2) 計画対象エリアの空間的な一体感・統一感の醸成

計画対象地は、今帰仁村中央公民館をはじめとして、周辺に各施設が別々に単体で整備されていったため、各施設のつながりが見えづらい状況にある。

今回の計画では、村役場から今帰仁村中央公民館、中庭を通して見える乙羽岳につながる軸線重視して、散策路のネットワークや植栽により統一感を醸成することを方針としており、全体を一つの「つながりの拠点」とした設計が必要である。

(3) 管理・運営体制の構築

計画対象地では各施設が単体で立地しており、これまでは、それぞれの所管部署の元でそれぞれの目的に応じた管理・運営が行われていた。

今回の計画では、計画対象地を一体的なエリアとみなし、官民連携によるエリアマネジメント、パークマネジメントの考え方をとり入れ、各施設を有機的につなぎ地域のポテンシャルを活かす推進体制が必要である。

(4) 施設の維持管理体制構築

本計画では建設から 25～48 年が経過した施設を今後も積極的に活用していこうとするものであり、経年劣化に対する修繕・補修、改修といった維持管理対応が必要である。必要な対策を続けていくなかで、コストをできるだけ軽減することを含め、施設への愛着を醸成していくことを目的に、すでに活動を行っているボランティアグループとも連携し、地域内外にファンクラブ等サポーターを増やしていくことで、みなで愛着を持って大切に利用していく体制を作っていくことが必要である。

(5) 各施設の法制度の確認

本計画の対象となった施設群は、それぞれ法制度に基づいて整備されたもので、「設置及び管理等に関する条例」により運用されている。今後の利用内容によっては、条例改正等が必要となる可能性がある。

各条例の内容を確認するとともに、これまでの利用内容を継続していけるよう、機能配置に配慮することが必要である。

(6) 施設運用プログラム

前述したとおり「各施設の設置及び管理運営等に関する条例」を確認し、機能を確保するほか、各施設の整備スケジュールと照らし合わせながら、工事期間中も代替機能など継続利用できるよう、施設運用プログラムの整理が必要である。

(7) 民有地の利用について

計画対象地の多くは村有地が占めているが、一部民有地がある。計画対象エリア全体を一体的に管理するため、必要な土地を確保するよう調整が必要である。

(8) 土地利用規制の詳細確認

計画対象地は約 2ha 以上の広がりを持つ。今帰仁村は都市計画区域外であるが、造成設計などの開発行為が 3,000 m²～10,000 m²未満の場合、県土保全条例の開発許可、10,000 m²以上に及ぶ場合は、都市計画法に基づく開発許可申請が必要になる場合がある。

また、ソーリガー背後の森林の一部が保安林に指定されており、整備にあたっては詳細を確認する必要がある。また、ソーリガーは字玉城が水利権を有しており、利用にあたっては調整が必要である。

(9) 民間企業との連携

本計画では官民連携により効果のある取組を目指しており、村内外の民間活力と連携を進めていく。

特に、ゾーニングにおいて、「産業連携ゾーン」とした場所は北部製糖(株)今帰仁事業所の敷地であり、国道 505 号にも面し、ソーリガーを軸に連携できれば、土地のポテンシャルが大きく高まる。双方に相乗効果が得られるよう、連携施策について対話を続けていく必要がある。

(10) 拠点間の連携

今帰仁村には、現在、各分野での拠点施設が存在する。歴史・文化の発信拠点となっている今帰仁城跡、健康・運動やレクリエーション拠点となっている今帰仁村運動公園、森林などの自然とのふれあい拠点としての今帰仁村乙羽岳森林公園、海や島の自然や島の特産品など古宇利島観光拠点施設など、すでに集客力を持った施設が点在している。さらに、今後は旧嵐山ゴルフ場跡に「沖縄北部新テーマパーク」の建設が予定されている。

(仮称)北山文化圏センターは、全体コンセプトや基本方針のなかで、立地を生かしてこれらの拠点間をつなぐ、未来に向けた総合的な拠点として位置付けている。

拠点間の連携体制を強化し、今帰仁村全体、ひいては北山文化圏全体の要となっていく必要がある。

参考資料

1. 今帰仁村中央公民館耐震診断(1次診断)結果

<耐震診断結果>

建物重量	14487 kN
Fc	20.6 N/mm ²
ho	2950 mm
柱D(CB考慮 300+100+100)	500 mm
柱 c	1.00 N/mm ²
柱1本耐力(上下梁) Qu	91.34 kN/本
柱1本耐力(片側梁) 1/2Qu	45.67 kN/本

Es	0.80
地域係数 Z	0.70
重要度係数 U	1.00
判定値Iso	0.56
形状指標SD	0.80
経年指標T	0.80

1次診断結果

【X方向】

		1本毎Qu	本数	計
柱耐力 集計	上下梁あり	91.34	194	17720.0
	片側のみ梁	45.67	21	959.1
	梁なし	0.00	58	0.0
			273	18679.0
Σ Qu				18679.0
強度指標 C				1.289
靱性指標 F				1.00
保有性能基本指標 Eo				1.289
構造耐震指標 Is				0.825
検定比 (=Is/Iso)				1.47
判定				OK

※CB壁耐力は考慮しない

【Y方向】

		1本毎Qu	本数	計
柱耐力 集計	上下梁あり	91.34	208	18998.7
	片側のみ梁	45.67	13	593.7
	梁なし	0.00	52	0.0
			273	19592.4
Σ Qu				19592.4
強度指標 C				1.352
靱性指標 F				1.00
保有性能基本指標 Eo				1.352
構造耐震指標 Is				0.866
検定比 (=Is/Iso)				1.55
判定				OK

※CB壁耐力は考慮しない

<耐震性の判定>

第1次診断法による検討の結果、X方向及びY方向で判定値を満足 ($I_s \geq I_{so}$) しており、想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していると判断できる。以下に結果の考察を示す。

◇ 経年指標

現地調査報告書および築年数に基づき、1次経年指標 $T=0.80$ とした

◇ 形状指標

整形性による低減があり、1次形状指標 $SD=0.80$ となる。

◆ X方向 診断結果

第1次診断法にて検討を行った結果 $I_s=0.825$ となり、判定値 $I_{so}=0.56$ を満足している。

◆ Y方向 診断結果

第1次診断法にて検討を行った結果 $I_s=0.866$ となり、判定値 $I_{so}=0.56$ を満足している。

1次診断 現況診断

$$\text{判定値 } I_{so} = E_s \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.80 \times 0.70 \times 1.00 \times 1.00 = 0.560$$

X方向(正・負加力時)											
階	Σw_i (kN)	$\frac{(n+1)}{(n+i)}$	C	F	破壊形式	E_o	SD	T	I_s	検定比 I_s/I_{so}	判定
1	14,487	1.000	1.289	1.00	CS	1.289	0.800	0.800	0.825	1.47	OK
Y方向(正・負加力時)											
階	Σw_i (kN)	$\frac{(n+1)}{(n+i)}$	C	F	破壊形式	E_o	SD	T	I_s	検定比 I_s/I_{so}	判定
1	14,487	1.000	1.352	1.00	CS	1.352	0.800	0.800	0.866	1.55	OK

2. 今帰仁村中央公民館劣化調査結果

1. 総合評価

- ・鉄筋腐食度調査において劣化度 III (中度・要補修)と判定される。
屋根ひび割れ部直下で雨漏り跡が確認されており、貫通したひび割れと判断される。貫通したひび割れは雨水等劣化要因の侵入を容易にし、鉄筋腐食を特に促進させるので早期の補修を推奨する。
- ・中性化寿命説では中性化が鉄筋位置(かぶり厚)に到達するまでとされているが^(文献-1)、今回の測定結果では、最大46.3mmで、かぶり厚の関係基準の最小値 30mmに到達しており、中性化に起因する鉄筋腐食が進行していると推測される。
- ・塩化物イオン濃度については今回未調査であるが、別途行われた調査結果^(文献-2)では、平均 約 3kg/m³ となっており、鉄筋腐食限界値 1.75kg/m³ を大きく上回っている。次頁参照

文献-1:鉄筋コンクリート造建築物の耐久設計施工指針(案)・同解説(日本建築学会)

文献-2:「RC補修のガイドラインについて」東京理科大学 今本啓一

沖縄県ヘリテージマネージャー養成講習会

2. 各種調査・試験結果及び劣化度評価・補修要否一覧

① 鉄筋腐食度測定

劣化度等	健全部 劣化度 II (軽度) 劣化部周囲 III (中度)	補修要否	必要
評価値	腐食度に応じてグレード I ~ V で評価	さび評点は各々グレードに対して	0,1,3,5,6
測定値	劣化グレードは健全部 II (評点 1), 劣化部近傍 III (評点 3)		
記事	測定箇所の健全部以外のひび割れ直下では、鉄筋錆の進行が推測される。		

② 中性化深度測定

劣化度等	劣化度 III (重度)	補修要否	必要
評価値	一般標準かぶり厚さ=30mm以上、かぶり厚さ実測値平均=23mm		
測定値	中性化深さ = 31.0~46.3mm		
記事	一般標準かぶり厚さ以上 中性化進行速度も通常より早い		

※ コンクリート中の塩化物イオン濃度試験 ※試験値は上記「文献-2」から引用することとし、今回調査無しとした。

劣化度等	—	補修要否	必要
評価値	含有塩化物イオン濃度の限界値=1.75 kg/m ³ 以下		
測定値	平均 3.0 kg/m ³ (今本教授 研究結果より)		
記事	鉄筋腐食限界値(1.75kg/m ³)を大きく上回る。		

③ ひび割れ・浮き等目視、一部打診調査

劣化度等	—	補修要否	必要
評価値	漏水の有無、コンクリート剥落・鉄筋露出等		
測定値	屋外ひび割れからの直下漏水、剥落・鉄筋露出部多数		
記事	劣化箇所は目視でもはっきり確認できる。		

3. 今帰仁村コミュニティセンター劣化調査結果

1. 総合評価

- ・一般的に鉄筋腐食度は劣化度 I 評点0で比較的健全性が維持されている。
しかし、ひび割れ部では局部的に錆びが進行していると推測される。
- ・中性化寿命説では中性化が鉄筋位置(かぶり厚)に到達するまでとされている^{注1}が、今回の測定結果では、最大36.0mmで、かぶり厚の関係基準の最小値 30mmより深い、かぶり厚実測値平均53.9mm以下であるので、劣化への影響は小さい。
- ・塩化物イオン濃度は、平均0.409kg/m³で、鉄筋腐食限界値とされる1.75kg/m³は十分下回っているので劣化への影響は殆ど小さい。
- ・ひび割れの殆どは「要補修」と評価される。直下の鉄筋の錆が推測され、早い段階での補修を推奨する。

注1:鉄筋コンクリート造建築物の耐久設計施工指針(案)・同解説(日本建築学会)

2. 各種調査・試験結果及び劣化度評価・補修要否一覧

① 鉄筋腐食度測定

劣化度等	表面健全部 劣化度 I (ほぼ健全)	補修要否	不要
評価値	腐食度に応じてグレード I ~ V で評価	さび評点は各々グレードに対して0,1,3,5,6	
測定値	劣化グレードは健全部 I (評点 0)		
記事	現在浮き、剥落の発生している部分では、鉄筋錆の進行が推測される。		

② 中性化深度測定

劣化度等	劣化度 I (軽度) ~ III (重度)	補修要否	緊急性はなし、予防保全策推奨
評価値	一般標準かぶり厚さ(30mm)以下、かぶり厚実測平均値= 53.9mm		
測定値	中性化深さ = 18.2~36.0mm		
記事	中性化深度の最大が36mmであるが、かぶり厚実測値50mm以下である。		

※ コンクリート中の塩化物イオン濃度試験 ※鉄筋腐食の要因となるが今回未調査 従前記録を採用

劣化度等	—	補修要否	不要
評価値	含有塩化物イオン濃度の限界値=1.75 kg/m ³ 以下		
測定値	平均 0.409 kg/m ³		
記事	鉄筋腐食限界値(1.75kg/m ³)を下回る。		

③ ひび割れ・浮き等目視、一部打診調査

劣化度等	—	補修要否	必要
評価値	漏水の有無、コンクリート剥落・鉄筋露出等		
測定値	庇底面、剥落・鉄筋露出部多数 屋内・屋外 要補修 ひび割れ多数		
記事	ひび割れは劣化要因を容易に侵入させるので鉄筋腐食に大きく影響を与える。		

